

SYLLABUS

-講義概要- 2026年版

旭川莊厚生専門学院

看護学科

目次

分野「人を敬う」

敬天愛人

ページ数

医療福祉の心	K-1	9
人権と倫理	K-2	10
障がいがある人の理解と支援	K-3	11
障がい者福祉	K-4	12
子ども看護実習Ⅱ（発達障がいがある子どもの支援）	K-5	13
障がいがある人の理解と支援実習	K-6	14

他者との関係構築

援助的人間関係の基礎	K-7	15
医療現場で活用できる英語	K-8	16
文章表現探究	K-9	17
情報リテラシー	K-10	18

分野「自分を育てる」

看護の土台

看護のためのコミュニケーション	K-11	20
看護関係法規	K-12	21
看護ための教育学	K-13	22
看護学概論	K-14	23
看護に共通する基本技術	K-15	24
日常生活行動を支える技術Ⅰ（食べる・排泄する）	K-16	25
日常生活行動を支える技術Ⅱ（清潔・移動・休息）	K-17	26
治療過程にある対象者を支える技術Ⅰ（症状・経過）	K-18	27
治療過程にある対象者を支えるⅡ（治療・処置）	K-19	28
看護プロセスのための基礎	K-20	29
ヘルスアセスメント	K-21	30
看護と倫理	K-22	31
看護におけるマネジメント	K-23	32
医療安全	K-24	33
基礎看護学実習Ⅰ	K-25	34
基礎看護学実習Ⅱ	K-26	35

自己の発展

思考の基盤	K-27	36
キャリアマネジメントⅠ	K-28	37
キャリアマネジメントⅡ	K-29	38
専門職業人としての接遇	K-30	39

分野「看護の対象の理解」

人のくらしの理解

ページ数

文化と生活	K-31	41
看護のための人間理解	K-32	42
家族看護論	K-33	43
公衆衛生	K-34	44
社会保障	K-35	45
社会福祉	K-36	46
地域でくらす人を支えるしくみ	K-37	47
地域・在宅でくらす人への看護	K-38	48
災害に備えるくらしと看護	K-39	49
成人看護学概論	K-40	50
老年看護学概論	K-41	51
小児看護学概論	K-42	52
母性看護学概論	K-43	53
精神看護学概論	K-44	54
地域・在宅でくらす人を支える看護実習	K-45	55
地域・在宅で療養する人を支える看護実習	K-46	56
子ども看護実習 I (子どもの支援)	K-47	57

健康の理解

解剖生理学 I (細胞と動くしくみ)	K-48	58
解剖生理学 II (消化吸収と神経)	K-49	59
解剖生理学 III (呼吸と循環)	K-50	60
解剖生理学 IV (内部環境と調整)	K-51	61
生命維持に必要な栄養のはたらき	K-52	62
病理学	K-53	63
疾病と治療 I (呼吸循環機能障害)	K-54	64
疾病と治療 II (栄養代謝障害)	K-55	65
疾病と治療 III (内部環境・生体防御機能障害)	K-56	66
疾病と治療 IV (運動・感覚機能障害)	K-57	67
侵襲的治療 I (がんの治療)	K-58	68
侵襲的治療 II (手術療法)	K-59	69
臨床薬理学	K-60	70
微生物と感染症	K-61	71
高齢者の健康生活と支援	K-62	72
子どもの発達と支援	K-63	73
こころの健康と支援	K-64	74

分野「看護の理解と創造」

看護の理解

ページ数

地域・在宅で療養する人への看護Ⅰ（多職種との連携）	K-65	76
地域・在宅で療養する人への看護Ⅱ（発達段階）	K-66	77
クリティカルケアを必要とする人への看護	K-67	78
生活の再構築を必要とする人への看護	K-68	79
セルフマネジメントを必要とする人への看護	K-69	80
緩和ケアを必要とする人への看護	K-70	81
高齢者の健康障害と看護	K-71	82
子どもの健康障害と看護	K-72	83
命をはぐくむしくみと看護	K-73	84
健康に障害がある母子への看護	K-74	85
精神に障がいがある人への看護	K-75	86
クリティカルケア実習	K-76	87
セルフマネジメント看護実習	K-77	88
療養生活を支える看護実習	K-78	89
命をはぐくむ人への看護実習	K-79	90
精神看護実習	K-80	91

看護の創造

看護に活かす病態生理	K-81	92
看護に活かす疾病と治療	K-82	93
研究的思考と看護理論	K-83	94
看護研究の実際	K-84	95
日常生活行動を支える技術評価	K-85	96
在宅での医療管理と看護	K-86	97
成人の健康レベルに対応した看護プロセス	K-87	98
高齢者の療養生活を支える看護プロセス	K-88	99
子どもを支援するための看護プロセス	K-89	100
命をはぐくむ人への看護プロセス	K-90	101
精神に障がいがある人を支える看護プロセス	K-91	102
国際・災害看護	K-92	103
看護のマネジメント実習	K-93	104
看護の統合実習	K-94	105

【旭川荘厚生専門学院看護学科 教育課程独自体系】

1. 教育目的

人間尊重と高い倫理観をもち、人の命とくらしを支える看護実践の基盤を身につけ、社会福祉事業の推進に貢献できる看護師を育成する。

2. ディプロマ・ポリシー（身に付く力）

- (1) 人間尊重と高い倫理観をもとに行動する力
 - ・相手の気持ちを考えた気遣い、思いやり、配慮ができる。
 - ・誠実で多様な価値観を尊重し倫理的判断能力を身につけている。
- (2) 人の命とくらしを支える基盤となる看護を実践する力
 - ・対象者の状況に応じて最善で最良な看護を実践する力を身につけている。
 - ・あらゆる健康レベルにある人のくらしの実現のために考え、看護を実践する力を身につけている。
- (3) 経験したことから内省的に学び成長しつづける力
 - ・自己評価・他者評価を受け入れ、自己理解を深め、常に目標をもって努力し続けることができる。
 - ・リフレクションをとおしてメタ認知、批判的内省的省察、課題探究力を高めることができる。
- (4) 様々な人々とともに目標に向かって協働する力
 - ・チーム医療を担う一員として自己の役割、多職種の役割を理解し、連携・協働する能力を身につけている。
 - ・優先順位を考えた時間管理ができ、学校・臨床現場において組織の一員としての自覚をもって看護学生としての責務を遂行できる。
- (5) 社会の動向に関心をよせ、社会福祉事業の推進に貢献できる力
 - ・社会や保健医療福祉の動向に関心をもち、広い視野で看護の役割と責任を考えることができる。
 - ・地域の医療福祉ニーズを科学的根拠に基づいて把握し地域社会の文化観、生活観に根ざした社会福祉事業の推進について考えることができる。

3. カリキュラムポリシー

高い倫理観をもち人の命とくらしを支える看護実践の基盤を身につけた看護師を育成するため、医療福祉の心をもち、誠実ですべての人を尊重し、対象を「わかろう」とする深い関心を寄せる基本姿勢を養い、地域でくらす人々を大切にするための教育内容を設定した。また、独自の取り組みとして「人を敬う」「自分を育てる」「看護の対象の理解」「看護の理解と創造」の4分野を設定し、「敬天愛人」「他者との関係構築」「看護の土台」「自己の発展」「人とくらしの理解」「健康の理解」「看護の理解」「看護の創造」の8領域に、指定規則で定める「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」の教育内容を包含した独自のカリキュラムを編成した。

4. 各分野の考え方や科目設定理由

分野：人を敬う

対象者の尊厳と権利を擁護する能力を備え、誠実ですべての人を尊重する倫理的判断能力を育成する。また、意思決定を支え対象を「わかろう」とする深い関心を寄せる姿勢を養い、対象を中心とした看護を提供するため、援助的人間関係を形成する基盤育成を目的にこの分野を設定し、領域を「敬天愛人」「他者との関係構築」とした。

敬天愛人では、旭川荘の理念である“人間尊重の精神”を基盤とし、障がいがある人の理解と支援をとおして人間の尊厳を考えるとともに、対象者の権利を理解する。さらに、対象者の立場に立ち意思決定を支え、擁護的な立場で倫理に基づく行動ができる能力を育成するため、「医療福祉の心」など実習も含め6科目を設定した。ここでは、本学で学ぶ強みを活かせるよう科目「医療福祉の心」を新設した。総合医療福祉施設である旭川荘の理解を深め、医療福祉を医療と福祉が融合し一体となったものにとらえ、対象の立場で倫理に基づく看護を実践する基盤となる心を養う内容とした。

他者との関係構築では、対象者を“わかろう”とする基本的態度により信頼関係を形成する能力を養う。また、看護・医療におけるコミュニケーションの基盤となる援助的人間関係を構築するために必要な自己理解を深め、対象者と自分の境界を尊重しながら接近的行動を取ることができる能力を育成するため、「援助的人間関係の基礎」など4科目とした。ここでは、対象者を理解するために必要な正確な情報を適切に選択し判断できるよう、情報の取り扱い及び共有の方法を理解し、情報通信技術を活用するための基礎的能力を養う科目として「情報リテラシー」の教育内容を変更した。

分野：自分を育てる

看護に共通する基礎的知識や技術を身につけ、科学的根拠に基づく看護実践に必要な臨床判断を行う看護師としての土台を築く。さらに看護職としての専門性を生涯にわたって主体的かつ継続的に発展させていく基盤を養うことを目的にこの分野を設定し、領域を「看護の土台」「自己の発展」とした。

看護の土台では、看護理論や技術、展開方法を学び、コミュニケーションやフィジカルアセスメントを強化し、対象者の状況にあわせて科学的根拠に基づく看護実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を育成する。また、安全に看護技術を適用する方法の基礎を学び、対象となる人に最も良質な看護を提供する仕組みを理解し、医療チームの一員として看護をマネジメントできる基礎的能力を養うため、「看護のためのコミュニケーション」などの科目と実習も含め16科目とした。ここでは、科目「看護プロセスのための基礎」において看護の展開方法を理解し、対象者の状況に応じた科学的根拠に基づく看護を計画するための土台を築くことを目的とした。

「自己の発展」では、看護職としての専門性を生涯にわたって主体的かつ継続的に発展させていくことができる自己教育力を育成するため「思考の基盤」など4科目とした。ここではすべてを新設科目とした。科目「思考の基盤」では、アクティブラーニング等を活用し分野・領域に関わらず看護の学びの基礎を身につけ、自ら課題を発見し主体的に解決策を考えるプロジェクト学習をとおして看護を科学的に思考し、臨床判断能力の基礎を身につける内容とした。科目「キャリアマネジメントⅠ」では、自分のキャリアを振り返り、強みを認識し自己肯定感や自尊心を高め、客観的に自分自身を理解する。そのうえで自由で主体的に将来の展望をもち自分に合った職場選択を支える内容とした。科目「キャリアマネジメントⅡ」は、看護を学び自身の看護観を明確にもつことを支援する。また、社会人基礎力の把握などにより看護師になる自己を高め、専門的能力を生涯にわたって主体的かつ継続的に発展させていくことができる自己教育力の育成を目指す内容とした。

分野：看護の対象の理解

看護師は健康に働きかけ人の命とくらしを支える専門職であるため、看護の対象を身体的・精神的・社会的・文化的側面を持つ“生活者”として総合的にとらえ、胎生期から死に至るまでの生涯各期の成長・発達・加齢の特徴に関する知識をもとに対象者を理解する。また、地域で生活する人々とその家族をとらえ、社会保障制度を理解し、地域包括システムの観点から多様な場において多職種と連携・協働しながら看護を提供する基礎的能力の育成を目的にこの分野を設定し、領域を「人とくらしの理解」「健康の理解」とした。

「人とくらしの理解」では、看護の対象者を地域で生活する人ととらえ、対象や療養の場の多様化に対応できる基礎を養い、くらしを取り巻く社会のしくみを幅広く理解するため、「文化と生活」などの科目と実習を含め18科目とした。ここでは、科目「地域でくらす人を支えるしくみ」を新設し、本学を中心としたコミュニティの構成員である障がい者、高齢者及び子どもなどを対象とする保健医療福祉のフォーマル・インフォーマルな制度やしくみを、情報通信技術の活用などをおして理解する内容とした。また、科目「災害に備えるくらしと看護」を新設した。本学周辺地域でくらす人々を対象に安心した生活を送るために、災害に備える基本的知識をもとに地域の特性をふまえて避難生活をイメージし、命とくらしを支える看護の役割を理解する内容とした。科目「地域・在宅でくらす人を支える看護実習」では、施設に入所して生涯を過ごす対象者への看護の役割を学ぶ。科目「地域・在宅でくらす人を支える看護実習Ⅰ」では、在宅復帰を目的としてリハビリテーションを行う対象者への看護の役割を学ぶこととした。この2科目は、今回地域の多様な場において多職種と連携・協働する看護の役割を理解することを目的に新設した。

「健康の理解」では、生命維持と健康増進を目的とする医療に必要な生命を維持するはたらき、情報を処理し出力する等の生命を活用するはたらき、正常な構造・機能と命を脅かす病気の原因や成り立ちと治療について学ぶ。さらに、看護学の観点から人体を系統的に理解し、健康・疾病・障害に関する観察力、判断力の強化につながる看護実践の基礎を身につけるため「解剖生理学Ⅰ（細胞と動くしくみ）」などの科目と実習も含め17科目とした。ここでは、科目「こころの健康と支援」を新設した。看護の対象を身体的・精神的・社会的・文化的側面をもつ“生活者”と総合的にとらえ、胎生期から死に至るまで生涯各期の成長・発達・加齢の特徴に関する知識を基に対象者を理解するにあたり、こころの健康が発達や生命維持、病気に大きく影響する。そのため、こころを働かせながら社会生活を営む対象者のこころの健康を守るための支援を学ぶ内容とした。

分野：看護の理解と創造

対象者の状況に応じ最善で最良な看護を実践するため、あらゆる健康レベルにある人を発達段階に応じて理解し、健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護について健康の状態やその変化に応じて科学的根拠に基づき必要な臨床判断を行い実践できる基礎的能力を養うことを目的にこの分野を設定し、領域を「看護の理解」「看護の創造」とした。

「看護の理解」では、学んだことを活用し、発達段階における特定の健康課題に対応するため、健康の保持増進や疾病予防における看護の役割や、環境が健康に及ぼす影響や予防策について理解する。また、健康レベルや変化に応じて看護を実践する基礎的能力を身につけるため「地域・在宅で療養する人への看護Ⅰ（多職種との連携）」など実習も含め16科目とした。ここでは、科目「地域・在宅で療養する人への看護Ⅰ・Ⅱ」を新設した。分野「看護の対象の理解」で得た知識を活用し、具体的事例をもとに演習を含め、地域で生活する多様な人々の発達段階に沿った看護の実際と多職種と連携・協働する看護の役割を理解する内容とした。臨地実習において、現行カリキュラムの成人看護学実習と老年看護学実習から、成人・老年看護学実習へ変更した。高齢化に伴う人口構造の変化に対応し、看護の対象となる成人期、老年期にある人を年齢で区分するのではなく、あらゆる健康レベルにある対象者への看護実践を特徴的に学ぶ内容とした。

「看護の創造」では、あらゆる発達段階や健康レベルにある対象者の状況に応じて最善で最良な看護を実践するために、看護の土台などで学んだことを活用し、看護過程を展開して科学的根拠に基づき必要な臨床判断を行い実践できることを目指す。

また、基礎的能力を育成するため、事例をもとに演習する。さらに、看護の役割を理解したうえでチームの一員となる自己を意識し発展的に看護を考える力を育成するため、「看護に活かす病態生理」など実習含め14科目とした。ここでは科目「看護に活かす病態生理」「看護に活かす疾病と治療」「精神障がいがある人を支える看護プロセス」を新設した。

「看護に活かす病態生理」「看護に活かす疾病と治療」では、看護学の観点から人体を系統立てて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を強化し、看護実践の基盤となるよう事例をとおして情報整理し、看護課題の優先順位を判断し理解する内容とした。「精神障がいがある人を支える看護プロセス」では、精神看護は信頼関係の構築をベースに絶えず関わりの中で展開されることを踏まえ、治療的関係構築のための技術を含む内容とした。

「臨地実習Ⅰ単位当たりの履修時間の考え方」

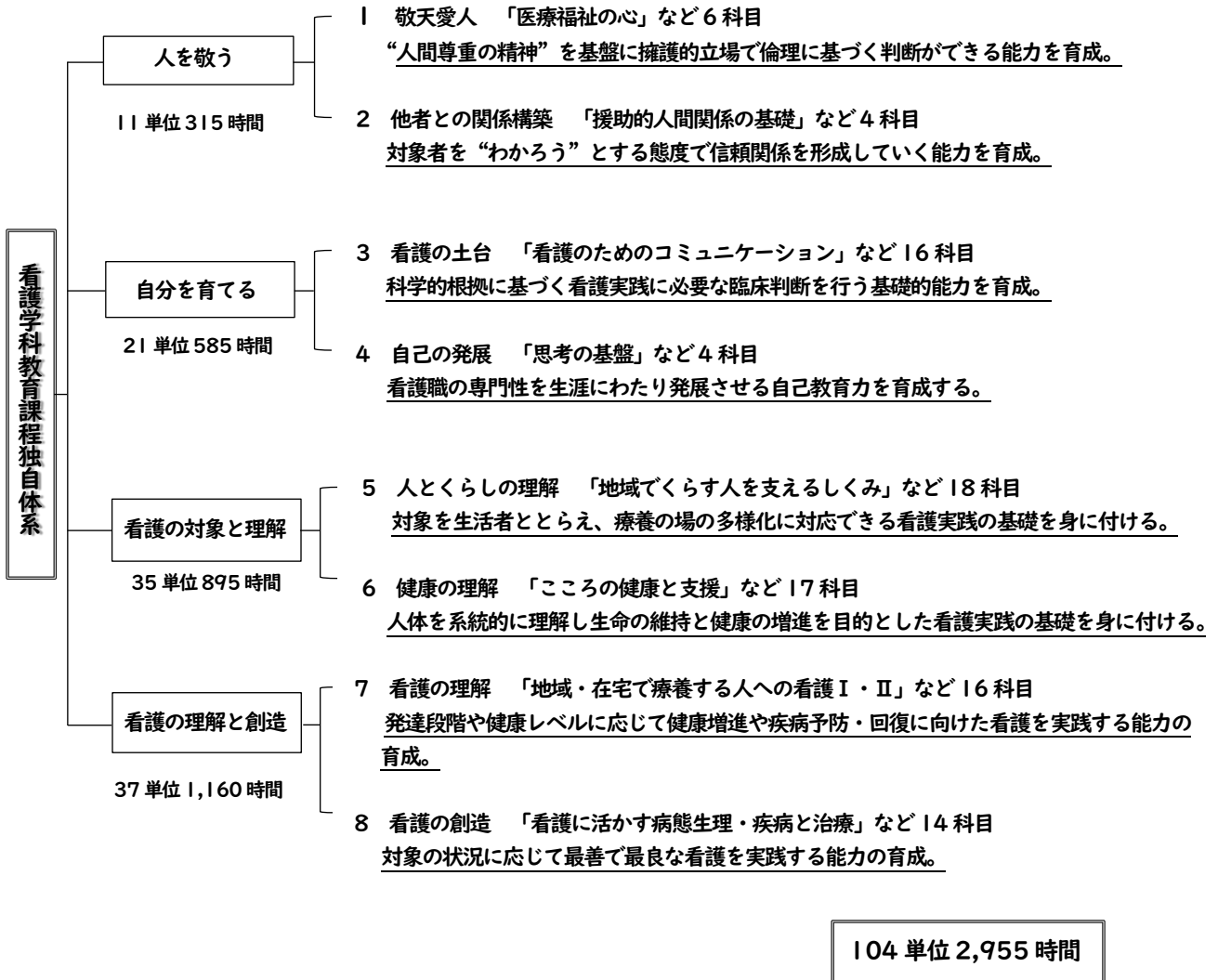
□科目「基礎看護学実習」

実際に体験したことの意味づけ、実習後のリフレクションにより知識と技術を看護実践に適用し、看護の理論と実践を結びつけて学ぶ看護の学び方の土台を築く内容であることから、1単位45時間とした。

□科目「基礎看護学実習」を除くその他の科目

指定規則の改正により、「1単位の授業時間数は、30時間から45時間の範囲で定めること」をうけ、3年次から開始できるよう調整し、1単位を40時間とした。また、臨地実習の前後に学内で学習時間を確保し、効果的な実習となるようにした。

【看護学科教育課程独自体系】



分野「人を敬う」

教育課程独自体系				指定規則			
分野	人を敬う	領域	敬天愛人	分野	基礎	領域	人間と生活・ 社会の理解
年次・学期	1年次・前期		担当科	看護学科			
科目名	医療福祉の心 講義・15時間・1単位		教員名	杉本 尚平・安藤 嘉 寺町 清二・矢吹 徹 他			
概要 及び 目的	旭川荘の設立理念である「敬天愛人」について学び、疾病や障害の有無に関係なく、あらゆる人の尊厳や人権を尊重した医療福祉の心を理解し、感性を磨く。						
到達目標	1. 講義や資料館等の見学をとおして、旭川荘の沿革と概要、理念について説明することができる。 2. 障害のある人への支援の実際について述べるすることができる。 3. ふれあい実習をとおして、相手を知ろうとする姿勢や尊重した関わりを実践する。						
授業内容	1. 旭川荘の沿革と概要① 旭川荘設立理念について 「敬天愛人」について学ぶ 2. 旭川荘の沿革と概要② 旭川資料館、敬愛館見学 3. 障がいのある人の理解① 重症心身障害者の理解 4. 障がいのある人の理解② 身体障害者の理解 5. 障がいのある人の理解③ 知的障がい・発達障がい者の理解 6. 障がいがある方の自立支援について 7. } ふれあい実習(愛育寮・旭川学園・いづみ寮) 8. }						
評価方法	1. 各授業終了後には、学んだ内容についてレポートする。(80%) 2. 全講義終了後「医療福祉にたずさわる専門職業人として自身の目指すもの」についてレポートする。(20%)						
テキスト	必要時資料配布						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	人を敬う	領域	敬天愛人	分野	基礎	領域	科学的思考の基盤
年次・学期	1年次・後期		担当科	看護学科			
科目名	人権と倫理 講義・30時間・1単位		教員名	柴岡 元			
概要 及び 目的	<p>「世界人権宣言第1条」では「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利について平等である。」とうたわれている。また、日本国憲法の特徴の一つは「基本的人権の尊重」である。看護職はもちろんのこと、どのような職業にあっても、民主主義の基本原則を学び、これを実践していくことは重要である。一方、「倫理」は法律や条例のような公的な権力による強制力はないが、人間として恥じることのない品格や善悪の判断力・道徳心を備えた内面的な規範である。</p> <p>「倫理」や「道徳」に基づいた様々な行為は、思想・文化・宗教などを異にした人々の間では必ずしも普遍的な正当性を持つとは限らないし、ましてや今日の国際化の時代においてはなおさらである。このため、価値観の多様性を認めながらも、普遍的な「人間の尊厳」を尊重するための合理的な根拠や原則を学び、高い専門性と倫理性を備えた看護者の養成が求められる。</p> <p>人権感覚にすぐれ、豊かな倫理性を身につけるためには、先ず何よりも社会人として幅広い知識と教養が必要である。そして知識や教養が知恵となり良識や見識となって、「社会人基礎力」を身につけることが求められる。昨今の高度な科学技術（テクノロジー）の進展に伴って、生命科学や情報化の進展が著しいが、こうした大きく変容する現代社会において、看護者の「看護倫理」は極めて重要な意味をもっている。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 日本国憲法の「基本的人権」の内容が理解できる。 2 現代社会の特徴と課題について説明することができ、生命科学や生命倫理について理解できる。 3 「社会人基礎力」を学び、常識や教養、礼儀やマナーなどについてその重要性を説明することができる。 4 すぐれた先人の偉業を学び、「生き方」の基本を理解することができる。 5 対人関係の基礎と自己実現について説明することができる。 						
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 「人権と倫理」の概要 2～5 日本国憲法と「基本的人権の尊重」 6 「看護職の「倫理綱領」を概観 7～8 「現代社会の特徴と課題」 <ol style="list-style-type: none"> ① 「大衆社会」とは何か ② 生命科学の発達と生命倫理 ③ 地域包括ケアシステムについて 9～10 「社会人基礎力」 <ol style="list-style-type: none"> ① 社会常識について ② 社会人と法について ③ コミュニケーションの基礎 11 「価値ある人生を歩む」 <ol style="list-style-type: none"> ① 「キャリア」について ② 新渡戸稲造にみる価値観 ③ 若いときにやっておきたいこと 12 生き方の「名言」 13 偉人の生き方 ① フランクフルト ② 神谷恵美子 ③ シュバイツァー ④ マザー・テレサ ⑤ 石井十次 14 対人関係の基礎と自己実現 <ol style="list-style-type: none"> ① 基本的な視点 ② 協調性とチームワーク ③ 偏見と先入観の除去 ④ 自分を理解し磨く 15 まとめ・テスト 						
評価方法	筆記試験 ・ 作文 ・ 出席点						
テキスト							
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	人を敬う	領域	敬天愛人	分野	基礎	領域	科学的思考の基盤
年次・学期	2年次・前期		担当科	看護学科			
科目名	障がいがある人の理解と支援 講義・15時間・1単位		教員名	石田 里奈			
概要 及び 目的	重症心身障害児者を理解し、かけがえのなり命への畏敬や対象者への尊厳や倫理、ノーマライゼーション、社会参加への理解、QOLの向上のための看護を学ぶ。また、多職種と連携し、保健医療福祉チームのなかの一員としての看護の役割を学ぶ。						
到達目標	重症心身障害者の方を理解し、障害のある方の命とくらしを守るための看護の役割を理解する。						
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 重症心身障害児者の歴史・概念・尊厳 2. 障害に関する法律 3. 重症心身障害児者の成長発達・発達の捉え方 4. コミュニケーションの特徴と障害への対応 5. 摂食機能障害の特徴・食事援助の方法・口腔ケア 6. 日常生活とQOL 7. 家族への看護について 8. 対象児者の看護を体験し、看護の役割を学ぶ。 						
評価方法	レポート課題(100%)						
テキスト	必要に応じ資料提示						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	人を敬う	領域	敬天愛人	分野	基礎	領域	科学的思考の基盤
年次・学期	2年次・前期		担当科	看護学科			
科目名	障がい者福祉 講義・15 時間 ・1 単位		教員名	赤木 剛			
概要 及び 目的	<p>「障害者白書」によると、日本国民の約8%弱の人が何らかの障がいを持っていると言われている。さらに、障がいを「環境とのやりとりの中で何らかの不全を抱えている状態」と捉えるならば、支援が必要な人の割合はもっと高くなる。それは無視をしてもよい割合ではなく、様々な「生活のしづらさ」を抱える人たちを含めずには社会は成り立たない。インクルージョンの概念に基づき、誰もが取り残されない社会の実現のためにはどのような支援が必要か、幅広く学んでいく。</p>						
到達目標	<p>障害者(支援を必要とする人)をささえるための、理念、制度、法律、支援手法などについて、基礎的な知識を習得できる。</p>						
授業内容	<p>○第1講「障がいとは何か？」 障がいとは何かについて、「環境との相互作用」の観点から理解していく。国際生活機能分類(ICF)や、各法律にみる「障がい」の定義について学んでいく。</p> <p>○第2講「障がい者福祉の理念」 障がい者福祉を支える各理念をみていく。ノーマライゼーション、インクルージョン、障害者権利条約などについて学んでいく。</p> <p>○第3講「障がい者福祉制度の変遷」 1997年からの障害福祉基礎構造改革を経て、障がい者に対する支援が一元化されるようになった。また、障がいの概念も広がってきている。障がい者福祉制度の変遷について学んでいく。</p> <p>○第4講「障がい者福祉を支える現在の法体系」 現在、障がい者の生活を支える制度、法律をみていく。障害者虐待防止法、障害者差別解消法、障害者総合支援法などについて学ぶ。</p> <p>○第5講「障がいの概念の広がりについて」 私たちには、他者が抱えている「生活のしづらさ」に共感し、それに対してどれだけ配慮・支援ができるのかが問われている。発達障害を中心に、「理解をすることと支援をすること」について学んでいく。</p> <p>○第6講「障がい者福祉の関連施策」 支援が必要な人の生活を総合的に支える「ケアマネジメント」の考え方を通じて、障がい者の生活とその支援について学んでいく。</p> <p>○第7講「障がいに対するまなざしと支援者のこころ」 現代でも障がいに対するステレオタイプの差別意識が払拭されているとは言い難い。障がい者をどのような視点で、どのような倫理観をもって支援をすべきか、一緒に考えていく。</p> <p>○第8講 終講試験</p>						
評価方法	1. 終講試験のみで評価(100点満点)						
テキスト	<p>社会保障・社会福祉 医学書院</p> <p>必要に応じ資料提示</p>						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	人を敬う	領域	敬天愛人	分野	専門	領域	小児看護学
年次・学期	3年次・前後期		担当科	看護学科			
科目名	子ども看護実習Ⅱ (発達障害がある子どもの支援) 実習・40時間・1単位		教員名	看護学科教員			
概要及び目的	障がいのある子どもとその家族を理解し、健やかな成長発達を促すために必要な支援について学ぶ。この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。						
到達目標	児童発達支援センターや児童発達支援事業所に通園している子どもと関わり、一人ひとりの特性に応じた関わりの重要性和、家族への支援の必要性を学ぶ。						
授業内容	<p>※詳細は実習要項参照</p> <p>【実習場所】 マルベリー旭川荘またはみどり学園</p>						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて評価を行い、合格は60点以上とする。 ・合否の可否は審議し、決定する。 						
テキスト	<p>実習要項</p> <p>小児看護概論・小児臨床看護総論 医学書院</p> <p>小児臨床看護各論 医学書院</p>						
備考	<p>参考文献</p> <p>戸部けいこ 著「光とともに～自閉症児を抱えて～」:秋田書店</p> <p>吉田友子 著「その子らしさ」を生かす子育て:中央法規</p>						

教育課程独自体系				指定規則			
分野	人を敬う	領域	敬天愛人	分野	専門	領域	看護の統合と実践
年次・学期	3年次・前期・後期		担当科	看護学科			
科目名	障がいがある人の理解と支援実習 実習・80時間・2単位		教員名	看護学科教員			
概要 及び 目的	障がいがある人を理解し、適切な支援を行うための看護の役割を理解する。 この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。						
到達目標	重度の知的障害と身体障害のある人のかけがえのない命と人権を守り、よりよい生活を送るための看護の役割を理解する。						
授業内容	<p>※詳細は実習要項参照</p> <p>実習場所</p> <p>旭川荘療育・医療センター</p>						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて評価を行い、合格は60点以上とする。 ・合否の可否は審議し、決定する。 						
テキスト	<p>在宅看護論 医学書院</p> <p>社会福祉 医学書院</p> <p>重症心身障害療育マニュアル 医歯薬出版</p> <p>重症心身障害児のトータルケア 新しい発達支援の方向性を求めて へるす出版</p>						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	人を敬う	領域	他者との関係構築	分野	基礎	領域	科学的思考の基盤
年次・学期	1年次・前期・後期		担当科	看護学科			
科目名	援助的人間関係の基礎 講義・30 時間・1単位		教員名	花房 香・田中 いづみ			
概要 及び 目的	自分自身の傾向やコミュニケーションのあり方を把握し、自己分析し理解する。さらに看護師として援助者自身及び対象者の心理について学び、援助的人間関係の基礎能力を身につける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階における心理的特徴や課題を理解できる。 ・児童虐待、依存、死別などによる心理的影響やその支援について理解できる。 						
授業内容	<p>花房(15時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係の理解 2. 自己認知・アンガーマネジメント 3. 対人認知 4. 対人関係と葛藤 5. 態度と態度変化 6. 援助行動 7. 集団と個人 8. 中間試験 <p>田中(15時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. エリクソンの発達課題 10. 乳幼児期の人間関係 11. 児童期・青年期における人間関係 12. 成人期・高齢期における人間関係 13. 児童虐待 14. アディクションと共依存 15. 対象喪失と悲嘆 16. 終講試験 						
評価方法	中間試験(100点) 終講試験(100点) で実施、最終的に平均点で評価						
テキスト	人間関係論 医学書院 新看護心理学 ナカニシヤ出版						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	人を救う	領域	他者との関係構築	分野	基礎	領域	人間と生活・社会の理解
年次・学期	1 年次・前期		担当科	看護学科			
科目名	医療現場で活用できる英語 講義・30 時間・1 単位		教員名	柴田 みさえ			
概要及び目的	<p>病気やケガで病院を訪れる外国人とのコミュニケーションを円滑にするための会話を中心に、各場面における医療用語や表現を活用できる能力を養う。</p> <p>さらに、将来、臨床の現場で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てることを目的とする。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・英語で簡単な問診ができる。 ・基本的な英語で入院、外来患者とコミュニケーションがとれる。 ・バイタルサインを測定し、英語で説明できる。 ・院内の備品、看護物品を英語で説明できる。 ・体、内臓、症状、薬の名称を覚える。 						
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction テキストの使い方・授業の進め方・評価方法 2 Chapter 1 Welcoming a Patient 患者の案内・病院内施設・病室内備品 3 Chapter 2 Taking Vital Signs バイタルサインを測る機器類と測定・看護物品 4 Chapter 3 Pain Assessment 痛みを表す表現・痛みの問診術・体の部位名 5 Chapter 4 Feeling So Sick 様々な症状 6 Chapter 5 Transferring a Patient 体位変換・動きの表現・歩行補助機器 7 Chapter 6 Medical Departments 診療科と専門医・検査のための表現・内臓の名称 8 Chapter 7 Personal Care 日常生活援助表現・身だしなみ用具・病院名の職員名 9 Chapter 8 Giving Medication to a Patient 薬剤の種類・投薬指示表現 10 Chapter 9 Elimination (Bowel movement / Urination) 排泄の表現 11 Chapter 10 Chronic Diseases 慢性疾患とは？・患者情報収集 12 Chapter 11 Critical Care / Operating Room 急性期・集中治療室用語 13 Chapter 12 Pregnancy Check-up 妊婦検診 14 カルテで用いられる略語・救急処置に必要な確認・ドナーカード他 15 終講試験 						
評価方法	1. 筆記試験(65%)、小テスト・発表(20%)、出席(15%)で評価する						
テキスト	Taking with Your Patients in English SEIBIDO(成美堂) 必要に応じて資料を配布する						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	人を敬う	領域	他者との関係構築	分野	基礎	領域	科学的思考の基盤
年次・学期	1 年次・前期		担当科	看護学科			
科目名	文章表現探究 講義・30 時間・1 単位		教員名	廣本 勝裕			
概要及び目的	様々な形態の文章を題材に、「話す・聞く・書く・読む」の総合的な言語活動を通じて、文章の表現力と理解力を高めることを目的とします。☆印の時間は、特に、他者への理解を深め、伝え合う力を伸ばすことに配慮します。						
到達目標	○ 国語による的確な理解と効果的な表現の能力を発揮して、患者及びその家族との信頼関係を確立するとともに、医師をはじめ医療従事者との緊密な連携を通じて適切な医療を推進に寄与する。						
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 科目のオリエンテーション 「これまでの国語学習を振り返り、『文章表現探究』の学習内容を把握しよう。」 2 表現と理解の基礎(1) 「日本語の特徴と文法の規則を再確認し、表現と理解の基本を確立しよう。」 3 表現と理解の基礎(2) 「漢字・仮名・その他の記号などの表記の原則を確認しよう。」 4 適切に表現し理解するために (1) 「多様な文章形態の特徴を理解し、テーマを決定して構想を検討しよう。」 5 適切に表現し理解するために (2) 「構成を工夫し、根拠や論拠を明確にして自分の意見を展開しよう。」 ☆ 6 適切に表現し理解するために (3) 「情景や心情の描写を取り入れながら、自分の思いを随筆に表現しよう。」 7 表現と理解を広げるために 「語句・語彙(熟語、慣用句、故事成語、同音異義語等)を豊かにしよう。」 8 表現と理解を確かにするために 「表現技法(修辞法)を活用し、叙述や描写の精度を高めよう。」 ☆ 9 表現と理解を高めるために 「推敲や校正の作業を通じて、文章力の向上を図ろう。」 10 敬語法の理解と敬語表現の実践 「相手や場面を念頭に置いた敬語の適切な使い方を習得しよう。」 11 各種の情報の理解をもとにした表現の展開 「統計や調査結果等の資料を分析・検討して、感想や意見をまとめよう。」 ☆ 12 様々な文章形態の表現と理解(1) 「説明的文章の要約や文学的文章の詳述に習熟しよう。」 13 様々な文章形態の表現と理解(2) 「短編小説の様々な手法を参考に、物語を創作しよう。」 14 様々な文章形態の表現と理解(3) 「正しくわかりやすく伝えるための総合的な告知の表現を工夫しよう。」 ☆ 15 まとめの学習 「これまでの学習を振り返り、学習の成果を確認しよう。」 						
評価方法	◎各授業で取り組んだ課題の提出状況 (50%) ◎第 15 時間目の「まとめの学習」の達成状況 (50%)						
テキスト	○授業ごとに配付するプリントを基本テキストとして授業を行います。						
備考	○授業には、「国語辞典(電子辞書)」(※現在持っているものでよい)を持参してください。 ○授業で用いた教材・資料を保存し活用するための「フラットファイル」(厚さ 1.5 cm 程度の標準的なものでよい)を 1 部用意してください。						

教育課程独自体系				指定規則			
分野	人を敬う	領域	他者との関係構築	分野	基礎	領域	人間と生活・社会の理解
年次・学期	1年次・前期		担当科	看護学科			
科目名	情報リテラシー 講義・演習・30時間・1単位		教員名	渡邊 佳代・三上 史哲			
概要及び目的	保健・医療分野におけるコンピューター化の波は著しく、電子カルテシステムなど病院情報システムの導入に伴い、看護業務にもコンピューターを利活用する時代となった。そこで、本講義ではICT(情報通信技術)の活用をとおして、膨大な情報から適切かつ正確な情報を選択、判断するための基礎的能力を身につけるために、医療における情報とは何かを学び、実際にパソコンを使用しながら医療現場で発生する情報の収集、加工、分析を行い、その情報を発信するための資料作成を行う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保健医療情報の特徴や医療情報システム、情報倫理、患者の権利、個人情報保護等について説明できる。 ・Microsoft Word、Microsoft Excel、Microsoft PowerPoint をそれぞれの用途に応じて活用できる。 						
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報の定義と特徴、情報と社会、保健医療と情報 2. 看護と情報、医療における情報システム 3. 情報倫理と医療、患者の権利と情報、個人情報の保護 4. コンピュータリテラシーとセキュリティ、Microsoft Word による文書作成 5. 調査によるデータ収集方法、Microsoft Excel の概要 6. 統計解析1、Microsoft Excel 関数による基本統計量算出 7. 統計解析2、Microsoft Excel 分析ツールによる基本統計量算出 8. 統計解析3、Microsoft Excel ピボットテーブルによる分割表、グラフ作成 9. 既存の情報の収集方法、インターネットによる情報収集 10. クリニカルパスの作成、Microsoft Excel による文章作成 11. 文字情報の整理1、報告書の概要 12. 文字情報の整理2、Microsoft Word による報告書作成 13. 情報の発表とコミュニケーション1、Microsoft PowerPoint の基本操作 14. 情報の発表とコミュニケーション2、報告書から発表用スライドを作成 15. まとめ・テスト 						
評価方法	筆記試験(45%)、パソコン演習課題(45%)、受講態度(10%)で評価する。						
テキスト	看護情報学 医学書院、プリント配布						
備考	USBメモリを用意してください。						

分野「自分を育てる」

教育課程独自体系				指定規則			
分野	自分を育てる	領域	看護の土台	分野	基礎	領域	科学的思考の基盤
年次・学期	1年次・前期・後期		担当科	看護学科			
科目名	看護のためのコミュニケーション 講義・30 時間・1単位		教員名	岩本 美代子・大森 和子			
概要及び目的	コミュニケーションの原則や技術、カウンセリングの基本的技術について理解し、専門的なコミュニケーションをとおして看護の対象となる人々と適切で援助的な関係形成を構築できる力を身につける。						
到達目標	<p>(岩本み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アサーションを理解し、適切な言語表現ができる。 ・「傾聴」の意味を理解し、他者とのコミュニケーション時に実践できる。 ・障害の原因による対応を説明できる。 <p>(大森)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護者にとってのコミュニケーションの意義・重要性について説明できる。 ・コミュニケーションの成立過程に影響を及ぼす要因について説明できる ・適切な関係を構築するために自己の特性に気付くことができ、コミュニケーションにおける具体的な努力目標を表現することができる ・カウンセリングの目的や方法について説明できる。 ・医療現場におけるコミュニケーションエラーについて説明できる。 ・発達段階による対象者(小児、老年期)とのコミュニケーションに関する特徴について説明できる。 						
授業内容	<p>岩本み(15時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションとは(言語・非言語、敬語など) 2. コミュニケーションとは(口頭・書面、道具的・自己充足的など) 3. アサーティブコミュニケーション 4. 援助者としての態度(傾聴、5つの態度など) 5. 援助者としての態度(傾聴演習など) 6~7. コミュニケーション障害への対応(感覚器、認知症、失語症、構音障害、意識障害等)演習含む 8. 中間試験 <p>大森(15時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護者にとってのコミュニケーションの意義・重要性 看護者としての専門的なコミュニケーションとは 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程 3. 適切な関係を構築するために自己の特性に気付く手がかりの一つとしてエゴグラムを実施(エゴグラムについて、結果/パターンの解説) 4. カウンセリングの目的や方法について 5. 傾聴技法演習 6. 医療現場におけるコミュニケーションエラーについて 7. 発達段階(小児、老年期)による対象者のコミュニケーションに関する特徴 8. 終講試験 						
評価方法	<p>(岩本み)：試験90点、レポート提出10点で100点満点 (大森)：試験80点と課題提出(自己の学びや気づきについて)20点で100点満点 最終的に、岩本み先生と大森先生の平均点で評価</p>						
テキスト	<p>人間関係論 医学書院 基礎看護技術 I 医学書院</p>						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	自分を育てる	領域	看護の土台	分野	専門基礎	領域	健康支援と社会保障制度
年次・学期	2 年次・前期		担当科	看護学科			
科目名	看護関係法規 講義・15 時間・1 単位		教員名	藤田 有香・監物 英男・寺岡 仁子			
概要及び目的	看護専門職者として、業務を遂行するために必要となる法規について基本的な知識を習得する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療提供施設に関する基本法を理解できる ・医療関係職について理解できる ・環境保全、公害対策についての施策・歴史を説明できる ・看護専門職者として、理解して知っておくべき法の説明ができる。 						
授業内容	<p>I 法の概念</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 法の概念 2. 法の分類 3. 衛生に関する法 <p>II 医事法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療法 2. 医療の資格 3. 医療を支える法 <p>III 環境法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境保全の基本法令 2. 公害防止の法令 3. 自然保護の法令 <p>III 薬務法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品：医薬品医療機器等法（医薬品・医薬部外品・化粧品・医療機器・再生医療等製品・（特定）生物由来製品・希少疾病医薬品・薬局・一般用医薬品等） 2. 医薬品医療機器の製造販売（GMP,先駆け審査指定制度等） 医薬品の販売・日本薬局方・医薬品の広告・行政による監督 毒物等：毒物及び劇物取締法、麻薬及び向精神薬取締法・指定薬物等 3. 再生医療等の安全性の確保等に関する法律、薬物の取締り法（麻薬等） 安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律、Pmda <p>V 労働法と社会基盤・個人情報保護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 労働に関する法 2. 社会基盤のための法 3. 個人情報保護に関する法 						
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験（100%） 2. 出席状況等 						
テキスト	看護関係法令 医学書院 主に配布資料						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	自分を育てる	領域	看護の土台	分野	基礎	領域	科学的思考の基盤
年次・学期	2 年次・ 前期		担当科	看護学科			
科目名	看護のための教育学 講義・30 時間・1 単位		教員名	檜原 靖			
概要及び目的	<p>本講は、教育学の基礎理論の学習を通して、支援者としての看護師活動の一助となる事を目指し、その資質・能力を養う。</p> <p>①教育の営みと人の発達を理解する。②学習・指導・評価そしてその工夫 ③看護師としてのキャリア開発のための学習、という3つの視点から講義を行う。</p>						
到達目標	教育学の看護師活動への効果的な活用について考察を深める視点を身につけることができる。						
授業内容	<p>単元Ⅰ オリエンテーション</p> <p>1. なぜ看護師をめざすのに「教育学」が必要なのか？ —教育的支援者としての看護師—</p> <p>2. 教育は人類に何をもたらしたのか？ —教育とは？教育の発生と教育の果たす役割— —生物の遺伝、著作「エミール」(ルソー)、生理的早産説(ポルトマン)—</p> <p>単元Ⅱ 人の発達過程の理解</p> <p>3. 人の発達段階と発達課題 — 一般的な発達を知り、各支援に生かす—</p> <p>4. 認知・自己意識・対人関係の発達について —認知能力の発達(ピアジェ) 自己意識の発達(エリクソン) 対人関係:社会化— —ホスピタリズムと愛情形成—</p> <p>単元Ⅲ 学習についての理解</p> <p>5. 人はどのように学習するのか？ —学習の領域 知識(認知的領域) 技能(精神運動的領域) 態度(情意的領域)—</p> <p>6. 学習意欲を高める技法とは？ —学習の動機づけの基本原理解 外発的動機づけと内発的動機づけ—</p> <p>単元Ⅳ 指導についての理解</p> <p>7. 指導者の役割とは？ —指導者の姿勢と6つの役割—</p> <p>8. 計画的な指導とは？ —わかりやすい学習目標(RUMBAIによるチェック)—</p> <p>単元Ⅴ 評価についての理解</p> <p>9. 評価の役割とは？ —評価の構成要素、評価主体・評価基準・評価時期—</p> <p>10. 効果を高める工夫とは？—目標に適した評価の選択—</p> <p>単元Ⅵ 効果的な指導と学習について</p> <p>11. 指導に役立つコミュニケーション技術とは？ —ラポール状態 傾聴 アサーション 非言語的コミュニケーション 発問 指示—</p> <p>12. 学習を深めるディスカッションの技法とは？ —ディスカッションの教育的意義と協同学習(バズ学習、シンク・ペア・シェア)—</p> <p>単元Ⅶ 看護師としての学習とキャリア開発</p> <p>13. 看護師としての学習とは？</p> <p>14. 看護師としてのキャリア開発とは？</p> <p>15. まとめ</p>						
評価方法	1. 出席点 15% 2. 講義内レポート 15% 3. テスト 70%						
テキスト	必要に応じて資料を配布。A4 2穴ファイルとマーカーを準備しておくこと。						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	自分を育てる	領域	看護の土台	分野	専門	領域	基礎看護学
年次・学期	1年次・通年		担当科	看護学科			
科目名	看護学概論 講義・30時間・1単位		教員名	岩本 美代子・山下 純子			
概要及び目的	<p>看護の対象となる人は、年齢や育った環境、価値観や人生観など一人ひとり異なる。その対象者に応じた看護を提供するためには、様々な知識、判断力、看護実践力が必要となる。</p> <p>また、看護師として問い続けるであろう「看護とは何か」また、「看護師とはどのような職業なのか」を探究し、看護師を志す者としての看護の考え方や姿勢、看護の機能と役割について学ぶ。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・看護の歴史の変遷とナイチンゲール、ヘンダーソンの看護の考え方について述べることができる。 ・看護の目的を述べることができる。 ・「人間」「健康」「環境」「看護」の概念を理解し、相互の影響を述べることができる。 ・保健師助産師看護師法における各看護職の定義や業務内容を理解し、多職種との業務内容との違いを述べるができる。 ・特定行為の制度や日本看護協会における認定制度の内容を述べるができる。 ・看護師の専門性を表現することができる。 						
授業内容	<p>「看護とは何か」について探究的に学ぶ。(15時間・岩本)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ナイチンゲールという人物、功績から看護の始まりの意味を理解する。 2. 「だれのために」「何のために」看護をしているのか。看護とは何かを考える。 3. ナイチンゲール・ヘンダーソンの看護の考え方を理解する。 4. 看護の発展と日本の職業的看護の発展 5~7. 「人間」「健康」「環境」「看護」の概念と相互の影響を理解する。 8. 中間試験 <p>「看護師とはどのような職業なのか」について探求的に学ぶ。(15時間・山下)</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 看護の役割と機能 10~11. 専門職としての看護 12~13. 看護における倫理と法 14~15. 看護実践の方法 16. 終講試験 						
評価方法	岩本:中間試験(100点) 山下:終講試験(100点)で実施し最終的に平均点で評価する。						
テキスト	<p>看護学概論 医学書院</p> <p>ナイチンゲール看護覚え書 現代社</p> <p>ヘンダーソン看護の基本となるもの 日本看護協会出版会</p> <p>よくわかる看護者の倫理綱領 照林社</p>						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	自分を育てる	領域	看護の土台	分野	専門	領域	基礎看護学
年次・学期	1年次・前期		担当科	看護学科			
科目名	看護に共通する基本技術 講義・演習 30 時間・1 単位		教員名	植木 敦子			
概要及び目的	看護実践において看護技術は重要である。この看護技術とは何か、看護技術の特徴、適切に実施するための要素、看護師ができる技術の範囲を学び、どのような技術にも共通する基本的知識と技術を身につける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・看護技術に共通する技術の特徴や要素を理解し、安全・安楽・自立・倫理の視点をもった看護技術を実践する必要性が理解できる。 ・感染予防の基礎知識を理解し、常に感染防止の行動を心がけることができる。 						
授業内容	<p>1. 看護技術を学ぶにあたって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術とは何か・看護技術の特徴・看護技術の範囲 ・看護技術を適切に実践するための要素 <p>2. 安全・安楽について ・安全・安楽の視点の重要性と責任</p> <p>3～4. 安全・安楽について ・感染を防止する技術</p> <p>5. 看護技術における倫理の必要性</p> <p>環境調整技術</p> <p>6. 過ごしやすい療養環境とは</p> <p>7～9. 演習：ベッドメイキング・リネン交換</p> <p>10. 演習：環境調整技術</p> <p>11. 快適な環境調整における看護師の役割</p> <p>体位を整える技術</p> <p>12. 適切な体位保持について</p> <p>13～14. 演習：体位変換、ポジショニング</p>						
評価方法	<p>1. 終講試験100%</p> <p>※但し、演習態度、事前学習の取り組み、提出状況に不備があればそれもふまえて評価する。</p>						
テキスト	基礎看護技術 I・II 医学書院						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	自分を育てる	領域	看護の土台	分野	専門	領域	基礎看護学
年次・学期	1年次・前期		担当科	看護学科			
科目名	日常生活行動を支える技術Ⅰ (食べる・排泄する) 講義・30時間・1単位		教員名	植木 敦子・松浦 祐美子			
概要 及び 目的	看護の視点から人間にとっての「食べる・排泄する」をとらえ、対象の日常生活行動を支えるための知識・技術・態度・倫理的判断を身に付ける。						
到達目標	日常生活行動(食べる・排泄する)の必要性が理解できる。 日常生活行動(食べる・排泄する)の実施の原理原則が理解できる。 日常生活行動(食べる・排泄する)を安全安楽に実施することができる。						
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食べることへの援助技術 <ul style="list-style-type: none"> ・食べることの意義と看護の視点・栄養状態や摂食能力のアセスメント 2. 食事の種類と形態 <ul style="list-style-type: none"> ・食べる姿勢と食べやすさ 3. 演習: 食事介助 4. グループワーク(対象者の状況に合わせた食事援助について) 5. グループワーク(対象者の状況に合わせた食事援助について) 6. プレゼンテーション 7. 排泄することへの援助技術 <ul style="list-style-type: none"> ・排泄の定義とメカニズム・排尿・排便移動動作のアセスメント 8. 自然排尿および自然排便をうながす援助 <ul style="list-style-type: none"> ・排泄姿勢と排泄のしやすさへの援助 9. 演習: 床上排泄援助(便器・尿器) 10. 演習: 床上排泄援助(おむつ交換) 11. 演習: 排泄援助(ポータブルトイレ) 12. グループワーク(対象者の状況に合わせた排泄援助について) 13. グループワーク(対象者の状況に合わせた排泄援助について) 14. プレゼンテーション 15. 終講試験 						
評価方法	終講試験 100%(食べる 40%・排泄 60%) ※但し、演習態度、事前学習の取り組みや提出状況に不備がある場合は、それも踏まえて評価する。						
テキスト	基礎看護技術Ⅱ 医学書院						
備考	参考図書: 看護技術がみえる MEDIC MEDIA						

教育課程独自体系				指定規則			
分野	自分を育てる	領域	看護の土台	分野	専門	領域	基礎看護学
年次・学期	1年次・後期		担当科	看護学科			
科目名	日常生活行動を支える技術Ⅱ (清潔・移動・休息) 講義・30時間・1単位		教員名	植木 敦子・松浦 祐美子			
概要及び目的	看護の視点から人間にとっての「清潔(更衣含む)にする、移動する、休息する」をとらえ、対象者の日常生活行動を支えるための知識・技術・態度・倫理的判断を身に付ける。						
到達目標	日常生活行動(清潔・移動・休息)の必要性が理解できる。 日常生活行動(清潔・移動・休息)の実施の原理原則が理解できる。 日常生活行動(清潔・移動・休息)を安全安楽に実施することができる。						
授業内容	1. 活動と休息を支える技術 日常生活における活動と休息・移動動作のアセスメント・休息への援助 2. 移乗、移送を支える援助技術 演習:車いすへの移乗・移送 3. 移乗、移送を支える援助技術 演習:ストレッチャーへの移乗・移送 4. 清潔にすることへの援助技術 心地よい清潔ケアへの配慮 5. 衣生活と身だしなみの援助 演習:臥床患者の寝衣交換、麻痺のある患者の寝衣交換、 点滴・ドレーンなどを留置している対象者への寝衣交換(和式寝衣、セパレートタイプ) 6. 身体の清潔への援助 演習:全身清拭(陰部洗浄含む) 7. 身体の清潔への援助 演習:全身清拭(陰部洗浄含む) 8. 頭皮・頭髪の清潔への援助 演習:洗髪(洗髪車・ケリーノパッド) 9. 頭皮・頭髪の清潔への援助 演習:洗髪(洗髪車・ケリーノパッド) 10. 部分浴への援助 演習:足浴・手浴 11. 部分浴への援助 演習:足浴・手浴 12. グループワーク(対象者へ安全、安楽な清潔援助を実施について) 13. プレゼンテーション 14. 看護師はおこなう清潔援助の意義について 15. 終講試験(筆記試験)						
評価方法	終講試験 100%(活動と休息 25%・清潔 75%) ※但し、演習態度、事前学習の取り組みや提出状況に不備がある場合は、それも踏まえて評価する。						
テキスト	基礎看護技術Ⅱ 医学書院						
備考	参考図書:看護技術がみえる MEDIC MEDIA						

教育課程独自体系				指定規則																																																		
分野	自分を育てる	領域	看護の土台	分野	専門	領域	基礎看護学																																															
年次・学期	2年次・前期		担当科	看護学科																																																		
科目名	治療過程にある対象者を支える技術Ⅰ (症状・経過) 講義・30時間・1単位		教員名	岡田 麻理子・賀川 奈美																																																		
概要及び目的	看護の視点から、主要な症状・経過をとらえ、健康問題に対する適切な医療支援技術を提供するための知識・技術・態度・倫理的判断を身につける。																																																					
到達目標	治療過程にある対象者を支えるために、原理・原則に従った技術を実践できる。																																																					
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業内容(主題)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>経口摂取困難のある対象者への看護</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>経管栄養を必要とする対象者への援助技術 技術内容:経管栄養</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td rowspan="2">排泄困難がある対象者への看護</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>排尿困難がある対象者への援助技術 技術内容:導尿</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>排尿困難がある対象者への援助技術 技術内容:導尿</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>排便困難がある対象者への援助技術 技術内容:浣腸</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>排便困難がある対象者への援助技術 技術内容:浣腸</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>呼吸困難のある対象者への看護</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>酸素療法が必要な対象者への援助技術 技術内容:中央配管式</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>酸素療法が必要な対象者への援助技術 技術内容:酸素ボンベ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>吸引・吸入を必要とする対象者への援助技術 技術内容:口腔</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>吸引・吸入を必要とする対象者への援助技術 技術内容:鼻腔</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>体温調節が必要な対象者への看護 体温調整を必要とする対象者への援助技術 技術内容:冷・温罨法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>終講試験</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							回数	授業内容(主題)	備考	1	経口摂取困難のある対象者への看護		2	経管栄養を必要とする対象者への援助技術 技術内容:経管栄養		3	排泄困難がある対象者への看護		4		5	排尿困難がある対象者への援助技術 技術内容:導尿		6	排尿困難がある対象者への援助技術 技術内容:導尿		7	排便困難がある対象者への援助技術 技術内容:浣腸		8	排便困難がある対象者への援助技術 技術内容:浣腸		9	呼吸困難のある対象者への看護		10	酸素療法が必要な対象者への援助技術 技術内容:中央配管式		11	酸素療法が必要な対象者への援助技術 技術内容:酸素ボンベ		12	吸引・吸入を必要とする対象者への援助技術 技術内容:口腔		13	吸引・吸入を必要とする対象者への援助技術 技術内容:鼻腔		14	体温調節が必要な対象者への看護 体温調整を必要とする対象者への援助技術 技術内容:冷・温罨法		15	終講試験	
回数	授業内容(主題)	備考																																																				
1	経口摂取困難のある対象者への看護																																																					
2	経管栄養を必要とする対象者への援助技術 技術内容:経管栄養																																																					
3	排泄困難がある対象者への看護																																																					
4																																																						
5	排尿困難がある対象者への援助技術 技術内容:導尿																																																					
6	排尿困難がある対象者への援助技術 技術内容:導尿																																																					
7	排便困難がある対象者への援助技術 技術内容:浣腸																																																					
8	排便困難がある対象者への援助技術 技術内容:浣腸																																																					
9	呼吸困難のある対象者への看護																																																					
10	酸素療法が必要な対象者への援助技術 技術内容:中央配管式																																																					
11	酸素療法が必要な対象者への援助技術 技術内容:酸素ボンベ																																																					
12	吸引・吸入を必要とする対象者への援助技術 技術内容:口腔																																																					
13	吸引・吸入を必要とする対象者への援助技術 技術内容:鼻腔																																																					
14	体温調節が必要な対象者への看護 体温調整を必要とする対象者への援助技術 技術内容:冷・温罨法																																																					
15	終講試験																																																					
評価方法	終講試験 100% ※但し、演習態度、事前学習の取り組みや提出状況に不備がある場合は、それも踏まえて評価する。																																																					
テキスト	基礎看護技術Ⅰ 医学書院 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 臨床看護総論 医学書院																																																					
備考																																																						

教育課程独自体系				指定規則																																																
分野	自分を育てる	領域	看護の土台	分野	専門	領域	基礎看護学																																													
年次・学期	2 年次・後期		担当科	看護学科																																																
科目名	治療過程にある対象者を支える技術Ⅱ (治療・処置) 講義・30 時間・1 単位		教員名	岡田 麻理子・賀川 奈美																																																
概要 及び 目的	看護の視点から、治療・処置をとらえ、健康問題に対する適切な医療支援技術を提供するための知識・技術・態度・倫理的判断を身につける。																																																			
到達目標	治療過程にある対象者の治療・処置に伴う看護技術を、原理・原則に従って実践できる。																																																			
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業内容(主題)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>治療に伴う看護</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td rowspan="5">薬物療法が必要な対象者への援助技術</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>薬物療法が必要な対象者への援助技術 技術内容: 与薬</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>薬物療法が必要な対象者への援助技術 技術内容: 皮下注射</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>薬物療法が必要な対象者への援助技術 技術内容: 筋肉内注射</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>薬物療法が必要な対象者への援助技術 技術内容: 点滴静脈内注射</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>検査に伴う看護 検体検査を受ける対象者への援助技術 技術内容:</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>生体検査を受ける対象者への援助技術 技術内容:</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>生体検査を受ける対象者への援助技術 技術内容: 採血</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>治療・処置に伴う看護 創傷処置を必要とする対象者への援助技術 技術内容: 無菌操作</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>創傷処置を必要とする対象者への援助技術 技術内容: 包帯法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>終講試験</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							回数	授業内容(主題)	備考	1	治療に伴う看護		2	薬物療法が必要な対象者への援助技術		3		4		5		6	薬物療法が必要な対象者への援助技術 技術内容: 与薬		7	薬物療法が必要な対象者への援助技術 技術内容: 皮下注射		8	薬物療法が必要な対象者への援助技術 技術内容: 筋肉内注射		9	薬物療法が必要な対象者への援助技術 技術内容: 点滴静脈内注射		10	検査に伴う看護 検体検査を受ける対象者への援助技術 技術内容:		11	生体検査を受ける対象者への援助技術 技術内容:		12	生体検査を受ける対象者への援助技術 技術内容: 採血		13	治療・処置に伴う看護 創傷処置を必要とする対象者への援助技術 技術内容: 無菌操作		14	創傷処置を必要とする対象者への援助技術 技術内容: 包帯法		15	終講試験	
回数	授業内容(主題)	備考																																																		
1	治療に伴う看護																																																			
2	薬物療法が必要な対象者への援助技術																																																			
3																																																				
4																																																				
5																																																				
6		薬物療法が必要な対象者への援助技術 技術内容: 与薬																																																		
7	薬物療法が必要な対象者への援助技術 技術内容: 皮下注射																																																			
8	薬物療法が必要な対象者への援助技術 技術内容: 筋肉内注射																																																			
9	薬物療法が必要な対象者への援助技術 技術内容: 点滴静脈内注射																																																			
10	検査に伴う看護 検体検査を受ける対象者への援助技術 技術内容:																																																			
11	生体検査を受ける対象者への援助技術 技術内容:																																																			
12	生体検査を受ける対象者への援助技術 技術内容: 採血																																																			
13	治療・処置に伴う看護 創傷処置を必要とする対象者への援助技術 技術内容: 無菌操作																																																			
14	創傷処置を必要とする対象者への援助技術 技術内容: 包帯法																																																			
15	終講試験																																																			
評価方法	終講試験 100% ※但し、演習態度、事前学習の取り組みや提出状況に不備がある場合は、それも踏まえて評価する。																																																			
テキスト	基礎看護技術Ⅰ 医学書院 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 臨床看護総論 医学書院																																																			
備考																																																				

教育課程独自体系				指定規則			
分野	自分を育てる	領域	看護の土台	分野	専門	領域	基礎看護学
年次・学期	2年次・前期		担当科	看護学科			
科目名	看護プロセスのための基礎 講義・15時間・1単位		教員名	山下 純子			
概要及び目的	科学的根拠にもとづく看護実践をおこなうための看護の思考プロセスを学ぶ。 看護の視点で対象をとらえ、必要な援助を見極め、看護実践するための問題決力や科学的に思考する力を身に付ける。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程を構成する要素とそのプロセス、看護過程を用いることの意義を述べることができる。 2. 看護過程を展開する際に基盤となる考え方について述べるができる。 3. 事例をもとに看護過程の各段階について具体的な内容と実践方法について述べるができる。 4. 看護記録の目的と留意点、その構成について述べるができる。 						
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の基盤となる考え方 2～5. 看護過程の構成要素 アセスメント、看護問題の明確化、看護計画の立案、実施、評価 6. 対象者の全体像の把握 関連図について 7. 看護記録について 看護記録とは 記載、管理における留意点 8. 終講試験(筆記試験) 						
評価方法	1. 終講試験(100%)						
テキスト	基礎看護学技術 I 医学書院						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	自分を育てる	領域	看護の土台	分野	専門	領域	基礎看護学
年次・学期	1年次・前期後期		担当科	看護学科			
科目名	ヘルスアセスメント 講義・30時間・1単位		教員名	岩本 佳子			
概要及び目的	身体的・精神的・社会的な側面から対象者の健康状態を総合的に評価し、フィジカルアセスメントを実施するためのフィジカルイグザミネーションを身につける。						
到達目標	対象者の健康状態を把握するための基礎的な手技を理解し実践することができる						
授業内容	回数	学習内容	事前課題				
	1	講義:ヘルスアセスメントについて フィジカルアセスメントに必要な技術について (問診・視診・触診・聴診・打診)	初回授業時に、ヘルスアセスメント授業用ファイル(A4)と記名用のマイネームを持参。				
	2	講義:バイタルサイン(体温・脈拍・呼吸・血圧・意識)について	バイタルサインについて				
	3	演習:バイタルサイン測定の実際①	血圧測的手順書				
	4	演習:バイタルサイン測定的の実際②					
	5	演習:バイタルサイン測定的の実際③	バイタルサイン(体温・脈拍・呼吸・血圧)測定手順書				
	6	講義:アセスメント～事例対象者の状態をアセスメントしてみよう～					
	7	講義:系統別フィジカルアセスメント①(呼吸器系・循環器系・腹部・脳神経)の基礎知識	解剖プリント				
	8						
	9	演習:系統別フィジカルアセスメント②(呼吸器系・循環器系・腹部・脳神経)の実際	手順書他				
	10						
	11	講義:系統別フィジカルアセスメント③(筋・骨格系・外皮系)の基礎知識	解剖プリント				
	12	ワーク:事例を通して実際の観察について考える					
	13						
	14	講義:心理・社会的側面のアセスメント ヘルスアセスメントの意義について					
15	終講試験						
評価方法	<p><授業準備・事前課題について></p> <p>*事前課題は、テキストを丸写しではなく参考書も活用しながらわかりやすくまとめる。(原則、ネット検索による学習は認めません。必要がある場合は、出典先を明記すること)</p> <p>*事前課題は、すべて手書きとする。(図は使用可)</p>						
テキスト	基礎看護技術 I 医学書院						
備考	参考図書:フィジカルアセスメントがみえる MEDIC MEDIA						

教育課程独自体系				指定規則			
分野	自分を育てる	領域	看護の土台	分野	専門	領域	看護の統合と実践
年次・学期	2 年次・後期		担当科	看護学科			
科目名	看護と倫理 講義・15 時間・1 単位		教員名	寺岡 仁子			
概要及び目的	看護現場で遭遇する倫理的課題に対し、「徳の倫理」「原則の倫理」を中心に看護師として必要な倫理的判断能力を身につける。						
到達目標	①看護の現場に存在する倫理的課題に気づくことができる ②倫理的課題を分析するための手がかりを見つけ出すことができる ③倫理的課題の解決のために、看護職としてどうするべきなのかを考えることができるという 3 点について学ぶ。						
授業内容	Goal 1. 看護倫理の原則を理解できる。 2. 看護倫理の問題へのアプローチを考えることができる。						
		内容	備考				
		講義	看護倫理概論について学習します。				
		講義 グループワーク	倫理問題へのアプローチについて学びます。 2 回目からはグループごとに着席してください。				
		グループワーク	グループで事例検討を行い、まとめます。(提出)				
		グループワーク					
		グループ発表	事例 1・事例 2				
		グループ発表	事例 3・事例 4・事例 5				
		グループ発表	事例 6・事例 7・事例 8				
		予備日・まとめ	「看護職の倫理綱領」を開説解説しながら総まとめをします。最後に授業を終えての学びと感想を書いていただきます。				
<p>・授業内容・事例については全事例こちらで用意します。</p> <p>・グループについてはこちらでランダムに決めます。</p> <p>☆発表の流れなど</p> <p>・3~5 分間事例と抄録を全員黙読～グループ発表～質疑応答・感想</p> <p>・各グループ発表は10分です。単に抄録を読み上げるだけであれば10分にはなりません。グループで考えてください。方法は自由です。</p> <p>・質疑応答、感想の時間も10分です。意見がどうしても出ないときはペアグループの方にあててください。そうならないよう、自主的に(グループ単位でも結構です)お願いします。</p> <p>・1グループ終わるごとに寺岡からもコメントをさせていただきます。</p>							
評価方法	1. 出席状況・授業態度 2. グループワークへの参加状況、提出規則の状況、発表(メイン)など 3. その他 *筆記試験は行いません。						
テキスト	医学書院「看護倫理」*主に配布資料で進めます。						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	自分を育てる	領域	看護の土台	分野	専門	領域	看護の統合と実践
年次・学期	3年次・前期・後期		担当科	看護学科			
科目名	看護におけるマネジメント 講義 30時間・1単位		教員名	清水 恵子			
概要及び目的	<p>看護の対象となる人々に最も良質な看護を提供するしくみを理解し、医療チームの一員としての役割と責任を理解し看護をマネジメントする基礎的能力を学ぶ。</p> <p>看護の統合と実践実習の中から、看護管理は管理者やリーダーのみがおこなうものではなく、すべての看護師が日々行っている看護実践の中に組み込まれているものであることを学び理解できる。</p>						
到達目標	<p>チーム医療の中での看護職の役割が理解できる</p> <p>看護の質の向上のための看護サービスのためのマネジメントについて理解できる</p>						
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護のマネジメントについて 2. 看護のキャリアマネジメントについて 3. グループワーク 実習グループでチームで協働することについて ・チームとは ・リーダーシップ ・メンバーシップ 4. プレゼンテーション 5～6. 看護ケアのマネジメントについて 7～8. 看護サービスのマネジメントについて 9～10. マネジメントに必要な知識と技術について 11. 看護を取り巻く諸制度について 12. よくある場面から学ぶ 多重課題 予定変更(報告・相談) DVD視聴 まとめ ディスカッション 13. よくある場面から学ぶ 多重課題 複数の人との関わり DVD視聴 まとめ ディスカッション 14. まとめ 15. 終講試験 						
評価方法	1. 終講試験(60%) 2. 提出物(40%)						
テキスト	看護管理 医学書院						
備考							

教育課程独自体系				指定規則																																																			
分野	自分を育てる	領域	看護の土台	分野	専門	領域	看護の統合と実践																																																
年次・学期	2年次・後期		担当科	看護学科																																																			
科目名	医療安全 講義・30時間・1単位		教員名	岩本 美代子																																																			
概要及び目的	医療・看護が安全に提供されるためには、日常における組織的な事故防止活動と医療事故発生時の対応が最も重要である。看護師の業務における様々な事故の構造と根拠にもとづく具体的な知識により事故を回避し、安全で質の高い看護実践活動を学ぶ。またリスクマネジメントを含んだ看護師の役割を理解する。																																																						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療安全に対する国に取り組み経緯や現在の動向・考え方を理解する。 ・危険予知トレーニング(KYT)より、危険に対するリスク感性を高め、事故防止の視点で実践につなぐことができる。 ・インシデントレポートの意義を理解し、その活用が事故防止につながることの重要性について述べるができる。 ・感染管理において、認定看護師の役割を理解するとともに、日々の生活や実習の中で実践ができる。 ・コミュニケーションエラーの多さを知り、報告連絡相談からエラーを減らす。 																																																						
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業内容(主題)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>医療安全を学ぶことの意義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>医療事故の定義、医療行為との関連 事故の視点での看護業務の理解</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>看護事故の構造、看護事故における事故防止の視点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>看護事故防止の考え方</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>KYTによる事故防止 演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>医療安全に対する最近の動向・考え方</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>薬物投与する業務における事故防止 輸液ポンプでの事故①</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>薬物投与する業務における事故防止 輸液ポンプでの事故②</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>コミュニケーションエラーを防止</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>医療安全管理体制、医療安全文化の醸成</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>インシデントレポートの目的とその活用</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>看護学生の実習と安全対策</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>医療安全対策～感染管理の実践について～ 感染管理認定看護師より</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>医療安全対策～感染管理の実践について～ 感染管理認定看護師より</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>終講試験</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							回数	授業内容(主題)	備考	1	医療安全を学ぶことの意義		2	医療事故の定義、医療行為との関連 事故の視点での看護業務の理解		3	看護事故の構造、看護事故における事故防止の視点		4	看護事故防止の考え方		5	KYTによる事故防止 演習		6	医療安全に対する最近の動向・考え方		7	薬物投与する業務における事故防止 輸液ポンプでの事故①		8	薬物投与する業務における事故防止 輸液ポンプでの事故②		9	コミュニケーションエラーを防止		10	医療安全管理体制、医療安全文化の醸成		11	インシデントレポートの目的とその活用		12	看護学生の実習と安全対策		13	医療安全対策～感染管理の実践について～ 感染管理認定看護師より		14	医療安全対策～感染管理の実践について～ 感染管理認定看護師より		15	終講試験	
回数	授業内容(主題)	備考																																																					
1	医療安全を学ぶことの意義																																																						
2	医療事故の定義、医療行為との関連 事故の視点での看護業務の理解																																																						
3	看護事故の構造、看護事故における事故防止の視点																																																						
4	看護事故防止の考え方																																																						
5	KYTによる事故防止 演習																																																						
6	医療安全に対する最近の動向・考え方																																																						
7	薬物投与する業務における事故防止 輸液ポンプでの事故①																																																						
8	薬物投与する業務における事故防止 輸液ポンプでの事故②																																																						
9	コミュニケーションエラーを防止																																																						
10	医療安全管理体制、医療安全文化の醸成																																																						
11	インシデントレポートの目的とその活用																																																						
12	看護学生の実習と安全対策																																																						
13	医療安全対策～感染管理の実践について～ 感染管理認定看護師より																																																						
14	医療安全対策～感染管理の実践について～ 感染管理認定看護師より																																																						
15	終講試験																																																						
評価方法	1. 終講試験(100%) 2. 提出物(加味する場合がある)																																																						
テキスト	医療安全 医学書院																																																						
備考																																																							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	自分を育てる	領域	看護の土台	分野	専門	領域	基礎看護学
年次・学期	1年次・前期・後期		担当科	看護学科			
科目名	基礎看護学実習 I 実習・45 時間・1 単位		教員名	看護学科教員			
概要 及び 目的	看護の本質を知り、看護の概念、健康の概念、看護師の役割・責務を学ぶ。 この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。						
到達目標	さまざまな健康レベルにある対象者へ看護師がどのように対象者の生命力が消耗しないよう生活過程を整えているかを知り支援を行う。						
授業内容	<p>※詳細は実習要綱参照</p> <p>基礎看護学実習 I - (1) (看護を知る) 実習場所: 川崎医科大学総合医療センター</p> <p>基礎看護学実習 I - (2) (日常生活援助を支える) 実習場所: 川崎医科大学総合医療センター</p>						
評価方法	学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて行い、合格は60点以上とする。 合格の可否は審議し、決定する。						
テキスト	実習要項 看護学概論 医学書院 基礎看護技術 I 医学書院 基礎看護技術 II 医学書院						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	自分を育てる	領域	看護の土台	分野	専門	領域	基礎看護学
年次・学期	2年次・後期		担当科	看護学科			
科目名	基礎看護学実習Ⅱ (治療過程を支える) 実習・90時間・2単位		教員名	看護学科教員			
概要及び目的	<p>入院治療を必要とする対象者の治療過程を支える看護を理解する。 この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。</p>						
到達目標	看護過程の活用をとおして、科学的根拠と倫理的判断にもとづき治療過程に沿った看護を実践する。						
授業内容	<p>※詳細は実習要綱参照</p> <p>実習場所：川崎医科大学総合医療センター</p>						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて行い、合格は60点以上とする。 ・合格の可否は審議し、決定する。 						
テキスト	<p>実習要項 看護学概論 医学書院 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 基礎看護技術Ⅱ 医学書院</p>						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	自分を育てる	領域	自己の発展	分野	基礎	領域	科学的思考の基盤
年次・学期	1年次・前期		担当科	看護学科			
科目名	思考の基盤 講義・30時間・1単位		教員名	檜原 靖・山下 純子・末竹 卓実			
概要 及び 目的	自ら課題を発見し、主体的に解決策を考えるプロジェクト学習をとおして、看護を科学的に思考し、臨床判断能力の基礎を身に付ける。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践においてリフレクションする意義について述べるができる。 2. 習得でのリフレクションについてグループワークをとおして、経験から学ぶリフレクションとなるよう取り組む。 3. 自己理解、他者理解ができ、自己の課題に向き合いながら課題解決に向けて取り組むことができる。 						
授業内容	<p>檜原・山下(15時間)</p> <p>檜原</p> <p>1～2. 学習するとは何か 学習モデル、リフレクションについて</p> <p>山下</p> <p>3.～4. 看護におけるリフレクションとは</p> <p>5～7. 実習でのリフレクションを用いて自己の学びを深める (グループワーク・発表)</p> <p>8. 中間試験</p> <p>末竹(15時間)</p> <p>1. 看護を学ぶとはどういうことか</p> <p>2. 目標をもつ意味と成長の仕組み</p> <p>3. 自分で考えるとは何か</p> <p>4. 他者との違いを理解する</p> <p>5. 相談する力・頼る力</p> <p>6. 振り返りから学ぶ</p> <p>7. これからの学習への活かし方</p> <p>8. 終講試験</p>						
評価方法	中間試験(100点) 終講試験(100点)で実施し最終的に平均点で評価する。						
テキスト	必要時資料配布						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	自分を育てる	領域	自己の発展	分野	基礎	領域	科学的思考の基盤
年次・学期	1年次・前期・後期		担当科	看護学科			
科目名	キャリアマネジメント I 講義・15時間・1単位		教員名	看護学科教員			
概要及び目的	自分の今までのキャリアを振り返ることから自分の強みを認識し、自己肯定や自尊心を高め、自分自身を客観的に理解する手がかりとする。また、自分の将来に展望をもち、看護師としてどのように働きたいかなど自身の理想とする働き方や看護師としての目標を立てる手がかりとする。						
到達目標	1. パーソナルポートフォリオを作成し自身の強みを意識し、今後の成長につながる目標設定ができる。 2. 看護師としての目標を明確にすることができる。						
授業内容	1. パーソナルポートフォリオ発表会① 2. パーソナルポートフォリオ発表会② 3. 看護×プロジェクト① こども：保育園看護師 4. 看護×プロジェクト② 救命：ドクターヘリ 5. 看護×プロジェクト③ 養護教諭について 6. 看護×プロジェクト④ アートメイク看護師 7. 看護×プロジェクト⑤ 認知症サポーター：認知症サポーター講座 8. 看護×プロジェクト⑥ ドッグセラピー 9. 活動スタートアップ講座						
評価方法	出席点・提出レポート・講義参加姿勢 総合して100%						
テキスト	なし						
備考	参考文献 鈴木敏恵「キャリアストーリーをポートフォリオで実現する」日本看護協会出版社						

教育課程独自体系				指定規則			
分野	自分を育てる	領域	自己の発展	分野	基礎	領域	科学的思考の基盤
年次・学期	2年次・前期		担当科	看護学科			
科目名	キャリアマネジメントⅡ 講義・15時間・1単位		教員名	看護学科教員			
概要及び目的	専門職として自己教育力を育成するために、社会人基礎力や自身の看護観を明確にし、看護師になるための自己を高める。						
到達目標	1. 2年生として目指す看護師像を明らかにできる。 2. 自分の進路についてより具体的に決定できる。						
授業内容	1. 自分の進路について具体的に考える。 病院選び、インターンシップへの参加 など 2. 自身の目指すものを明確にしよう。 社会人基礎力をもとに、専門職として自身の目指すものを明確にする。 3. 先輩学生から話を聞いてみよう (就職、国家試験など) 4. 就職活動とは 5. 就職ガイダンス(旭川荘療育・医療センター) 6. 自分の適性を理解し、就職のイメージをつける 自己分析講座 7. 自分の適性を理解し、就職のイメージをつける 自分を知る、履歴書・エントリーシート対策 など 8. 看護師を取り巻く社会の状況を知る 学院としての方針						
評価方法	出席点・提出レポート・講義参加姿勢 総合して100%						
テキスト	なし						
備考	参考文献 鈴木敏恵「キャリアストーリーをポートフォリオで実現する」日本看護協会出版社						

教育課程独自体系				指定規則			
分野	自分を育てる	領域	自己の発展	分野	基礎	領域	人間と生活・社会の理解
年次・学期	1年次・前期		担当科	看護学科			
科目名	専門職業人としての接遇 講義・15時間・1単位		教員名	森本 美登里・木津 貴子・佐藤 捺美・森本 菜月・大林 秀行			
概要及び目的	接遇の原則を身に着け、常に相手の立場にたって考え、対象者が何を臨んでいるのかを推察した行動ができる能力を身につける。						
到達目標	専門職業人として接遇を身につける必要性について述べられ、行動できる。						
授業内容	<p>1～2. 専門職として接遇が求められる理由（森本） 接遇の5原則の修得と体験 挨拶の基本：表情、態度、声のトーン 言葉遣い：敬語の理解と実践 身だしなみ：3つのポイント 態度：立ち居振る舞い 笑顔：笑顔の効果</p> <p>3～4. 専門職業人としてのマナーメイク（木津） 講義：基本的なメイクや髪型について など 演習：セルフメイクアップレッスン</p> <p>5～6. 電話対応のマナーについて（佐藤・森本） 講義：電話対応の心構えやマナー、電話のかけ方・受け方 など 演習：電話対応</p> <p>7～8. 人と人の関わり方（武士道から学ぶ）（大林） 「謙虚さ」「思いやり」「気配り」「心づかい」「感謝」</p>						
評価方法	出席点・提出レポート・講義参加姿勢 総合して100%						
テキスト	必要時資料配布						
備考							

分野「看護の対象の理解」

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の対象の理解	領域	人とくらしの理解	分野	基礎	領域	人間と生活・社会の理解
年次・学期	1年次・後期		担当科	看護学科			
科目名	文化と生活 講義・30時間・1単位		教員名	柴岡 元			
概要及び目的	<p>良き職業人は良き社会人でなくてはならない。多くの患者と接する看護師は、専門的な技量にとどまらず、幅広い知識が必要であり、また何よりも豊かな人間性が求められる。</p> <p>当学科では、教養を高め深める授業をおこなう。このため授業では、新聞やテレビなどのマスメディアで取り上げられた話題などについて、これを的確に理解できる力を養う。</p> <p>また、良き職業人としての人間力の基礎は、誰からも信頼される人間性である。</p> <p>このため、コミュニケーションの大切さを理解し、その基本的なスキルについて考え身につける。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人類を苦しめてきた疫病の歴史を学ぶとともに、今日世界的に流行してきた新型コロナウイルスの特徴を理解することができる。 2. コミュニケーション力を身につけることが社会人として、また看護師として対人関係・人間関係を構築する上で大切さを理解できる。 3. 会話の基礎は日本や世界の基本事項の修得である。これによって新聞やメディアに興味・関心を持ち、コミュニケーションの基礎となる教養を身につけることができる。 4. 「日本の歳時記」を学ぶことによって、日本人が大切にしている文化と生活を幅広く説明することができる。 5. 日本人の生活と文化の基礎となる「しきたり」や「ことわざ」を説明できる。 6. まとめとして、社会と仕事に向かい合うために必要な心得を理解し、説明できる。 						
授業内容	<p>1 歴史のなかの疫病 ① シルクロードをたどった疫病 痘瘡、ペスト ② 海上の道(海のシルクロード)をたどった疫病 梅毒、インフルエンザ、コレラ</p> <p>2 新型コロナウイルスの世界的流行の経過と対応、及び日常生活や仕事の変容について</p> <p>3 コミュニケーション力を磨く ① 話し言葉の形態 ② 三つの“きく” ③ 対話を成功に導くために</p> <p>4 // ④ 聞き手を引きつけるために ⑤ 「褒める」「認める」ことの効用</p> <p>⑥ 「叱って感謝される人」とは ⑦ 「魅力ある人」とは</p> <p>5 // ⑧ 反論のしかた ⑨ お辞儀の種類</p> <p>⑩ クレーム対応 ⑪ 「ホウ・レン・ソウ」とは</p> <p>6 // ⑫ まとめ;話す力と聴く力を育てる</p> <p>7~9 歳時記を通して知る日本の自然と文化(春・夏・秋・冬)</p> <p>10~13 これだけは知っておきたい世界と日本の基本事項 アメリカ、中国、韓国、フランス、イタリア、オーストリア、イギリス、ドイツ、ポーランド、ロシア、 ウクライナ、イスラエルとパレスチナ、インド、日本</p> <p>14 日本人の「しきたり」と「ことわざ」</p> <p>15 まとめ・テスト</p>						
評価方法	筆記試験・作文・出席点						
テキスト							
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の対象の理解	領域	人のくらしの理解	分野	基礎	領域	人間と生活・社会の理解
年次・学期	1 年次・後期		担当科	看護学科			
科目名	看護のための人間理解 講義・15 時間・1 単位		教員名	岡田 麻理子			
概要及び目的	看護は対象者の特性を理解しそれぞれに合わせた看護を実践している。看護はこのような対応の連続であり、これを実践するためには個別性をふまえた対象理解が必要となる。そのため、看護の対象となる人間がどのような存在であるのか、対象のどの要素に着目していくのかを理解し、看護につなげるための基礎を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の対象となる人間を理解するための個々の人々の生活をとらえる視点を説明できる。 2. 看護の対象となる人間を全人的にとらえる視点について説明できる。 3. 事例を用いて、看護の視点から対象理解ができるよう取り組む。 						
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活者としての人間理解 2～3. 全体としての人間理解 4. 健康レベルからみる対象の理解 5. 対象を理解するための看護の視点 6～7. 看護の視点から対象を理解する <p style="text-align: center;">事例を用いて、看護の視点から対象を理解する（個人ワーク、発表）</p>						
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験（100%） <p>但し、授業などで指示された課題提出などに不備があればそれもふまえて評価する</p>						
テキスト	必要時資料配布						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の対象の理解	領域	人と暮らしの理解	分野	専門	領域	地域・在宅看護論
年次・学期	1年次・後期		担当科	看護学科			
科目名	家族看護論 講義・15時間・1単位		教員名	森原 百合子			
概要及び目的	地域・在宅でくらす人とその家族の多様性と意思決定を支え、家族機能がよりよい方向へ向かうことを支える基礎的知識を学ぶ。						
到達目標	1. 多様な家族の在り方について述べるができる。 2. 家族機能や家族を理解するための理論について説明できる。 3. 家族への具体的な介入方法について学び、家族看護における看護師の役割について説明できる。						
授業内容	1. 1) 家族看護論オリエンテーション 自分の家族を客観的視点でとらえる ジェノグラム作成 2. 2) 家族看護とは なぜ家族看護を学ぶのか 家族看護の特徴と理念 3) 家族看護の対象理解 家族とは 家族機能 現代の家族とその課題 3. 4) 家族を理解するための理論 家族発達理論 家族システム理論 家族ストレス対処理論 4. 5) さまざまな家族アセスメントモデル フリードマンとハンソンのアセスメントモデル 鈴木のアセスメントモデル カルガリー家族看護モデル 渡辺式家族アセスメント・支援モデル 家族看護のエンパワーメントモデル 5～6. 6) 家族看護における看護師の役割と援助姿勢 7) 家族の危機状況を支える看護 グループ演習：事例をもとに具体的な看護介入方法と看護師の役割の検討 7. 事例の検討会(グループ発表) 8. 終講試験・まとめ						
評価方法	終講試験(60%) 課題レポート(個人、グループ)・プレゼンテーション、グループワークへの参加(40%)						
テキスト	家族看護学 医学書院 配布資料						
備考	〔参考文献〕 家族看護学 理論と実践 日本看護協会出版会 新しい家族看護学 メヂカルフレンド社 家族看護学 南江堂						

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の対象の理解	領域	人とくらしの理解	分野	専門基礎	領域	健康支援と社会保障制度
年次・学期	3年次・前期		担当科	看護学科			
科目名	公衆衛生 講義・15時間・1単位		教員名	水嶋 明子			
概要及び目的	<p>社会保障の一環として、国民全体を対象とした人々の健康はどのように守られているのか、公衆衛生的な視点で基本的な知識を学習する。特に社会の動向に関連して人々の健康課題に地域保健活動（公衆衛生活動）がどのように進められているか、行政の役割や他機関、多職種との連携や協働活動を学び、人々の健康を支援する活動を学習する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生とはなにか、公衆衛生の意義が説明できる。 2. 公衆衛生活動の対象を知り、具体的な実践例を説明できる。 3. 行政の役割や多職種連携の必要性が説明できる。 						
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生とは何か <ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生の概念 ・公衆衛生の活動の対象 ・公衆衛生のしくみ 2. 集団の健康をとらえる手法 <ul style="list-style-type: none"> ・疫学 ・保健統計 3. 健康と環境 4. 感染症とその予防 5. 地域における公衆衛生の実践 6. 学校・職場における健康と健康を守るしくみ 7. 健康危機管理 <ul style="list-style-type: none"> ・健康危機管理とは ・災害保健 8. 終講試験 						
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験 70% 2. 出席点、受講態度等 30% 						
テキスト	<p>公衆衛生 -健康支援と社会保障制度- 医学書院 国民衛生の動向 2025-2026 厚生統計協会</p>						
備考	<p>テキストの該当部分を予習し、授業後は配布資料と合わせて復習を行うこと</p>						

教育課程独自体系				指定規則																														
分野	看護の対象の理解	領域	人とくらしの理解	分野	専門基礎	領域	健康支援と社会保障制度																											
年次・学期	2年次・前期		担当科	看護学科																														
科目名	社会保障 講義・15時間・1単位		教員名	齋藤 真智子																														
概要及び目的	「ウェルビーイング」の実現に向け、人の命とくらしを守るための看護に必要な社会保障の制度や法体系、サービス内容等の基本的な知識を修得し、ケアマネジメントする力を身につける。																																	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会保障制度の給付(サービス内容)と負担(保険料や税)の仕組みが説明できる。 ○ 社会保障制度の基盤である社会と人の暮らしの動向について理解する。 																																	
授業内容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">回数</th> <th style="width: 70%;">授業内容(主題)</th> <th style="width: 20%;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>社会保障の概念・目的・機能・体系</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>現代社会の変化と社会保障の動向 ①</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>現代社会の変化と社会保障の動向 ②</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>医療保障</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>所得保障</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>介護保障・公的扶助</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>介護保障</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>終講試験</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							回数	授業内容(主題)	備考	1	社会保障の概念・目的・機能・体系		2	現代社会の変化と社会保障の動向 ①		3	現代社会の変化と社会保障の動向 ②		4	医療保障		5	所得保障		6	介護保障・公的扶助		7	介護保障			終講試験	
回数	授業内容(主題)	備考																																
1	社会保障の概念・目的・機能・体系																																	
2	現代社会の変化と社会保障の動向 ①																																	
3	現代社会の変化と社会保障の動向 ②																																	
4	医療保障																																	
5	所得保障																																	
6	介護保障・公的扶助																																	
7	介護保障																																	
	終講試験																																	
評価方法	1. 終講試験の点数(100点満点)で評価する。																																	
テキスト	「系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度3 社会保障・社会福祉」 (第2024年改訂版)																																	
備考																																		

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の対象の理解	領域	人とくらしの理解	分野	専門基礎	領域	健康支援と社会保障制度
年次・学期	2年次・後期		担当科	看護学科			
科目名	社会福祉 講義・15時間・1単位		教員名	石川 静葉・太田 修平			
概要及び目的	障害児者や要介護高齢者など社会的な援護を要する者が自立した生活を送れるように、様々な支援に関わる社会福祉制度についての基礎的な知識を学ぶ。 また、これらの知識を活用して、社会福祉援助の実践と多職種連携について学ぶ。						
到達目標	<input type="checkbox"/> 社会福祉各分野の制度について説明できる。 <input type="checkbox"/> 医療従事者が患者支援をする場合に必要な社会福祉援助論について理解する。						
授業内容	(担当:石川) (4コマ) 1. 社会福祉の歴史、社会福祉の法制度 2. 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 3. 公的扶助 4. 高齢者福祉 (担当:太田) (3コマ) 5. 児童家庭福祉 6. 社会福祉実践と医療・看護① 7. 社会福祉実践と医療・看護② 8. 終講試験						
評価方法	終講試験の点数で評価する。(100点満点：石川 50点 + 太田 50点)						
テキスト	「系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度3 社会保障・社会福祉」 (第2024年改訂版)						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の対象の理解	領域	人とくらしの理解	分野	専門基礎	領域	健康支援と社会保障制度
年次・学期	1年次・前期		担当科	看護学科			
科目名	地域でくらす人を支えるしくみ 講義・15時間・1単位		教員名	三井 明美			
概要及び目的	看護の対象を日々、地域で暮らしを営んでいる生活者として理解し、その暮らしと健康との関係性について考える。また、地域で暮らす人が活用できる社会資源を理解し、健やかな生活を営むために支えるしくみについて学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・看護の対象となる人を地域で暮らしを営んでいる生活者として理解し、暮らしと健康の関係性について考えることができる。 ・暮らしの基盤となる地域の考え方について理解する。 ・地域包括ケアシステムおよび地域共生社会について理解できる。 						
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 暮らしとは、暮らしと健康の関係性について（講義） 2. 地域・在宅看護の役割（講義） 3. 自分の暮らしを理解する（ワーク） 4. 暮らしの基盤となる地域（講義） 5. 自分の住む地域を理解する（ワーク） 6～7. 地域包括ケアシステムと地域共生社会（講義） 8. 終講試験 						
評価方法	1. ミニテスト(10%) 2. 提出物(30%) 3. 終講試験(60%)						
テキスト	必要時資料配布						
備考	ワークでは、ICTを活用します。						

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の対象の理解	領域	人のくらしの理解	分野	専門分野	領域	地域・在宅看護論
年次・学期	1年次・後期		担当科	看護学科			
科目名	地域・在宅でくらす人への看護 講義・15 時間・1 単位		教員名	双田 清美			
概要及び目的	地域でくらす人の生活環境の特徴を理解し、地域の人が在宅で療養するときの保健医療福祉のフォーマル、インフォーマルなサービスやそのしくみを理解するとともに、地域・在宅における看護の役割と責務について理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域でくらす人の生活環境の特徴や社会資源について説明できる。 ・地域・在宅での看護の対象と健康、生活を支える看護師の役割と責務について理解できる。 ・地域・在宅で継続してくらすために必要な制度、社会資源を理解する。 ・架空の対象者をおとして、地域・在宅でくらす人への看護で最も利用の多い訪問看護のしくみや社会制度について説明できる。 						
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会の変化による地域・在宅看護のニーズの変化 2. 病院での看護と訪問しての看護の違いについて (DVD視聴) 3. 地域・在宅での看護の特徴と看護師の役割と責務 4. 地域・在宅看護の現状と実際、在宅療養になるまでのくらしの場の移行と看護 5. 地域・在宅看護の歩み、訪問看護のしくみ 6. 提示された課題の取り組み 7. 提出した課題を相互評価 まとめ 8. 筆記試験 						
評価方法	筆記試験(80%)、課題内容(20%)で評価する						
テキスト	地域・在宅看護の基礎 医学書院						
備考							

教育課程独自体系				指定規則																												
分野	看護の対象の理解	領域	人のくらしの理解	分野	専門	領域	地域・在宅看護論																									
年次・学期	2 年次・前期		担当科	看護学科																												
科目名	災害に備えるくらしと看護 講義・15 時間・1 単位		教員名	都甲 裕美																												
概要及び目的	<p>「災害とは 暴風、竜巻、豪雨、豪雪、洪水、崖崩れ、土石流、高潮、地震、津波、噴火、地滑りその他の異常な自然現象又は大規模な火事若しくは爆発その他その及ぼす被害の程度においてこれらに類する政令で定める原因により生ずる被害をいう。」災害は、いつ誰にどのような状況下で起きるかわからず日常の中で意識して生活することは難しい。そのため、災害に備える基礎的知識を学び、自己の住む地域や本学を取り巻く地域の特性をふまえ「災害によってどのようなことが起きるか」や何を備える必要があるのかなど情報を活用し考え、想像する力をもつことにより、災害対策・防災活動について学ぶ。さらに命とくらしを支える看護師の災害時の役割について考える。</p>																															
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・災害がくらしに与える影響について考え、災害時の看護師の役割について学ぶ。 ・地域の特徴をふまえ、起きうる災害についてイメージすることができる。 ・災害状況をイメージし、現状と課題、解決策について考えることができる。 ・くらしの中で災害に備えることについて考えることができる。 																															
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 回目</td> <td>実際の災害を経験して(西日本豪雨)</td> <td>出席点</td> </tr> <tr> <td>2 回目</td> <td><u>自己の災害に対する備えについて</u> ・ワークシートに沿って、学習をすすめる。</td> <td rowspan="3">ワークシート</td> </tr> <tr> <td>3 回目</td> <td>災害による被害をできるだけ少なくするために、一人ひとりが自ら取り組む自助を考える南海トラフ時の震度や津波予測については、自己の住む地域の状況を確認しておくこと。</td> </tr> <tr> <td>4 回目</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5 回目</td> <td><u>自己の災害に対する備えについて</u> 2 回～4 回実施した概要を A3 用紙 1 枚にまとめ発表する。 <u>災害時の看護師のやくわりについて</u></td> <td>発表・出席典 アクションシート ワークシートの内容</td> </tr> <tr> <td>6 回目</td> <td></td> <td>ワークシート</td> </tr> <tr> <td>7 回目</td> <td><u>学院周辺における災害に対する備えについて</u> ・学院で被災した場合の提案および避難所運営の提案書を作成する。</td> <td>ワークシート</td> </tr> <tr> <td>8 回目</td> <td>・情報収集、学院内で過ごしているときの行動について</td> <td>アクションシート ワークシート 学習のまとめ提出</td> </tr> </tbody> </table>							回数	内容	評価	1 回目	実際の災害を経験して(西日本豪雨)	出席点	2 回目	<u>自己の災害に対する備えについて</u> ・ワークシートに沿って、学習をすすめる。	ワークシート	3 回目	災害による被害をできるだけ少なくするために、一人ひとりが自ら取り組む自助を考える南海トラフ時の震度や津波予測については、自己の住む地域の状況を確認しておくこと。	4 回目		5 回目	<u>自己の災害に対する備えについて</u> 2 回～4 回実施した概要を A3 用紙 1 枚にまとめ発表する。 <u>災害時の看護師のやくわりについて</u>	発表・出席典 アクションシート ワークシートの内容	6 回目		ワークシート	7 回目	<u>学院周辺における災害に対する備えについて</u> ・学院で被災した場合の提案および避難所運営の提案書を作成する。	ワークシート	8 回目	・情報収集、学院内で過ごしているときの行動について	アクションシート ワークシート 学習のまとめ提出
回数	内容	評価																														
1 回目	実際の災害を経験して(西日本豪雨)	出席点																														
2 回目	<u>自己の災害に対する備えについて</u> ・ワークシートに沿って、学習をすすめる。	ワークシート																														
3 回目	災害による被害をできるだけ少なくするために、一人ひとりが自ら取り組む自助を考える南海トラフ時の震度や津波予測については、自己の住む地域の状況を確認しておくこと。																															
4 回目																																
5 回目	<u>自己の災害に対する備えについて</u> 2 回～4 回実施した概要を A3 用紙 1 枚にまとめ発表する。 <u>災害時の看護師のやくわりについて</u>	発表・出席典 アクションシート ワークシートの内容																														
6 回目		ワークシート																														
7 回目	<u>学院周辺における災害に対する備えについて</u> ・学院で被災した場合の提案および避難所運営の提案書を作成する。	ワークシート																														
8 回目	・情報収集、学院内で過ごしているときの行動について	アクションシート ワークシート 学習のまとめ提出																														
評価方法	<p>1. 出席点(10%) 2. 成果物(60%) 3. アクションシート(30%) 提出期限が守れない、欠席によりプレゼンテーション等に参加できない場合は減点する。</p>																															
テキスト	<p>配布資料 災害看護学・国際看護学 医学書院 地域・在宅看護の基盤 医学書院 基礎看護技術Ⅱ 医学書院</p>																															
備考	<p>1 回目の講義の際、防災親子手帳を購入します。(100円徴収)</p>																															

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の対象の理解	領域	人とくらしの理解	分野	専門分野	領域	成人看護学
年次・学期	1年次・後期		担当科	看護学科			
科目名	成人看護学概論 講義・15時間・1単位		教員名	寺岡 仁子			
概要及び目的	成人期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、健康の保持・増進、疾病の予防、回復、および生活の質の向上を目指す看護に必要な基礎的知識を学ぶ。また、成人の健康レベルに対応した看護や健康生活を促すための看護アプローチの基本について理解する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある人の各発達段階の特徴について身体的・精神的・社会的視点から説明することができる。 2. 成人期にある人の発達段階・発達課題について発達理論を用いて説明することができる。 3. 成人期を取り巻く環境と生活からみた健康について説明することができる。 4. 成人期にある人への看護アプローチの基本について説明することができる。 						
授業内容	<p>1～2. 成人期にある対象の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフイベントについて ・各発達段階の特徴 ・発達段階、発達課題 <p>3～4. 成人を取り巻く環境と生活からみた健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康とは何か ・成人のライフスタイルの特徴 ・成人の健康の状況 <p>5～7. 健康生活を促すための看護アプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成人と疾病 ・疾病と経過 ・疾病の経過の特徴と看護 ・成人看護学で用いる用語について <p>8. 終講試験</p>						
評価方法	終講試験(100% ただし、出席状況・授業態度・提出物を加味する)						
テキスト	成人看護学総論 医学書院 臨床看護学総論 医学書院						
備考	配布資料使用						

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の対象の理解	領域	人とくらしの理解	分野	専門	領域	老年看護学
年次・学期	1年次・前期・後期		担当科	看護学科			
科目名	老年看護学概論 講義・30 時間・1 単位		教員名	大森 和子・大本 明美			
概要及び目的	高齢者はかつて生産性に貢献し、日本の骨組みを作ってきた。そして現在も生産性に貢献している高齢者も少なくない。その様な高齢者は生活歴が長く個性も大きい。半面、身体機能や認知機能は低下していく中、高齢者の権利擁護を理解し、対象者の問題を解決するために看護職が担う役割は大きい。その実現のために高齢者を多面的に理解し、生活を支援するための看護の基礎と役割を学ぶ。						
到達目標	<p>(大森)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老年期の身体的、心理的、社会的変化の特徴について説明できる。 ・老年看護の役割について説明することができる。 ・老年看護を行う上でどのような関わりを大切にしたいか自己の考えを表現できる。 <p>(大本)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「老年期とはどのようなものか、また老年期を生きる上で、社会のしくみはどうなっているのか」 …これらについて多方面から理解することができる。 ・自分自身が社会の動きに注目し、その変化を知ることができる。 ・認知症についての基本的な知識を学び、支援するための看護の基礎と役割を理解することができる。 						
授業内容	<p>大森(15時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「老いる」ということ(老化、加齢)、加齢に伴う身体側面の変化 2. 運動機能の変化、排泄機能の変化 3. 認知機能の変化 4. 高齢者の健康、疾患の特徴、加齢に伴う薬物動態の変化 5. 心理、社会的側面の変化について(発達理論を通して) 6. 老年看護の役割について(グループワーク) 7. 老年看護の役割について(グループワーク内容の発表)、まとめ 8. 試験 <p>大本(15時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 超高齢社会の統計的輪郭 2. 高齢社会における保健医療福祉の動向(保健医療福祉制度の変遷、介護保険①) 3. 高齢社会における保健医療福祉の動向(介護保険②、医療、多職種連携) 4. 高齢者の権利擁護(スティグマと差別、虐待) 5. 高齢者の権利擁護(身体拘束、権利擁護のための制度) 6. 認知症(基本知識) 7. 認知症(看護) 8. 終講試験 						
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験(大森50点+大本50点) 2. グループ課題、レポート 3. 授業態度、出席状況 						
テキスト	配布資料 老年看護学 医学書院						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の対象の理解	領域	人のくらしの理解	分野	専門分野	領域	小児看護学
年次・学期	1年次・後期		担当科	看護学科			
科目名	小児看護学概論 講義・15時間・1単位		教員名	仁宮 真紀			
概要及び目的	現代の子どもと家族の状況を踏まえ、小児看護の役割と課題を知り、子どもに関する保健対策や子どもの人権について学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小児看護の理念と概念、子どもの人権について説明できる。 ・子どもをとりまく環境について説明できる。 ・子どもに関連する法律や施策について説明できる。 						
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもとは (子どもの特徴、子どもと家族、社会) 2. 小児看護の理念と看護の概念 <ul style="list-style-type: none"> ・小児医療・小児看護の変遷 ・子どもの人権と看護(子どもと倫理、児童憲章、子どもと家族をとりまく社会の変化と問題) 3. 子どもの人権と看護 (諸統計、子どもの権利、行政施策など) 4. 子どもと家族をめぐる環境の変化と保健 (少子高齢化社会、情報化社会、小児事故、子どもの虐待の背景と求められる援助) 5. 子どもをめぐる法律と施策 (法律、母子保健行政施策、予防接種、学校保健と健康相談) 6. 医療・療育・生活に関わる職種との連携 7. 子どもの成長過程と発達課題 (定義・発達の一般原則、影響因子、成長の評価) 8. 終講試験 						
評価方法	終講試験(100%)						
テキスト	小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の対象の理解	領域	人のくらしの理解	分野	専門分野	領域	母性看護学
年次・学期	1年次・前後期		担当科	看護学科			
科目名	母性看護学概論 講義・30時間・1単位		教員名	酒井 文穂			
概要 及び 目的	人間の性と生殖の概念を理解し、次世代を担う母性看護の対象の特徴を理解するとともに、命を健やかにはぐくむための社会のしくみやリプロダクティブヘルス/ライツ、ウェルネスの視点を学び、母子保健の現状と今後の課題を理解する。また、女性の生殖機能の発達段階(胎児期・小児期・思春期・成熟期・更年期・老年期)における特徴と健康課題を理解し、より健康なライフサイクルを支えるために必要な看護を学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の性と生殖の概念を学び、次世代を担う母性看護の対象の特徴がわかる。 ・命を健やかにはぐくむための社会のしくみやリプロダクティブヘルス/ライツ、ウェルネスの視点を学び、母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状及び今後の課題についてわかる。 ・女性のライフステージ各期における特徴と健康課題について学び、必要な看護がわかる。 						
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母性看護の基盤となる概念 2. 母性看護の対象を取り巻く社会変遷と現状 3. 母性看護の対象理解 4. 母性看護に必要な看護技術 5. 女性のライフステージ各期における看護 6. リプロダクティブヘルスケア 7. 終講試験 						
評価方法	1. 終講試験 100%						
テキスト	母性看護学概論 医学書院 母性看護学各論 医学書院						
備考							

教育課程独自体系				指定規則																											
分野	看護の対象の理解	領域	人とくらしの理解	分野	専門分野	領域	精神看護学																								
年次・学期	2年次・前期		担当科	看護学科																											
科目名	精神看護学概論 講義・15時間・1単位		教員名	横山 なおみ																											
概要及び目的	近年、精神医療の改革及び精神保健福祉サービスの充実に伴い、入院治療中心から在宅・地域ケア中心へと転換期を迎え、精神に障がいがある人を取り巻く環境は大きく変化している。精神医療及び看護は長い歴史の中でその時代のニーズに沿って変革してきた過程がある。この科目では精神保健医療福祉の歴史の変革と現状・課題を理解する。また、精神医療福祉に関わる法律を学び、アドボケイトとしての看護師の役割を理解する。																														
到達目標	精神障がい及び精神障害者への理解を深めるとともに、地域生活に必要な制度・サービスの理解、入院中に権利侵害を起こさないための最低限の法律の理解をする。																														
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>表題</th> <th>内容</th> <th>形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td rowspan="2">精神障がいと治療の歴史・法律の変遷</td> <td rowspan="2">・世界及び日本における中世から近代に至るまでの精神医療保健福祉の変遷と法律の改正 ・精神医療保健福祉の変遷と人権問題</td> <td rowspan="2">講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td rowspan="3">精神障がいと法制度</td> <td rowspan="3">・精神保健福祉法：概要および入院生活や地域生活に関する事項 ・障害者総合支援法：自立支援給付・地域生活支援事業 ・成年後見制度 ・障害者虐待防止法・障害者差別解消法 ・医療観察法 ・自殺対策基本法</td> <td rowspan="3">講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> </tr> <tr> <td>5</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td rowspan="2">地域生活を支えるシステムと社会資源</td> <td rowspan="2">・相談機関の役割：市町村役所・保健所・精神保健福祉センター・心のケアセンター ・障害福祉サービス：地域活動支援センター・</td> <td rowspan="2">講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>終講試験</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							回数	表題	内容	形態	1	精神障がいと治療の歴史・法律の変遷	・世界及び日本における中世から近代に至るまでの精神医療保健福祉の変遷と法律の改正 ・精神医療保健福祉の変遷と人権問題	講義	2	3	精神障がいと法制度	・精神保健福祉法：概要および入院生活や地域生活に関する事項 ・障害者総合支援法：自立支援給付・地域生活支援事業 ・成年後見制度 ・障害者虐待防止法・障害者差別解消法 ・医療観察法 ・自殺対策基本法	講義	4	5	6	地域生活を支えるシステムと社会資源	・相談機関の役割：市町村役所・保健所・精神保健福祉センター・心のケアセンター ・障害福祉サービス：地域活動支援センター・	講義	7	8	終講試験		
回数	表題	内容	形態																												
1	精神障がいと治療の歴史・法律の変遷	・世界及び日本における中世から近代に至るまでの精神医療保健福祉の変遷と法律の改正 ・精神医療保健福祉の変遷と人権問題	講義																												
2																															
3	精神障がいと法制度	・精神保健福祉法：概要および入院生活や地域生活に関する事項 ・障害者総合支援法：自立支援給付・地域生活支援事業 ・成年後見制度 ・障害者虐待防止法・障害者差別解消法 ・医療観察法 ・自殺対策基本法	講義																												
4																															
5																															
6	地域生活を支えるシステムと社会資源	・相談機関の役割：市町村役所・保健所・精神保健福祉センター・心のケアセンター ・障害福祉サービス：地域活動支援センター・	講義																												
7																															
8	終講試験																														
評価方法	1. 終講試験(80%) 2. 授業態度・出席点を加味(20%)																														
テキスト	精神看護の基礎 医学書院 精神看護の展開 医学書院																														
備考																															

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の対象の理解	領域	人のくらしの理解	分野	専門	領域	地域・在宅看護論
年次・学期	3年次・前後期		担当科	看護学科			
科目名	地域・在宅でくらす人を支える看護実習 実習・80時間・2単位		教員名	看護学科教員			
概要及び目的	<p>地域・在宅でくらす対象者の健康および日常生活状況に応じたその人らしい生活をおくるための看護の役割を理解する。</p> <p>この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。</p>						
到達目標	<p>対象者がくらす場の特徴を理解し、健康の保持増進、回復を図りながら対象者が無理のない日常生活を継続し、その人らしく充実した生活を送るための看護の役割を学ぶ。</p>						
授業内容	<p>※詳細は実習要項参照</p> <p>実習場所 旭川敬老園</p>						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて行い、合格は60点以上とする。 ・合格の可否は審議し、決定する。 						
テキスト	<p>実習要項</p> <p>在宅看護論 医学書院</p> <p>老年看護学 医学書院</p> <p>老年看護 病態・疾患論 医学書院</p>						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の対象の理解	領域	人のくらしの理解	分野	専門	領域	地域・在宅看護論
年次・学期	3年次・前後期		担当科	看護学科			
科目名	地域・在宅で療養する人を支える看護実習 実習・40時間・1単位		教員名	看護学科教員			
概要及び目的	<p>地域・在宅で療養しながらくらす対象者とその家族が、可能な限り住み慣れた居宅でその有する能力に応じて自立した生活をおくるための看護の役割を理解する。</p> <p>この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。</p>						
到達目標	<p>地域・在宅で療養する対象者とその家族が、その人らしくよりよい生活を継続するために社会資源を活用し、多職種と連携しながら支援する看護の役割を理解する。</p>						
授業内容	<p>※詳細は実習要項参照</p> <p>実習場所 旭川荘訪問看護ステーションまたは博愛会病院関連施設(訪問看護ステーションサマリア・看護小規模多機能型居宅介護のみ)</p>						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて行い、合格は60点以上とする。 ・合格の可否は審議し、決定する。 						
テキスト	<p>実習要項</p> <p>地域・在宅看護の基盤 医学書院</p> <p>地域・在宅看護の実践 医学書院</p>						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の対象の理解	領域	人のくらしの理解	分野	専門分野	領域	小児看護学
年次・学期	3年次・前後期		担当科	看護学科			
科目名	子どもの看護実習 I (子どもの支援) 実習・40時間・1単位		教員名	看護学科教員			
概要及び目的	<p>健康な乳幼児の成長発達や日常生活行動の特徴を理解し、健やかな成長発達への支援について学ぶ。</p> <p>この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。</p>						
到達目標	健康な乳幼児の日常生活行動を実際の保育活動をとおして、身体的・精神的・社会的特徴を理解する。						
授業内容	<p>※詳細は実習要項参照</p> <p>実習場所 高島第一保育園 または みかど貴ツズ保育園 または ひらたえがお保育園</p>						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて行い、合格は60点以上とする。 ・合格の可否は審議し、決定する。 						
テキスト	実習要項 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の対象の理解	領域	健康の理解	分野	専門基礎	領域	人体の構造と機能
年次・学期	1年次・前期		担当科	看護学科			
科目名	解剖生理学 I (細胞と動くしくみ) 講義・30時間・1単位		教員名	柳原 衛			
概要及び目的	<p>ヒトの身体の構造と機能の正常な状態について、系統的に理解できることをねらいとする。人体の発生、身体の形態と機能を、各器官別に系統的に関連づけて理解し、生命を保つために必要な構造と機能を理解する。</p> <p>解剖生理学 I においては、人体の素材としての細胞・組織、および生殖・発生と老化のしくみ、さらには身体の支持と運動について学ぶ。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・細胞の構造と機能について説明できる。 ・ヒトの発生について、生殖系と関連づけながら説明できる。 ・ヒトの身体の支持と運動について、その構造に基づいて説明できる。 						
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の概略 2. 細胞の構造 3. 核酸とタンパク質合成 4. 細胞膜の構造と機能 5. 組織の種類と特徴 6. 人体を表す基本用語、体液とホメオスタシス 7. 生殖系、受精と胎児の発生、成長と老化 8. 骨の構造、骨の発生と成長、関節の構造と種類 9. 骨格筋の構造と作用 10. 体幹の骨格と筋 11. 上肢の骨格と筋 12. 下肢の骨格と筋 13. 頭頸部の骨格と筋 14. 筋の収縮 15. 終講試験 						
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験(60%) 2. 小テスト(10%) 3. 授業への取り組み姿勢(30%) 						
テキスト	解剖生理学 医学書院						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の対象の理解	領域	健康の理解	分野	専門基礎	領域	人体の構造と機能
年次・学期	1年次・後期		担当科	看護学科			
科目名	解剖生理学Ⅱ (消化吸収と神経) 講義・30時間・1単位		教員名	柳原 衛			
概要及び目的	<p>ヒトの身体の構造と機能の正常な状態について、系統的に理解できることをねらいとする。人体の発生、身体の形態と機能を、各器官別に系統的に関連づけて理解し、生命を保つために必要な構造と機能を理解する。</p> <p>解剖生理学Ⅱにおいては、栄養の消化と吸収、および情報の受容と処理のしくみについて学ぶ。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・神経系の構造と機能について、細胞レベルから高次脳機能に至るまで説明できる。 ・感覚器の構造と機能について説明できる。 ・消化管の機能を、その構造および生理活性物質と関連づけて説明できる。 						
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経細胞の構造と生理 2. 脳の発生、脳室と髄膜 3. 脊髄の構造と機能 4. 脳幹の構造と機能 5. 終脳の構造と機能 6. 脊髄神経と脳神経 7. 神経伝導路、高次神経機能 8. 眼の構造と視覚 9. 耳の構造と聴覚・平衡覚、味覚と嗅覚、痛覚 10. 消化器系概説、消化器の発生と一般構造 11. 口・咽頭・食道の構造と機能 12. 腹部消化管の構造と機能 13. 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 14. 消化と吸収 15. 終講試験 						
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験(60%) 2. 小テスト(10%) 3. 授業への取り組み姿勢(30%) 						
テキスト	解剖生理学 医学書院						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の対象の理解	領域	健康の理解	分野	専門基礎	領域	人体の構造と機能
年次・学期	1年次・前期		担当科	看護学科			
科目名	解剖生理学Ⅲ (呼吸と循環) 講義・30時間・1単位		教員名	片山 雅博			
概要及び目的	<p>ヒトの身体の構造と機能の正常な状態について、系統的に理解できることをねらいとする。看護学に必要な人体の発生、身体の形態と機能を、各器官別に系統的に関連づけて理解し、生命を保つために必要な構造と機能を理解する。</p> <p>解剖生理学Ⅲにおいては、生命維持に必要な呼吸と循環のしくみについて学ぶ。</p>						
到達目標	<p>呼吸器(気道と肺)の働きを理解し説明できる。</p> <p>循環器(血管と心臓)の働きを説明できる。</p> <p>血液(血漿、赤血球、白血球、血小板)働きについて説明できる。</p> <p>それらを基礎にして、生命維持の仕組みについて説明できる。</p>						
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器の構造 2. 呼吸器の機能 3. 呼吸とは呼吸運動(呼吸筋の働き)、換気、外呼吸と内呼吸 4. 呼吸器の機能1: 肺胞の機能、呼吸のメカニズム 5. 呼吸器の機能2: 呼吸気量(1回換気量、肺活量、1秒量、1秒率) 6. 呼吸器の機能3: ガス交換とガス(酸素と二酸化炭素)の運搬、エネルギー産生 7. 呼吸運動の調節: 呼吸中枢、血液ガス(PaO_2、$PaCO_2$、血液PH)、病的呼吸 8. 血液の組成と血球(赤血球、白血球、血小板)の分化 9. 血液の組成と機能: 赤血球の働き、白血球の働き 10. 血液凝固のしくみ(血小板、凝固因子の働き)、血液型 11. 心臓の構造 12. 心臓の拍出機能(心臓の興奮とその伝播、心電図) 13. 心臓の拍出機能(心臓収縮、血圧とその調節) 14. まとめ 15. 終講試験 						
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験(100%) 2. 授業中に行う小テスト 3. 出席状況 						
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料 ・解剖生理学 医学書院 						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の対象の理解	領域	健康の理解	分野	専門基礎	領域	人体の構造と機能
年次・学期	1年次・後期		担当科	看護学科			
科目名	解剖生理学Ⅳ (内部環境の調整) 講義・30時間・1単位		教員名	片山 雅博			
概要及び目的	<p>ヒトの身体の構造と機能の正常な状態について、系統的に理解できることをねらいとする。看護学に必要な人体の発生、身体の形態と機能を、各器官別に系統的に関連づけて理解し、生命を保つために必要な構造と機能を理解する。</p> <p>解剖生理学Ⅳにおいては、生命維持に必要な腎、内分泌系、免疫のしくみについて学ぶ。</p>						
到達目標	<p>腎臓の働きについて説明できる。</p> <p>内分泌系の働きについて説明できる。</p> <p>免疫の働きについて説明できる。</p> <p>自律神経系の働きについて説明できる。</p>						
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 血管の構造、全身の動脈・静脈 2. 血液循環の調節 血圧・血流量の調節 3. 循環器系の病態生理、リンパ系 4. 腎臓の構造と機能 5. 糸球体の機能(濾過)、傍糸球体装置の機能(レニン、エリスロポエチン) 6. 尿細管の機能、排尿路 7. 体液の調節 脱水、電解質異常、酸塩基平衡 8. 自律神経による調節 交感神経と副交感神経の構造と働き(神経伝達物質) 9. 内分泌系による調節 ホルモンの作用機序 10. 内分泌腺と内分泌細胞Ⅰ 視床下部—下垂体系、甲状腺 11. 内分泌腺と内分泌細胞Ⅱ 膵臓、副腎、性腺 12. ホルモン分泌の調節 糖代謝、カルシウム代謝、高血圧 13. 免疫の仕組み 細胞性免疫、液性免疫、予防接種、アレルギー 14. 皮膚の構造と機能、体温とその調節 15. 終講試験 						
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験(100%) 2. 授業中に行う小テスト 3. 出席および授業への取り組み姿勢 						
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料 ・解剖生理学 医学書院 						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の対象の理解	領域	健康の理解	分野	専門基礎	領域	人体の構造と機能
年次・学期	1年次・前後期			担当科	看護学科		
科目名	生命維持に必要な栄養のはたらき 講義・30時間・1単位			教員名	清水 憲二		
概要及び目的	遺伝子に基づく生命の原理を基礎として、細胞と人体の成分の成り立ちや代謝を学び、その調節機構がどのように健康を維持しているかを、物質レベルで学習する。また、生化学を基礎として臨床栄養学の知識と治療食の基礎知識を学び、看護に役立てる。						
到達目標	<p>[生化学分野] 疾患の原因や症状に関与する生化学的事象を理解し、症状や生化学検査データなどを正しく判断できることにより、チーム医療の中で患者個々人の最適な看護を実現する。</p> <p>[栄養学分野] 健康時及び疾患時の栄養状態の違いを認識し、健康の維持や疾患の治療に関わる栄養学的な専門知識を習得して、患者の栄養状態を把握し、バランスのとれた看護を実現する。</p>						
授業内容	<p>[前期] 生化学分野</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生化学を学ぶための基礎知識 2. 生命維持に必要な栄養素の構造と性質及び酵素 3. 糖質の構造と代謝 4. 脂質の構造と代謝 5. たんぱく質とアミノ酸の構造・機能と代謝 6. 生命の根本原理: 遺伝子の構造と働き 7. 遺伝子の発現とたんぱく質の機能 8. シグナル伝達とがん 9. 中間試験 <p>[後期] 栄養学分野</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床栄養学の基礎知識 2. 栄養素の種類と働き 3. 栄養素の消化・吸収と代謝 4. 運動と栄養; エネルギー代謝 5. 食事と食品; 食事摂取基準 6. 栄養状態の評価とケア 7. ライフステージ別の栄養管理 8. 疾患に関わる栄養管理 9. 終講試験 						
評価方法	前期の中間試験及び後期の終講試験の各成績を総合して評価する。						
テキスト	<p>[前期] 『生化学』(人体の構造と機能2)医学書院</p> <p>[後期] 『栄養学』(人体の構造と機能3)医学書院 (参考; 別巻 栄養食事療法)</p>						
備考	偶数回の講義ごとに質問票を配布して質問を受け付け、質問内容ごとに集計整理して示すと共に、それらの質問に対する回答やヒントをプリントにして全員に配布する。						

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の対象の理解	領域	健康の理解	分野	専門基礎	領域	疾病の成り立ちと回復の促進
年次・学期	1 年次・後期		担当科	看護学科			
科目名	病理学 講義・30 時間・1 単位		教員名	西谷 耕二・兵藤 文則			
概要及び目的	看護学に必要な健康障害時の病態理解のため、炎症、腫瘍、代謝異常などの基本原理を学び、病因と病変の特徴を学ぶ。						
到達目標	講義ユニット(先天異常と遺伝性疾患・代謝異常・循環障害・炎症・腫瘍)の原因、成り立ち、病態について代表疾患を例にあげて説明できる。						
授業内容	(西谷) 1. 病因論 2. 先天異常と遺伝子異常 3. 退行性病変 萎縮・変性・壊死・アポトーシス 4. 代謝障害(1) 脂質・たんぱく質障害 5. 代謝障害(2) 糖質・無機物質・色素代謝障害 6. 循環障害(1) 局所性の循環障害 7. 循環障害(2) 全身性の循環障害、リンパの循環障害 8. 進行性病変 (兵藤) 9. 炎症と免疫、膠原病(1) 炎症 10. 炎症と免疫、膠原病(2) 免疫 11. 炎症と免疫、膠原病(3) 膠原病 12. 感染症 13. 腫瘍(1) 定義と分類 14. 腫瘍(2) 発生病理 15. 腫瘍(3) 転移と進行度、診断と治療 16. 老化と死 17. 終講試験						
評価方法	1. 終講試験 100%(西谷50%・兵藤50%) 2. 出席状況 加点されます。						
テキスト	病理学 医学書院						
備考	参考書 わかりやすい病理学 改定第7版、南江堂 看護学生のための病理学 第4版、医学書院						

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の対象の理解	領域	健康の理解	分野	専門基礎	領域	疾病の成り立ちと回復の促進
年次・学期	1 年次・後期		担当科	看護学科			
科目名	疾病と治療 I (呼吸循環機能障害) 講義・30 時間・1 単位		教員名	津島 義正			
概要及び目的	看護学に必要な呼吸・循環機能障害者の疾病の種別、原因、症状の特徴、検査、治療を理解し、治療に必要な基礎的知識を学ぶ。						
到達目標	呼吸器疾患と循環器疾患の構造、病態生理、検査、診断、治療の総論および、各主要疾患の各論に関して、看護師として必須の理解と知識獲得を目指す。						
授業内容	1. 呼吸器の構造と機能 2. 症状と病態生理 3. 検査と診断 4. 治療と処置 5. 呼吸器感染症 6. 間質性肺疾患と気道疾患 7. 呼吸不全・癌・気胸 8. 循環器の構造と機能 9. 症状と病態整理 10. 検査と治療 11. 虚血性心疾患 12. 心不全高血圧 13. 不整脈 14. 弁膜症、血管疾患 15. 終講試験						
評価方法	1. 終講試験 80% 2. 小テスト 20%						
テキスト	呼吸器 医学書院 循環器 医学書院						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の対象の理解	領域	健康の理解	分野	専門基礎	領域	疾病の成り立ちと回復の促進
年次・学期	1 年次・後期		担当科	看護学科			
科目名	疾病と治療Ⅱ (栄養代謝機能障害) 講義・30 時間・1 単位		教員名	真鍋 康二・寺岡 仁子			
概要及び目的	看護学に必要な栄養代謝障害の種別、原因、症状の特徴、検査、治療を理解し、治療に必要な基礎的知識を学ぶ。						
到達目標	1. 腎・泌尿器・代謝についての解剖生理、疾患、治療法を理解し説明ができる。 2. 消化器についての解剖生理、疾患、治療法を理解し、説明ができる。 3. 糖尿病・脂質異常症・メタボリックシンドロームなどについて解剖生理、疾患、治療法を理解し説明ができる。						
授業内容	<p>【腎疾患の理解】 I 腎不全・ネフローゼ症候群・DM性腎症 II 症状・兆候とその病態生理 1. 尿の異常 2. 排尿異常 3. 浮腫 III 検査と治療・処置 1. 尿検査 2. 腎機能検査 3. 画像検査・生検 4. 腎疾患内科的治療の基本 5. 排尿管理 6. 腎移植</p> <p>【糖代謝疾患の理解】 I 糖尿病・脂質異常症・尿酸代謝異常・肥満症とメタボリックシンドローム II 症状・兆候とその病態生理 III 検査と治療・処置</p> <p>【前立腺・膀胱】 I 構造と機能 1. 膀胱 2. 前立腺 II 排尿と症状 III 診察・検査 IV 膀胱と疾患・治療 V 前立腺と疾患・治療</p> <p>-消化管疾患- 【食道】 I 食道の解剖生理 II 食道の疾患 1. 食道がん 2. 胃食道逆流症 (GERD)</p> <p>【胃・十二指腸】 I 解剖生理 II 胃・十二指腸の疾患 1. 機能性ディスペプシア 2. 急性胃炎 3. 慢性胃炎 4. 胃潰瘍・十二指腸潰瘍 5. 胃がん</p> <p>【小腸】 I 小腸の構造と機能-1 II 小腸の構造と機能-2 III 小腸と消化</p> <p>【大腸】 I 大腸の構造 II 大腸の機能 III 腸の疾患 1. 感染性腸炎 2. 潰瘍性大腸炎 3. クロウン病 4. 虫垂炎 5. 腸閉塞 6. イレウス 7. 大腸がん</p> <p>-肝・胆・膵疾患- 【肝臓の機能について】 【胆道系・膵臓の構造と機能について】 【症状(病態生理)について】 【診察・検査と看護】 【疾患・治療と看護】 I 肝炎 II 薬物性肝障害 III アルコール性肝障害 IV 脂肪肝 V 非アルコール性脂肪肝炎 (NASH) VI 肝硬変症 VII 肝臓がん VIII 胆嚢・胆管疾患 IX 膵臓疾患</p>						
評価方法	1. 筆記試験(真鍋:40点 寺岡:60点) 2. 出席状況						
テキスト	配布資料 腎・泌尿器 医学書院 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 成人看護学⑤消化器						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の対象の理解	領域	健康の理解	分野	専門基礎	領域	疾病の成り立ちと回復の促進
年次・学期	Ⅰ年次・後期		担当科	看護学科			
科目名	疾病と治療Ⅲ (内部環境・生体防御機能障害) 講義・30時間・Ⅰ単位		教員名	片山 雅博			
概要及び目的	看護学に必要な内部環境調節や生体防御機能障害の種別、原因、症状の特徴、検査、治療を理解し、治療に必要な基礎的知識を学ぶ。						
到達目標	代表的な内分泌疾患、アレルギー疾患、膠原病、血液疾患の病態生理の理解を深めることによって、看護師に必要な看護、患者さんへの説明・助言、他医療従事者への報告ができる。						
授業内容	<p>[血液造血機能を障害されている人の理解] (血液・造血器疾患)</p> <p>1. 1) 血液・造血器疾患の理解 2~4. 2) 血液・造血器疾患の症状・徴候とその病態生理 5~6. 3) 血液・造血器疾患の検査と治療・処置</p> <p>[内部環境調節を障害されている人の理解] (内分泌疾患)</p> <p>7. 1) 内分泌疾患の理解、2) 内分泌疾患の症状・徴候とその病態生理 8. 3) 内分泌疾患の検査と治療・処置</p> <p>[生体防御機能を障害されている人の理解] (アレルギー、膠原病、感染症)</p> <p>9. 1) アレルギー疾患の理解、2) アレルギー疾患の症状・徴候とその病態生理 10. 3) アレルギー疾患の検査と治療・処置 11. 4) 膠原病の理解、5) 膠原病の症状・徴候とその病態生理 12. 6) 膠原病の検査と治療・処置 13. 7) 感染症疾患の理解、8) 感染症疾患の症状・徴候とその病態生理 14. 9) 感染症疾患の検査と治療・処置 15. 終講試験</p>						
評価方法	1. 終講試験(100%) 2. 出席状況						
テキスト	配布資料 内分泌・代謝 医学書院 アレルギー・膠原病・感染症 医学書院 血液・造血器 医学書院						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の対象の理解	領域	健康の理解	分野	専門基礎	領域	疾病の成り立ちと回復の促進
年次・学期	1年次・後期		担当科	看護学科			
科目名	疾病と治療Ⅳ (運動・感覚機能障害) 講義・30時間・1単位		教員名	青木 清・久山 秀幸			
概要及び目的	看護学に必要な運動機能や神経・感覚機能障害の種別、症状の特徴、検査、治療の基礎的知識について学ぶ。						
到達目標	①看護学に必要な運動機能や神経・感覚機能障害の種別について説明できる。 ②運動機能や神経・感覚機能障害による症状の特徴について説明できる。 ③運動機能や神経・感覚機能障害に関連する検査や治療について説明できる。						
授業内容	青木(5コマ) 運動機能を障害されている人の理解 1～5. 運動器疾患の理解 外傷性(外因性)の運動器疾患・非外傷性(内因性)の運動器疾患 ・症状とその病態生理 ・診断・検査と治療・処置 久山(10コマ) 神経・感覚機能を障害されている人の理解 6. 脳・神経の構造と機能 7. 脳血管障害(脳梗塞)の症状とその病態生理、検査・診断と治療・処置 8. 脳血管障害(脳出血)の症状とその病態生理、検査・診断と治療・処置 9. 脳血管障害(くも膜下出血)の症状とその病態生理、検査・診断と治療・処置 10. 脳腫瘍の症状とその病態生理、検査・診断と治療・処置 11. 頭部外傷・脳脊髄液の異常の症状とその病態生理、検査・診断と治療・処置 12. 筋疾患・神経筋接合部疾患(筋ジストロフィー)の症状とその病態生理、検査・診断と治療・処置 13. 脱髄・変性疾患(パーキンソン病)の症状とその病態生理、検査・診断と治療・処置 14. 脱髄・変性疾患(筋委縮性側索硬化症)の症状とその病態生理、検査・診断と治療・処置 15. 脳・神経系の感染(特に脳炎・髄膜炎)の症状とその病態生理、検査・診断と治療・処置 16. 終講試験						
評価方法	終講試験(青木100点・久山100点)の平均を最終評価とする。						
テキスト	脳・神経 医学書院 運動器 医学書院						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の対象の理解	領域	健康の理解	分野	専門基礎	領域	疾病の成り立ちと回復の促進
年次・学期	2年次・前期		担当科	看護学科			
科目名	侵襲的治療Ⅰ (がんの治療) 講義・15時間・1単位		教員名	合地 明			
概要及び目的	看護学に必要ながんの主な治療法及び緩和医療について学び、治療しながら生活する人への影響について理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・最近のがんの疫学について説明できる。 ・臨床試験の結果を統計学的に理解できる。 ・主な癌の治療について説明できる。 ・緩和医療について説明できる。 						
授業内容	1～2. がんの疫学・特性・栄養 インフォームドコンセント・EBM がんの治療に必要な統計学的用語 3～5. がん治療の実際 ・手術療法 ・化学療法 ・放射線療法 6～7. 緩和医療 ・緩和ケアとは ・終末期に大切にしたいこと ・WHO方式がん疼痛治療法について 8. 終講試験						
評価方法	1. 終講試験(100%) 2. 出席状況						
テキスト	配布資料						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の対象の理解	領域	健康の理解	分野	専門基礎	領域	疾病の成り立ちと回復の促進
年次・学期	2年次・後期		担当科	看護学科			
科目名	侵襲的治療Ⅱ (手術療法) 講義・15時間・1単位		教員名	吉田 和弘 他			
概要及び目的	看護学に必要な回復過程の生体反応の知識を基盤として治療や栄養補給に関する原則を理解する。周手術期の治療の概観を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・手術侵襲に対する生体反応について述べるができる。 ・手術療法を受ける患者に必要な管理について述べるができる。 						
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手術侵襲と生体反応・麻酔法 全身麻酔:麻酔器・マスク・気管挿管・吸入麻酔・静脈麻酔・バランス麻酔 局麻酔:脊髄クモ膜下麻酔・硬膜外麻酔 2. 手術期器械、設備類手術用機器:電気メス・レーザー手術装置 3. モニター 循環器系モニター・呼吸器系モニター・筋弛緩モニター 体温測定:直腸温・口腔・咽頭温・鼓膜温・膀胱温 4. 酸素療法・機械的人工換気(人工呼吸器) 5. 周手術期の輸液管理・栄養管理・輸血療法 6. 手術前管理:循環器系・呼吸器系・消化器系・血液、凝固系・内分泌系各検査 呼吸機能検査、血液一般、生化学、血糖値、感染症、血液型、心電図 7. 術後の疼痛管理・合併症とその予防 8. 終講試験 						
評価方法	1. 終講試験 100%						
テキスト	配布資料 参考:臨床外科看護総論 医学書院						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の対象の理解	領域	健康の理解	分野	専門基礎	領域	疾病の成り立ちと回復の促進
年次・学期	2年次・前期		担当科	看護学科			
科目名	臨床薬理学 講義・30時間・1単位		教員名	田坂 祐一			
概要及び目的	<p>様々な疾患の治療に薬物療法は欠かすことのできない手法であり、医療従事者は用いられる薬物についてその様々な性質や作用（主作用、副作用、相互作用など）を十分に認識しておく必要がある。なかでも看護業務は、患者さんに最も身近な立場から薬物療法を支える大変重要な役割を担う。従って、看護師は与薬等の薬物療法を行う上で医薬品に関する確かな知識を有することが大変重要である。</p> <p>臨床薬理学では薬物に関する基礎的な知識、各疾患において使用される代表的な薬物の種類、効果と副作用、どのように有効性を発揮するのか（作用機序）、体内での薬物の運命（薬物動態）からみた薬物間の相互作用等を学習し、看護業務における医薬品の適正使用に対応できる実践的な知識も身につける。</p>						
到達目標	臨床薬理学では薬物に関する基礎的な知識、各疾患に関する基礎的な知識、使用される代表的な薬物の種類、効果と副作用、どのように有効性を発揮するのか（作用機序）、体内での薬物の運命（薬物動態）からみた薬物間の相互作用等を学習し、看護業務における医薬品の適正使用に対応できる実践的な知識も身につけることを到達目標とする。						
授業内容	<p><薬理学総論></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬理学の概念・薬が作用するしくみ 2. 薬物の体内挙動 3. 薬物間相互作用 4. 薬害、妊婦・授乳婦への薬物治療、副作用、薬物依存、法律、新薬開発 <p><薬理学各論></p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 抗感染薬 6. 抗がん薬 7. 免疫治療薬・抗アレルギー薬・抗炎症薬 8. 末梢での神経活動に作用する薬物 9. 中枢神経系に作用する薬物 10. 循環器系に作用する薬物 11. 呼吸器・消化器・生殖器・泌尿器系に作用する薬物 12. 物質代謝に作用する薬 13. 皮膚科用薬・眼科用薬・救急の際に使用される薬物 他 14. 漢方薬、消毒薬、輸液製剤・輸血剤 15. 終講試験 						
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 宿題20点 2. 終講試験80点 						
テキスト	薬理学 医学書院						
備考	<p>参考文献</p> <p>「新版 知らないと危ない!病棟でよく使われるくすり」 編集 荒木博陽・田中守 照林社</p> <p>「臨床場面でわかる!薬の知識」 監修 五味田 裕 編集 荒木博陽 南江堂</p> <p>・授業中や授業後の質問は大歓迎</p> <p>・私語は厳禁</p>						

教育課程独自体系				指定規則																																																			
分野	看護の対象の理解	領域	健康の理解	分野	基礎	領域	疾病の成り立ちと回復の促進																																																
年次・学期	2年次・後期		担当科	看護学科																																																			
科目名	微生物と感染症 講義・30時間・1単位		教員名	後藤 和義																																																			
概要及び目的	近年、新しく発見された微生物による感染症が大きな社会的問題になっており、結核に代表されるような、忘れがちになっていた感染症の再発も問題視されている。起炎菌や社会環境の変化、患者の人権の問題を含めて、感染症を引き起こす微生物の基礎知識を学ぶとともに、患者の安全や感染予防の重要性に照らし、予防と対策について正しい知識と態度を学ぶ。																																																						
到達目標	<p>免疫：生体にとっての異物を認識して、それを排除し得る因子を産生して感染防御等をするのが免疫の基本であるが、アレルギー疾患を起こす場合もあることを理解する。</p> <p>化学療法剤：感染症の治療のために人工的に開発された薬物の機能等を理解する。</p> <p>予防接種・ワクチン：免疫理論を応用したワクチンによる感染症予防の理論を理解する。</p>																																																						
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>展開方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>微生物学総論(歴史・分類・形態)、細菌学総論(形態・構造)</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>細菌学総論(増殖・感染(症)の種類・常在細菌叢)(後藤)(小テスト)</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>細菌学各論(1)グラム陽性球菌(ブドウ球菌属、レンサ球菌属、腸球菌属)、薬剤耐性菌</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>細菌学各論(2)グラム陰性通性嫌気性桿菌(腸内細菌科、ヒブリオ科、パストレラ科)</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>細菌学各論(3)グラム陰性微好気性らせん菌群・好気性菌(シュードモナス科、レジオネラ科、ナイセリア科)</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>細菌学各論(4)偏性嫌気性菌(ボツリヌス菌、破傷風菌、ウェルシュ菌、デフィシル菌)、芽胞菌、抗酸菌、他。(小テスト)</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ウイルス総論(ウイルスの形態・分類・構造・増殖。インフルエンザウイルス、ヘルペスウイルス)</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ウイルス各論(主たる病原ウイルス：麻疹・風疹ウイルス、コロナウイルス、ノロウイルス、肝炎ウイルス、HIV、他)</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>プリオン、真菌、原虫。小括。(小テスト)</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>滅菌と消毒(総論)</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>消毒剤(主な消毒剤の適用例：国試対策)。感染経路。感染予防と対策(小テスト)</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>新興・再興・人獣共通感染症。食中毒総論。総纏め</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>免疫；免疫の仕組、有用作用：感染防御、有害作用：アレルギー</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>化学療法剤；基礎と応用、予防接種；ワクチンと予防接種法</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>終講試験</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							回	授業内容	展開方法	1	微生物学総論(歴史・分類・形態)、細菌学総論(形態・構造)	講義	2	細菌学総論(増殖・感染(症)の種類・常在細菌叢)(後藤)(小テスト)	講義	3	細菌学各論(1)グラム陽性球菌(ブドウ球菌属、レンサ球菌属、腸球菌属)、薬剤耐性菌	講義	4	細菌学各論(2)グラム陰性通性嫌気性桿菌(腸内細菌科、ヒブリオ科、パストレラ科)	講義	5	細菌学各論(3)グラム陰性微好気性らせん菌群・好気性菌(シュードモナス科、レジオネラ科、ナイセリア科)	講義	6	細菌学各論(4)偏性嫌気性菌(ボツリヌス菌、破傷風菌、ウェルシュ菌、デフィシル菌)、芽胞菌、抗酸菌、他。(小テスト)	講義	7	ウイルス総論(ウイルスの形態・分類・構造・増殖。インフルエンザウイルス、ヘルペスウイルス)	講義	8	ウイルス各論(主たる病原ウイルス：麻疹・風疹ウイルス、コロナウイルス、ノロウイルス、肝炎ウイルス、HIV、他)	講義	9	プリオン、真菌、原虫。小括。(小テスト)	講義	10	滅菌と消毒(総論)	講義	11	消毒剤(主な消毒剤の適用例：国試対策)。感染経路。感染予防と対策(小テスト)	講義	12	新興・再興・人獣共通感染症。食中毒総論。総纏め	講義	13	免疫；免疫の仕組、有用作用：感染防御、有害作用：アレルギー	講義	14	化学療法剤；基礎と応用、予防接種；ワクチンと予防接種法	講義	15	終講試験	
回	授業内容	展開方法																																																					
1	微生物学総論(歴史・分類・形態)、細菌学総論(形態・構造)	講義																																																					
2	細菌学総論(増殖・感染(症)の種類・常在細菌叢)(後藤)(小テスト)	講義																																																					
3	細菌学各論(1)グラム陽性球菌(ブドウ球菌属、レンサ球菌属、腸球菌属)、薬剤耐性菌	講義																																																					
4	細菌学各論(2)グラム陰性通性嫌気性桿菌(腸内細菌科、ヒブリオ科、パストレラ科)	講義																																																					
5	細菌学各論(3)グラム陰性微好気性らせん菌群・好気性菌(シュードモナス科、レジオネラ科、ナイセリア科)	講義																																																					
6	細菌学各論(4)偏性嫌気性菌(ボツリヌス菌、破傷風菌、ウェルシュ菌、デフィシル菌)、芽胞菌、抗酸菌、他。(小テスト)	講義																																																					
7	ウイルス総論(ウイルスの形態・分類・構造・増殖。インフルエンザウイルス、ヘルペスウイルス)	講義																																																					
8	ウイルス各論(主たる病原ウイルス：麻疹・風疹ウイルス、コロナウイルス、ノロウイルス、肝炎ウイルス、HIV、他)	講義																																																					
9	プリオン、真菌、原虫。小括。(小テスト)	講義																																																					
10	滅菌と消毒(総論)	講義																																																					
11	消毒剤(主な消毒剤の適用例：国試対策)。感染経路。感染予防と対策(小テスト)	講義																																																					
12	新興・再興・人獣共通感染症。食中毒総論。総纏め	講義																																																					
13	免疫；免疫の仕組、有用作用：感染防御、有害作用：アレルギー	講義																																																					
14	化学療法剤；基礎と応用、予防接種；ワクチンと予防接種法	講義																																																					
15	終講試験																																																						
評価方法	終講試験																																																						
テキスト	微生物学 医学書院																																																						
備考	<p>今回の学習箇所を予習(教科書の下読み)しておくこと。</p> <p>参考書：[病原微生物の世界] 小熊恵二著、あっぷる出版社 ISBN978-4-87177-362-1</p>																																																						

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の対象の理解	領域	健康の理解	分野	専門	領域	老年看護学
年次・学期	2年次・前期		担当科	看護学科			
科目名	高齢者の健康生活と支援 講義・30時間・1単位		教員名	大本 明美			
概要及び目的	高齢者は加齢に伴い種々の機能変化が生じ、日常生活に影響を及ぼすだけでなく、疾患の引き金となる。また、一度健康破綻すると、予備力の低下から健康回復は遅延し、慢性的経過をたどりやすい。これらの特徴を踏まえ高齢者の健康あるいは生活上のリスクを最小にし、もてる力を最大限に引き出すための支援を学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・加齢に伴う高齢者の身体機能と認知機能の変化について説明できる。 ・高齢者の心身機能の状態を測定できるアセスメントツールを理解することができる。 ・アセスメントツールを用いた評価方法によって、各々の高齢者の状態に応じたケアや支援を看護倫理に基づいて考えることができる。 						
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活を支える基本的活動Ⅰ 基本動作と環境のアセスメント(生活の基本となる生活動作、基本動作・姿勢を抱える環境) 2. 日常生活を支える基本的活動Ⅱ 日常生活動作の評価 3. 日常生活を支える基本的活動Ⅲ 転倒のアセスメントと看護(高齢者の転倒、転倒リスクアセスメント、転倒予防に向けた援助、転倒した高齢者への援助) 4. 日常生活を支える基本的活動Ⅳ 廃用症候群のアセスメントと看護(高齢者と廃用症候群、廃用症候群の早期発見・予防に向けた看護、褥瘡の基本知識) 5. 褥瘡・スキンケア(症状の成り立ちと臨床的特徴、アセスメント、看護の要点) 6. 食事・食生活Ⅰ(高齢者における食生活の意義、高齢者の特徴的な変調、食生活のアセスメント) 7. 食事・食生活Ⅱ(食生活の支援) 8. 排泄Ⅰ(高齢者の排泄ケアの基本、排尿障害のアセスメントとケア) 9. 排泄Ⅱ(排便障害のアセスメントとケア) 10. 生活リズムⅠ(高齢者と生活リズム、高齢者の特徴的な変調、生活リズムのアセスメント) 11. 生活リズムⅡ(生活リズムを整える看護) 12. コミュニケーションⅠ(高齢者とのかかわり方の原則、コミュニケーション能力のアセスメント) 13. コミュニケーションⅡ(高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーションの方法) 14. 地域における高齢者への看護(社会参加の現状と支援、介護予防と生活支援、地域共生社会) 15. 終講試験 						
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験(100点) 2. 授業態度・出席状況 						
テキスト	老年看護学 医学書院 老年看護・病態・疾患論 医学書院 配布資料						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の対象の理解	領域	健康の理解	分野	専門	領域	小児看護学
年次・学期	2年次・前期		担当科	看護学科			
科目名	子どもの発達と支援 講義・30時間・1単位		教員名	賀川 奈美			
概要及び目的	子どもの各期の特徴と成長発達を理解し、成長発達に適した生活ができる方法を理解する。また、子どもに起こりやすい健康課題の特徴を身体的・心理・社会的側面から理解する。さらに、子どもの生命を守り、健康の保持増進と疾病予防を図る生活援助技術について学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子供の成長発達について、子どもの各期の特徴について説明できる。 2. 子どもに起こりやすい健康課題の特徴を身体的・心理的・社会的側面から説明できる。 3. 健康の保持増進と疾病予防を図る生活援助技術について説明できる。 						
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1～3. 授業内容の説明 小児各期の成長・発達について 子どものアセスメント(護理論・発育評価) 4. 成長発達のまとめ:各年齢の特徴をまとめる 5～7. 子どもの成長・発達と支援 ①新生児・乳児期 ・特徴と各機能の発達 ・養育と看護 8～9. 子どもの成長・発達と支援 ②幼児期(前期・後期) ・特徴と各機能の発達 ・養育と看護 10～11. 子どもの成長・発達と支援 ③学童期 ・特徴と各機能の発達 ・学童を取り巻く諸環境 ・養育と看護 12～13. 子どもの成長・発達と支援 ④思春期、青年期 ・特徴と各機能の発達 ・養育と看護 ・心理・社会的適応に関する問題、飲酒・喫煙、事故・外傷など ・思春期の看護 14. 成長発達のまとめ発表 15. 終講試験 						
評価方法	終講試験(95%)、提出物・出席状況(5%)						
テキスト	小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の対象の理解	領域	健康の理解	分野	専門	領域	精神看護学
年次・学期	2年次・前期		担当科	看護学科			
科目名	こころの健康と支援 講義・30時間・1単位		教員名	小橋 みち子			
概要及び目的	人は生まれてから死を迎えるまで絶えず心を働かせながら社会生活を営んでおり、心は身体と共に環境の中で様々な影響を受けながら発達し、成熟していく。また、ライフサイクルの中で成熟していく過程においては人は様々な危機に遭遇し、それを乗り越えながら自己実現を目指して生きていく。この科目では心の発達と人のライフサイクルにおける危機への対処行動を支え、心の健康を守るための支援を学ぶ。						
到達目標	1. 人のこころの働きと発達について説明できる。 2. ライフサイクルおよびライフイベントにおける精神的危機とその支援について説明できる。 3. 他科領域における精神看護の意義について説明できる						
授業内容	1～2. こころの構造と働き <ul style="list-style-type: none"> こころの働き(意識と認知機能・感情・学習と行動・知能・こころの理論) こころのしくみ(人格と気質・意識と無意識・自我の構造と役割) 3～6. 人間の成長とこころの発達 <ul style="list-style-type: none"> 発達: エリクソンの漸成的発達理論 フロイトの自我の発達段階・ピアジェの発生的認識理論) 子どもの発達とこころ(愛着と対人関係・自己愛の発達) 家族システム、人間と集団 人間の性と発達 7～10. 人間の生活とクライシス(精神的危機) <ul style="list-style-type: none"> ストレスとコーピング ライフサイクルとメンタルヘルス(成熟に伴う危機) (家庭における危機・学校における危機・職場における危機・地域における危機) 災害とこころの支援 11～14. 健康障害とこころの支援 <ul style="list-style-type: none"> 健康障害に伴うこころの危機の理解 危機理論を活用した支援 リエゾン精神看護の役割 15. 終講試験						
評価方法	1. 終講試験 100%						
テキスト	精神看護の基礎 医学書院 精神看護の展開 医学書院						
備考							

分野「看護の理解と創造」

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の理解と創造	領域	看護の理解	分野	専門	領域	地域・在宅看護論
年次・学期	2年次・前期		担当科	看護学科			
科目名	地域・在宅で療養する人への看護 I (多職種との連携) 講義・15 時間・1 単位		教員名	寺岡 仁子 他			
概要 及び 目的	地域・在宅で療養する人と家族が住み慣れた地域の中の望む場において、よりよい生活を継続するために多職種がそれぞれの特性を活かしながら連携・協働していることを理解する。また、多職種連携のなかでの看護師の役割を学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域・在宅で療養する人を支えている主な社会福祉制度を述べるができる。 ・多職種の定義・業務内容、看護師との連携について述べるができる。 						
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅において多職種が連携する意味について 地域・在宅での療養する人への看護を提供するしくみ(1コマ) (寺岡) 2. 在宅における医療・福祉に関わる関係機関や専門職の資格や業務内容、役割の理解について <ol style="list-style-type: none"> 1) 訪問看護について(1コマ) (本田) 看護師や介護支援専門員等の役割 2) 理学療法士・作業療法士について(1コマ) リハビリテーション概論、PT・OT の定義・業務の実際と看護師との連携 3) 言語聴覚士について(1コマ) (水木) ST の定義・業務の実際と看護師との連携 4) 介護福祉士について(1コマ) (小淵) 介護福祉士やヘルパーの業務の実際と看護師との連携 3. 多職種と連携・協働するための多職種の理解や看護師の役割の実際について (紙上事例を元にまとめて発表) (3コマ) (寺岡) 						
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 単元レポート50% 2. 提出課題50% 3. 出欠状況 						
テキスト	地域・在宅看護の基盤 医学書院 地域・在宅看護の実践 医学書院 看護関係法令 医学書院 看護学概論 医学書院 看護管理 医学書院						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の理解と創造	領域	看護の理解	分野	専門	領域	地域・在宅看護論
年次・学期	2年次・後期		担当科	看護学科			
科目名	地域・在宅でくらす人への看護Ⅱ (発達段階) 講義・30時間・1単位		教員名	山本 晃代・山崎 真弓・田中 勝			
概要及び目的	地域・在宅で療養する対象者及び家族の発達段階を意識した目標・課題解決に向け、看護師の役割を学ぶ。 ここでは幼児や高齢者の事例を基に理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・事例をとおして各発達段階を意識した地域・在宅での看護師の役割について説明できる。 ・事例をとおして各発達段階で活用できる関係職種や社会福祉制度について説明できる。 						
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・各発達段階における療養者の在宅での看護について ・パーキンソン病の療養者、認知症高齢者の一人暮らしの療養者、がん終末期の療養者への看護の役割、関係職種、社会福祉制度について ・各年代の療養者を在宅で支える看護の役割について ・在宅で療養する子ども(医療的ケア児など)と家族への支援 看護師の役割、関係職種との連携や社会福祉制度 など ・在宅で療養する精神障がいがある人への支援 看護師の役割、関係職種との連携や社会福祉制度 など 						
評価方法	1. 医療的ケア児の看護資料 20% 理解度ミニテスト 20% 2. 該当事例の看護資料 40% 理解度ミニテスト 10% 3. 自己評価や学びのまとめ 10%						
テキスト	地域・在宅看護の基盤 医学書院 消化器 医学書院 脳神経 医学書院 地域・在宅看護の実践 医学書院 老年看護学 医学書院						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の理解と創造	領域	看護の理解	分野	専門	領域	成人看護学
年次・学期	2年次・後期		担当科	看護学科			
科目名	クリティカルケアを必要とする人への看護 講義・30時間・1単位		教員名	草苺 良輔・野上 晋作 山下 敬子			
概要 及び 目的	人が生きていくために、呼吸、循環、栄養、代謝、脳・神経などの機能がはたらかなければならない。疾病や手術などによってこれらの機能が破綻すると生命の危機状態に陥ることやリスクが高まる。このような健康レベルにある成人期の対象者や家族の危機への対応身体機能の安定や合併症の予防、回復を支援するための看護について学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・クリティカルケアの基本的概要について説明できる。 ・クリティカルケアを必要とする患者・家族への援助方法について説明できる。 						
授業内容	<p>1. クリティカルケアを必要とする人とは (講義)</p> <p>2～3. 見学実習(心臓病センター榊原病院) (見学、まとめ、発表) 手術室・カテ室・ICU・HCUのいずれかで実習します。 見学実習後、まとめ発表</p> <p>4. 手術を受ける患者の看護 (講義)</p> <p>5～7. 循環機能障害のある患者の病態と看護の理解(講義) ・循環機能障害の病態生理・循環機能障害のアセスメント ・循環機能障害のケア</p> <p>8～10. 呼吸機能障害のある患者の病態と看護の理解(講義) ・呼吸機能障害の病態生理・呼吸機能障害のアセスメント ・呼吸機能障害のケア</p> <p>11～14. 周手術期にある患者への看護(講義) ・循環器疾患患者事例を用いて</p>						
評価方法	終講試験 100%						
テキスト	クリティカルケア看護学 医学書院 循環器 成人看護学③ 医学書院 臨床外科看護総論 医学書院						
備考							

教育課程独自体系				指定規則																											
分野	看護の理解と創造	領域	看護の理解	分野	専門	領域	成人看護学																								
年次・学期	2年次・前期		担当科	看護学科																											
科目名	生活の再構築を必要とする人への看護 講義・30時間・1単位		教員名	清水 恵子・川上 雅弘																											
概要及び目的	患者は治療による身体機能の変化や、継続的な治療により日常生活上の制約を受けることがある。成人期にある対象者や家族が疾患や治療による身体機能の変化や治療の継続が日常になることを認識し受けとめることで、日常生活を再構築し、社会復帰に向けて支援するための看護を学ぶ。																														
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・疾患や治療による機能障害について学び、日常生活に影響を及ぼす状態について理解する。 ・障害された機能の回復や残存機能の活用をはかり、生活を再構築できるように日常生活活動を拡大していく看護師の役割について理解する。 ・対象者が望む生活に近づけ、社会復帰を目指し調整する看護師の役割について理解する。 																														
授業内容	<p>清水先生</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回</td> <td>・脳・神経の働きと病態生理</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2～4回</td> <td>・1) 運動機能障害 2) 摂食嚥下障害 3) 言語障害をもつ人のリハビリテーション看護</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5～7回</td> <td>・脳梗塞患者の看護(回復期)</td> <td>講義 ワーク</td> </tr> </tbody> </table> <p>川上先生</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1～2回</td> <td>・排泄機能のしくみと病態生理</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>・排泄機能障害をもつ人のリハビリテーション看護</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4～7回</td> <td>・排泄機能障害のある患者の看護 1) ストーマ増設の概要 2) 術後の看護と術後合併症 3) 回復期の看護</td> <td>講義 ワーク</td> </tr> </tbody> </table>							回数	内容		1回	・脳・神経の働きと病態生理	講義	2～4回	・1) 運動機能障害 2) 摂食嚥下障害 3) 言語障害をもつ人のリハビリテーション看護	講義	5～7回	・脳梗塞患者の看護(回復期)	講義 ワーク	回数	内容		1～2回	・排泄機能のしくみと病態生理	講義	3回	・排泄機能障害をもつ人のリハビリテーション看護	講義	4～7回	・排泄機能障害のある患者の看護 1) ストーマ増設の概要 2) 術後の看護と術後合併症 3) 回復期の看護	講義 ワーク
回数	内容																														
1回	・脳・神経の働きと病態生理	講義																													
2～4回	・1) 運動機能障害 2) 摂食嚥下障害 3) 言語障害をもつ人のリハビリテーション看護	講義																													
5～7回	・脳梗塞患者の看護(回復期)	講義 ワーク																													
回数	内容																														
1～2回	・排泄機能のしくみと病態生理	講義																													
3回	・排泄機能障害をもつ人のリハビリテーション看護	講義																													
4～7回	・排泄機能障害のある患者の看護 1) ストーマ増設の概要 2) 術後の看護と術後合併症 3) 回復期の看護	講義 ワーク																													
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・終講試験100%(清水先生50%・川上先生50%) ・出席状況・提出物:評価に含む 																														
テキスト	<p>配布資料</p> <p>医学書院テキスト:病態生理学/脳・神経 / 消化器/腎・泌尿器/リハビリテーション看護</p>																														
備考																															

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の理解と創造	領域	看護の創造	分野	専門	領域	成人看護学
年次・学期	2 年次・前期		担当科	看護学科			
科目名	セルフマネジメントを必要とする人への看護 講義・30 時間・1 単位		教員名	森原 百合子・西村 清志・吉沢 祐子			
概要 及び 目的	成人期の対象者は生活を営む主体である。そのため、疾病の予防、健康の保持・増進、健康の回復において自己管理ができるように教育することが重要である。あらゆる健康レベルの成人期にある人が病と共存するために重要なセルフマネジメント能力を身につけられるために看護について理解する。						
到達目標	・長期セルフケアに伴う問題とセルフコントロールの看護介入方法について説明できる。						
授業内容	<p>森原</p> <p>1～8. 1)セルフマネジメントを支える諸理論 セルフマネジメントとは 健康教育の考え方の変遷 セルフマネジメント支援の構成要素、主要概念</p> <p>2)セルフマネジメントのための対象理解 本人と病気の位置関係モデル、健康信念モデル、エンパワメントモデル、自己効力理論</p> <p>3)セルフマネジメントを推進する看護方法</p> <p>4)セルフマネジメントを目指す看護の実際 糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援(内分泌・代謝障害をもつ患者の看護・糖尿病患者の事例) 糖尿病の基礎知識の理解 グループ演習:事例患者の長期セルフケアに伴う問題とセルフコントロールへの看護の介入方法</p> <p>9. 5)事例検討会(グループ発表)、まとめ</p> <p>西村</p> <p>10. 慢性腎臓病(CKD)患者の看護 慢性腎臓病(CKD)の病期に応じた生活指導 検査 腎生検を受ける患者の看護 浮腫のある患者の看護</p> <p>11～12. 透析療法を受ける患者の看護 保存期から透析導入前(治療選択期)の患者の看護 透析療法の適用基準と選択 血液透析、腹膜透析患者の看護 透析と社会保障 シヤント造設と管理 食事管理 血液透析維持期の検査目標値、合併症の理解と自己管理に向けた支援 血液透析治療での看護の実際 治療前、治療中、治療後の患者の看護と透析 機器の準備とチェック</p> <p>吉沢</p> <p>13～14. 内分泌・代謝障害をもつ患者の看護(実践編) ・糖尿病の分類・診断、程度を把握するための検査 ・薬物療法と日常生活の指導、薬物療法の作用・副作用、服薬指導、インスリン、自己注射の指導、シックデイ、フットケア ・合併症(急性・慢性)の予防と看護</p>						
評価方法	1. 終講試験 100%						
テキスト	成人看護学総論 医学書院 腎・泌尿器 医学書院 内分泌・代謝 医学書院						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の理解と創造	領域	看護の創造	分野	専門	領域	成人看護学
年次・学期	2年次・後期			担当科	看護学科		
科目名	緩和ケアを必要とする人への看護 講義・30時間・1単位			教員名	六原 純子・長谷川 亜樹 竹内 真知子・松浦 祐美子		
概要及び目的	<p>人生の最期のときにある人や治癒することが困難な状態にある人の全人的苦痛を緩和し、その人が望む人生を送るための看護援助について理解する。</p> <p>緩和ケアにおける倫理的問題、緩和ケアにおけるコミュニケーションと意思決定支援、苦痛を緩和するための症状マネジメントと看護、家族への支援について、造血器障害をもつ対象者の看護をとおして学ぶ。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人生の最期のときにある人や治癒することが困難な状態にある人の全人的苦痛を緩和し、その人が望む人生を送るための看護を述べることができる。 ・緩和ケアにおける倫理的課題に気づき、対応を考えることができる。 ・対象者の全人的苦痛を理解し、必要な看護を述べるができる。 						
授業内容	<p>六原・長谷川 1～8.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケアの現状と展望(緩和ケアの歴史と発展、緩和ケアの理念) ・緩和ケアにおけるチームアプローチ(求められる専門性など) ・緩和ケアにおけるコミュニケーション(患者と医療者の認識、難易な場面对応など) ・緩和ケアにおける倫理的課題 ・臨死期のケアおよび家族のケア、医療スタッフのケア ・全人的ケアの実践(身体的・心理的・社会的・スピリチュアル等) ・緩和ケアに関する教育(認定看護師の看護実践) <p>竹内 9～10.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WHO 式がん疼痛治療法 除痛ラダー 鎮痛薬の分類 オピオイドの副作用含む <p>松浦 11～14.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放射線療法をうける患者の看護 ・化学療法をうける患者の看護 ・疼痛管理が必要な患者の看護 						
評価方法	<p>第1～8回:筆記試験70%</p> <p>第9～10回:課題レポート20% 第11～14回:筆記試験10%</p> <p>ただし、課題レポートは提出期限等をふまえて評価する</p>						
テキスト	<p>緩和ケア 医学書院</p> <p>臨床看護総論 医学書院</p>						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の理解と創造	領域	看護の創造	分野	専門分野	領域	老年看護学
年次・学期	2 年次・後期		担当科	看護学科			
科目名	高齢者の健康障害と看護 講義・15 時間・1 単位		教員名	大本 明美			
概要 及び 目的	加齢に伴う身体的および精神的機能の変化が高齢期の疾病の発症や生活の質に及ぼす影響を理解し、適切な援助についての判断と方法を学ぶ						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に起こりやすい主な疾病や症状について説明できる ・高齢者の健康問題について理解し、解決や予防のための看護について説明できる。 ・治療を受ける高齢者の看護について説明できる。 						
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第6章 健康逸脱からの回復を促す看護 B 症候のアセスメントと看護 ③痒み ④脱水 2. 第6章 健康逸脱からの回復を促す看護 C 認知機能障害のある高齢者の看護 ①うつ ②せん妄 3. 第6章 健康逸脱からの回復を促す看護 C 認知機能障害のある高齢者の看護 ③認知症 4. 第6章 健康逸脱からの回復を促す看護 C 認知機能障害のある高齢者の看護 ③認知症 5. 認知機能障害のある高齢者の看護(DVD鑑賞) 6. 第7章 治療を必要とする高齢者の看護 D 手術を受ける高齢者の看護(白内障) 7. 第7章 治療を必要とする高齢者の看護 F 入院治療を受ける高齢者の看護 8. 終講試験 						
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験 70% 2. 課題提出 30% (・DVD鑑賞後の感想と関連学習 ・紙上患者事例の退院支援の調整と看護) 3. 授業態度・出席状況 						
テキスト	老年看護学 医学書院 老年看護・病態・疾患論 医学書院 配布資料						
備考	DVDビデオ：ドキュメンタリー映画「ぼけますから、よろしくお願いします」						

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の理解と創造	領域	看護の理解	分野	専門分野	領域	小児看護学
年次・学期	2年次・前期・後期		担当科	看護学科			
科目名	子どもの健康障害と看護 講義・30時間・1単位		教員名	賀川 奈美・片山 雅博 溝口 好美			
概要及び目的	様々な健康レベルの子どもと家族の健康上の問題を理解し、子どもの成長発達生じやすい症状及び治療・処置に伴う看護を学ぶ。						
到達目標	1. 小児特有の疾患について理解できる 2. 子どもの健康問題について理解し、解決や予防のための看護が理解できる 3. 検査、治療、処置を受ける子どもの看護が理解できる						
授業内容	片山・溝口 1. 小児特有の疾患 先天異常：染色体異常（ダウン症・ターナー症候群他）先天性代謝異常 2. 小児特有の疾患 新生児・低出生体重児（新生児仮死・呼吸窮迫症候群、頭蓋内出血） 3. 小児特有の疾患 神経疾患（水頭症・てんかん・熱性けいれん・髄膜炎・発達障害・注意欠陥多動症） 賀川 4～5. 疾病・障害をもつ子どもと家族の看護 1) 病気・障害が子どもと家族に与える影響 2) 子どもの健康問題と看護 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 1) 入院中の子どもと家族 2) 外来における子どもと家族の看護 3) 災害時の子どもと家族の看護 6. 検査・処置を受ける子どもと家族の看護 1) 骨髄検査・腰椎検査 2) 検体採取（尿・血液など） 3) 薬物動態 4) 与薬・輸液管理 7～8. 子どもに出現しやすい症状と看護 発疹・発熱・脱水・呼吸困難・痙攣などを示す子どもと家族の看護（急性感染症を含む） 9～10. 慢性期にある子どもと家族の看護 慢性期疾患の特徴と看護 若年性糖尿病の子どもと家族の看護 ネフローゼ症候群の子どもと家族の看護 気管支喘息の子どもと家族の看護 11～12. 急性期にある子どもと家族の看護 急性期疾患の特徴と看護 腸重積の子どもと家族の看護 手術を受ける子どもと家族の看護 13～14. 終末期にある子どもと家族の看護 1) 子どもの死の概念 2) 終末期にある子どもと家族の特徴 3) 終末期の看護						
評価方法	1. 筆記試験：片山・溝口：30% 賀川：70%（出席状況、授業態度、提出物等をふまえて評価する） 2. 出席状況、授業態度、提出物						
テキスト	小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 小児臨床看護各論						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の理解と創造	領域	看護の理解	分野	専門分野	領域	母性看護学
年次・学期	2 年次・前期		担当科	看護学科			
科目名	命をはぐくむしくみと看護 講義・30 時間・1 単位		教員名	酒井 文穂			
概要 及び 目的	正常な経過をたどる妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期にある対象の生理的变化に応じた看護を学ぶ。また、新しい命とその家族の関係再構築にむけた看護を学ぶ						
到達目標	妊娠・分娩・産褥・新生児各期の正常な経過を理解する。また生命の尊さや家族の思いについて考えることができる。						
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 不妊症の看護 2. 妊娠の生理: 妊娠の成立 3. 胎児の発育とその生理: 染色体・分裂～羊水の機能 4. 胎児の発育とその生理: 胎児の生理～母体の生理的機能 5. 妊娠と妊娠経過の診断: 妊娠反応・ネーグレ概算法・超音波診断法など 6. 妊娠と妊娠経過の診断: レオポルド触診法・NST モニターなど 7. 母体の生理的機能と心理: 母体の生理的变化 8. 妊娠中の生活と心理: 活動と休息、マイナートラブルなど 9. 分娩の要素と経過: 分娩 3 要素、分娩第 1 期・2 期・3 期・4 期 10. 分娩の実際と各期の看護: 分娩期の心理と看護 11. 産褥期の身体的・心理的变化 12. 産褥期の異常と逸脱を予防する看護 13. 新生児期の生理的变化と胎外生活への適応促進 14. 新生児期の異常と逸脱を予防する看護 15. 終講試験 						
評価方法	終講試験 100%						
テキスト	母性看護学概論 医学書院 母性看護学各論 医学書院						
備考							

教育課程独自体系				指定規則					
分野	看護の理解と創造	領域	看護の理解	分野	専門	領域	母性看護学		
年次・学期	2 年次・ 前期		担当科	看護学科					
科目名	健康障害がある母子への看護 講義・15 時間・1 単位		教員名	山口 玲子					
概要 及び 目的	近年、少子化、高齢初産、不妊治療の増加など命をはぐむ環境が大きく変化している。合併妊娠やハイリスクになりうる要因も増加している。ウェルネスから逸脱した周産期の母子の健康障害について理解し、必要な援助を学ぶ。妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期に起こりやすい異常について視覚的教材を活用しながら理解を深める。								
到達目標	ハイリスク妊娠・分娩・産褥・新生児期における病態および疾患を理解し、看護の果たす役割を考えることができる。								
授業内容	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> 1. 妊娠期のウェルネスからの逸脱 1) ハイリスク妊娠と妊娠期の異常 偶発全身性疾患 妊娠期の感染症 妊娠悪阻 多胎妊娠流産 血液型不適合妊娠 早産 過期妊娠 子宮外妊娠 常位胎盤早期剥離 前置胎盤 妊娠高血圧症候群 2) ハイリスク妊婦・異常をきたした妊婦の治療と看護 2. 分娩期のウェルネスからの逸脱 1) 分娩期の異常 産道の異常 娩出力の異常 胎児の異常による分娩障害 胎児付属物の異常 分娩時の損傷 分娩第 3 期及び分娩直後の異常 分娩時の異常出血 産科処置 帝王切開 胎児機能不全 死産 2) 異常をきたした産婦の治療と看護 </td> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> 3. 産褥期のウェルネスからの逸脱 1) 産褥期の異常 進行性変化と退行性変化の異常 褥婦の心理 2) 異常をきたした褥婦の治療と看護 4. 新生児期のウェルネスからの逸脱 1) 新生児期の異常 低出生体重児 先天異常・障害を持つ新生児 分娩外傷 新生児仮死 2) 異常をきたした新生児の治療と看護 </td> </tr> </table>							1. 妊娠期のウェルネスからの逸脱 1) ハイリスク妊娠と妊娠期の異常 偶発全身性疾患 妊娠期の感染症 妊娠悪阻 多胎妊娠流産 血液型不適合妊娠 早産 過期妊娠 子宮外妊娠 常位胎盤早期剥離 前置胎盤 妊娠高血圧症候群 2) ハイリスク妊婦・異常をきたした妊婦の治療と看護 2. 分娩期のウェルネスからの逸脱 1) 分娩期の異常 産道の異常 娩出力の異常 胎児の異常による分娩障害 胎児付属物の異常 分娩時の損傷 分娩第 3 期及び分娩直後の異常 分娩時の異常出血 産科処置 帝王切開 胎児機能不全 死産 2) 異常をきたした産婦の治療と看護	3. 産褥期のウェルネスからの逸脱 1) 産褥期の異常 進行性変化と退行性変化の異常 褥婦の心理 2) 異常をきたした褥婦の治療と看護 4. 新生児期のウェルネスからの逸脱 1) 新生児期の異常 低出生体重児 先天異常・障害を持つ新生児 分娩外傷 新生児仮死 2) 異常をきたした新生児の治療と看護
1. 妊娠期のウェルネスからの逸脱 1) ハイリスク妊娠と妊娠期の異常 偶発全身性疾患 妊娠期の感染症 妊娠悪阻 多胎妊娠流産 血液型不適合妊娠 早産 過期妊娠 子宮外妊娠 常位胎盤早期剥離 前置胎盤 妊娠高血圧症候群 2) ハイリスク妊婦・異常をきたした妊婦の治療と看護 2. 分娩期のウェルネスからの逸脱 1) 分娩期の異常 産道の異常 娩出力の異常 胎児の異常による分娩障害 胎児付属物の異常 分娩時の損傷 分娩第 3 期及び分娩直後の異常 分娩時の異常出血 産科処置 帝王切開 胎児機能不全 死産 2) 異常をきたした産婦の治療と看護	3. 産褥期のウェルネスからの逸脱 1) 産褥期の異常 進行性変化と退行性変化の異常 褥婦の心理 2) 異常をきたした褥婦の治療と看護 4. 新生児期のウェルネスからの逸脱 1) 新生児期の異常 低出生体重児 先天異常・障害を持つ新生児 分娩外傷 新生児仮死 2) 異常をきたした新生児の治療と看護								
評価方法	1. 筆記試験 100%								
テキスト	母性看護学各論 医学書院								
備考									

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の理解と創造	領域	看護の理解	分野	専門	領域	精神看護学
年次・学期	2年次・後期		担当科	看護学科			
科目名	精神に障がいがある人への看護 講義・30時間・1単位		教員名	高木 俊輔・根本 浩江 岡田 麻理子			
概要及び目的	精神障がいの特徴や状態像、治療、検査、経過に応じた看護を学び、精神看護の実践を理解する。また、精神に障がいがある人を取り巻く家族・地域・社会への支援のあり方を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主要な精神疾患(精神障がい)の特徴や症状、経過の特徴について述べることができる。 2. 精神に障がいがある人の主な治療と看護、主要な症状への対応について述べるができる。 3. 精神に障害がある人を地域で支えるための仕組みについて理解できる。 						
授業内容	<p>高木(8コマ)</p> <p>1～2. 精神障がいの理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神障がいのとらえ方 ・精神疾患の3分類(外因性・心因性・内因性・生物心理社会モデル) ・主要な症状(思考の障害・感情の障害・意欲の障害・知覚の障害・意識の障害・記憶の障害・局在症状) ・主要な検査(人格検査・知能検査・認知機能検査) <p>3～4. 統合失調症の病態と看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疫学と成因(ドパミン仮説・ドパミン経路) ・病型(緊張型・破瓜型・妄想型)の特徴 ・症状(プロイラーの基本症状と副次症状・シュナイダーの一級症状と二級症状・陽性症状と陰性症状) ・治療(精神療法・薬物療法:第1世代及び第2世代抗精神病薬の作用機序と有害事象) ・発病と回復のプロセス(前駆期・急性期・回復・寛解期) ・看護の基本姿勢(幻覚・妄想がある対象者への関わり方・セルフケア支援) <p>5. 精神科における身体合併症と看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神科におけるフィジカルアセスメント ・多飲症と水中毒の予防と看護(抗コリン作用) ・イレウス ・メタボリックシンドローム ・睡眠障害(睡眠状態のアセスメントとケア) <p>6. 精神科の多様な治療</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神分析・支持療法・クライアント中心療法 ・森田療法・内観療法 ・認知行動療法・行動療法 ・自立訓練法・バイオフィードバック ・アートセラピー・絵画療法・音楽療法・箱庭療法・プレイセラピー ・集団精神療法 <p>7～8. 家族支援と地域ケア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神障がいと家族間コミュニケーション ・家族役割(共依存・IP) ・家族の感情表出と家族心理教育 ・家族療法とナラティブアプローチ ・精神科における回復の考え方(リカバリー・ストレングスマデルの活用・レジリエンス・リハビリテーション) ・退院支援の実践と再発予防(社会資源の活用の実践) ・アウトリーチと多職種支援の実践 ・再発防止と訪問看護による支援 <p>根本(5コマ)・岡田(1コマ)</p> <p>9. 感情障害の病態と看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疫学と成因(モノアミン仮説) ・病型(単極型・双極型)の特徴 ・症状(躁期・鬱期の症状の特徴) ・治療(認知行動療法・薬物療法:抗うつ薬と気分安定薬の作用と有害事象・電気けいれん療法) ・看護の基本姿勢(自殺予防のリスクマネジメント(リスクファクター・TALKの原則)・躁期と鬱期の関わり方とセルフケア支援) <p>10. 精神作用物質使用による精神および行動障害の病態と看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嗜癖の理解(耐性・離脱・乱用) ・精神依存と身体依存 ・アルコール症の特徴(寝台指標・心理特性・離脱症状・合併症・アルコール精神病)と治療過程(断酒・集団精神療法・自助グループ・抗酒薬) ・アルコールが身体に及ぼす影響 ・薬物依存の特徴(違法薬物・社会的問題・DARC) ・依存と家族(インエイラー・家族教育) ・看護の基本姿勢(離脱期の看護・スリップの防止・心理支援) <p>11. 摂食障害の病態と看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分類(神経性無食症・神経性大食症)と特徴・疫学 ・症状(重症度と摂食障害にともなう身体症状・ボディイメージの混乱) ・治療(身体管理とリフィーディング症候群・心理教育) ・看護の基本姿勢(心理支援・身体管理・食行動支援) <p>12. パーソナリティ障害の病態と看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分類と特徴 ・境界性パーソナリティ障害の特徴と症状及び心理特性 ・薬物療法と精神療法 ・看護の基本姿勢(ボーダーラインシフト・スプリットティング行動への関わり方) <p>13. 強迫性障害の病態と看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診断と特徴(脅迫観念・脅迫更衣) ・症状(主要症状と家族の巻き込み) ・治療(曝露反応妨害法・薬物療法) ・看護の基本姿勢(心理支援・セルフケア支援) <p>不安障害の病態と看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不安障害の種類と特徴 ・症状 ・治療(抗不安薬) ・看護の基本姿勢(心理支援・セルフケア支援・発作時の対応) <p>14. 重度ストレス反応および適応障害の病態と看護・診断と特徴(PTSD及びASD)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症状 ・治療(薬物療法・心理教育) ・DPATの活動とサイコロジカルファーストエイド、トラウマインフォームドケア <p>多様な症状を示す精神障がい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解離性障害 ・身体表現性障害 ・神経症性障害(神経衰弱・虚偽性障害) ・症状精神病と心身症 						
評価方法	1. 終講試験 100%						
テキスト	精神保健 医歯薬出版 精神看護の基礎 医学書院			精神看護の展開 医学書院			
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の理解と創造	領域	看護の理解	分野	専門	領域	成人・老年看護学
年次・学期	3年次・通年		担当科	看護学科			
科目名	クリティカルケア実習 実習・80時間・2単位		教員名	看護学科教員			
概要及び目的	<p>あらゆる治療、あらゆる病期・病態にある人々に生じた、急激な生命の危機状態に対して心身の安定をはかり、順調な回復経過をたどって侵襲を受ける前の状態に戻ることを目指して行われる看護を理解する。</p> <p>この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。</p>						
到達目標	<p>看護師とともに行動し、全身状態の観察や苦痛の緩和、安楽な時間の提供、生活行動の支援や回復の促進などの援助の実際に参加することで、変化する病状をとらえ異常が生じていないかを判断し、急性期にある対象者の回復経過を支えるための看護を学ぶ。</p>						
授業内容	<p>※詳細は実習要項参照</p> <p>実習場所： 川崎医科大学附属病院または川崎医科大学総合医療センター</p>						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて評価を行う。 ・合否の可否は審議し、決定する。 						
テキスト	<p>実習要項 臨床外科総論 医学書院 呼吸器 医学書院 循環器 医学書院 成人看護学総論 医学書院</p>						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の理解と創造	領域	看護の理解	分野	専門	領域	成人・老年看護学
年次・学期	3年次・通年		担当科	看護学科			
科目名	セルフマネジメント看護実習 実習・120時間・3単位		教員名	看護学科教員			
概要及び目的	<p>継続治療および長期に症状コントロールを必要とする人が、自らの健康と生活をマネジメントしながらよりよく生きていくことを支える看護を理解する。</p> <p>この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。</p>						
到達目標	<p>継続治療および長期に症状コントロールを必要とする対象者の回復を支え、セルフケア能力を高めるための看護の役割について学ぶ。</p>						
授業内容	<p>※詳細は実習要項参照</p> <p>実習場所： 川崎医科大学附属病院または川崎医科大学総合医療センター</p>						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて評価を行う。 ・合否の可否は審議し、決定する。 						
テキスト	<p>実習要項 臨床看護総論、呼吸器、循環器、内分泌・代謝、血液・造血器、成人看護学総論 医学書院</p>						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の理解と創造	領域	看護の理解	分野	専門	領域	成人・老年看護学
年次・学期	3年次・前後期		担当科	看護学科			
科目名	療養生活を支える看護実習 120時間・3単位		教員名	看護学科教員			
概要及び目的	<p>入院治療を必要とする高齢者の疾患や入院生活によって低下した機能を回復維持し、できるだけ入院前に近い生活へと戻れるよう支援する看護の役割を学ぶ。</p> <p>この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。</p>						
到達目標	<p>さまざまな健康レベルにある高齢者の老年期の特性を踏まえ、療養生活を送る対象者の全体像を理解し安全・安楽・個別性に応じた看護が実践できる。</p> <p>高齢者が望む生活の在り方を目標に高齢者のもてる力を維持・継続させながら、保健医療チームと協働する看護の役割とヘルスケアシステムの活用をふまえた退院支援について理解する。</p>						
授業内容	<p>※詳細は実習要項参照</p> <p>実習場所 川崎医科大学附属病院または川崎医科大学総合医療センター</p>						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて評価を行う。 ・可否の可否は審議し、決定する。 						
テキスト	<p>実習要項</p> <p>老年看護学 医学書院</p> <p>老年看護・病態・疾患論 医学書院</p>						
備考	<p>参考文献:「生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図」医学書院</p> <p>「根拠と事故防止からみた老年看護技術 第3版」医学書院</p>						

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の理解と創造	領域	看護の理解	分野	専門	領域	母性看護学
年次・学期	3年次・前期後期		担当科	看護学科			
科目名	命をはぐくむ人への看護実習 実習・80時間・2単位		教員名	看護学科教員			
概要 及び 目的	<p>妊婦、産婦、褥婦、新生児の各期の生理的变化をふまえ、対象に応じた看護を学ぶ。また、新しい生命を迎える家族も含めた必要な看護について学ぶ。</p> <p>この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。</p>						
到達目標	<p>妊婦、産婦、褥婦、新生児やその家族との関わりをとおして、母子の生理的变化や母子相互作用、母子を取り巻く環境を考えながら、生命の尊さを理解し、母子や家族への援助が実践できる。</p>						
授業内容	<p>※詳細は実習要項参照</p> <p>実習場所 岡山中央病院または岡山地赤病院または岡山市民病院</p>						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて評価を行う。 ・合否の可否は審議し、決定する。 						
テキスト	<p>母性看護学概論 医学書院 母性看護学各論 医学書院</p>						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の理解と創造	領域	看護の理解	分野	臨地実習	領域	精神看護学
年次・学期	3年次・前後期		担当科	看護学科			
科目名	精神看護学実習 実習・80時間・2単位		教員名	看護学科教員			
概要及び目的	<p>精神に障がいがある対象者を理解し、対象の健康障害に応じた看護が実践できる基礎的能力を養う。</p> <p>この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。</p>						
到達目標	<p>精神に障がいがある対象者を理解し、尊厳と権利擁護を基盤に治療的関係^{※1}の構築をとおして自律性の回復^{※2}を支援する。</p> <p>※1:健康課題に関する目的を共有し、問題解決に向け協同する関係</p> <p>※2:対象となる人自らが思考・判断・行動することを通して自分のより良い生き方を見出すこと</p>						
授業内容	<p>※詳細は実習要項参照</p> <p>実習場所 河田病院または万成病院</p>						
評価方法	<p>評価基準表に基づいて、教員・指導者で協議し評価を行う。</p> <p>合格の可否は評価会議で審議し、決定する。</p>						
テキスト	<p>実習要項</p> <p>精神看護の基礎 医学書院</p> <p>精神看護の展開 医学書院</p> <p>社会保障・社会福祉 医学書院</p>						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の理解と創造	領域	看護の創造	分野	専門基礎	領域	疾病の成り立ちと回復の促進
年次・学期	1年次・後期		担当科	看護学科			
科目名	看護に活かす病態生理 講義・30時間・1単位		教員名	岩本 佳子			
概要及び目的	疾病をもつ対象者に適切な看護を行うためには、看護援助の知識に加え、その対象者の身体にどのような異常が生じているのか、またその異常が対象者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解する必要がある。そのため、看護学の視点から看護展開に活かすための人体の構造や機能について理解し、健康状態を的確に把握する能力の基盤となるよう演習をとおして学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次に学んだ解剖生理学の知識を活用し、人体模型を作成できる。 ・人体模型の作成に伴い、人体の構造の理解を深めることができる。 ・人体の構造から機能へと理解を深めることができる。 						
授業内容	回数	内容				評価指標	
	1～4回	人体の構造や機能の理解を深める ・人体模型の作成に向けて、各臓器の特徴をとらえ臓器の位置や関係性を明確にする。 ・臓器特有の機能についてまとめる。				ノートまとめ	
	5回	自分の推し臓器について、プレゼンテーション				プレゼン内容 アクションシート	
	6～14回	個人で、人体模型を作成する ・位置や臓器の関係性についてこだわること				・人体模型作成への参加 ・毎回の取り組みに関するアクションシート	
	15回	グループで作成した人体模型について、プレゼンテーションを行う。				人体模型 プレゼンテーション	
評価方法	1. 出席点:活動(20%) 2. 成果物:ノート・人体模型(40%) 3. プレゼンテーション(20%) 4. アクションシート:人体に関する学習含む(20%) 提出期限が守れない、欠席によりプレゼンテーション等に参加できない場合は減点する。						
テキスト	解剖生理学 医学書院 病理学 医学書院 臨床看護総論 医学書院 臨床外科看護学総論 医学書院						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の理解と創造	領域	看護の創造	分野	専門基礎	領域	疾病の成り立ちと回復の促進
年次・学期	2 年次・後期		担当科	看護学科			
科目名	看護に活かす疾病と治療 講義・30 時間・1 単位		教員名	都甲 裕美・山下 敬子			
概要及び目的	<p>疾病により治療をうける対象者の回復過程を支えるためには、その対象者に行われる治療や処置がどのような目的で行われるのか、治療後の経過を見極め、異常の早期発見につながる症状や徴候にはどのようなものがあるのか理解する必要があります。そのため、看護学の視点から学んだ個々の知識を活用し、いまこの状態にある対象者をどのようにとらえ、何をすべきかを判断する臨床判断能力の基礎を学ぶ。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・機能カードを完成させることができる。 ・5つの視点を用いて治療過程にある対象者を理解することができる。 ・学んだことを1年生にプレゼンテーションすることができる。 						
授業内容	<p>1～2. 人体の機能の理解を深める(機能カード作り) (講義) 看護に活かす病態生理でした発表した内容からの追加・修正(臓器が障害されることで出る症状・徴候を整理。その症状・徴候をどのように観察するのか明確にする)</p> <p>3～4. 基礎看護学実習Ⅰ-Ⅱの受け持ちの『健康障害の種類』を分析 (個人ワーク)</p> <p>5～6. 基礎看護学実習Ⅰ-Ⅱの受け持ちの『健康の段階』を分析 (個人ワーク)</p> <p>7～8. 基礎看護学実習Ⅰ-Ⅱの受け持ちの『生活過程』を分析 (個人ワーク)</p> <p>9～11. 基礎看護学実習Ⅱの受け持ちの障害臓器について説明できる 漫画を作成。(臓器の構造と機能、その臓器が障害されたらどのような症状が起きるのかがわかるように作成。また自分の対象者はどうだったのか比較して出す。) (1年生と合同ワーク)</p> <p>12. 作成した漫画・人体模型を使用して1年生へ講義(個人ワーク)</p> <p>13～14. 基礎看護学実習Ⅱの受け持ちの全体像を関連図で表す(個人ワーク) (病態関連図を受け持ちの情報を入れ整理する。)</p> <p>15. 関連図に出た合併症・二次的障害について必要な看護を整理する</p>						
評価方法	<p>1. 出席点(10%) 2. 成果物(50%) 3. プレゼンテーション(20%) 4. アクションシート(20%) 提出期限が守れない、欠席によりプレゼンテーション等に参加できない場合は減点する。</p>						
テキスト	<p>解剖生理学 医学書院 病理学 医学書院 臨床看護総論 医学書院 臨床外科看護学総論 医学書院</p>						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の理解と創造	領域	看護の創造	分野	専門	領域	基礎看護学
年次・学期	2年次・前期		担当科	看護学科			
科目名	研究的思考と看護理論 講義・15時間・1単位		教員名	大森 和子			
概要及び目的	看護を科学的に考え実践する能力を身につけるために、看護における研究の基礎的知識について学習する。また、看護における知識を体系化し、看護に関連した現象を説明するための枠組みである看護理論において代表的な看護理論家の考えに触れる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・看護研究の目的や意義について説明できる ・看護研究論文を読んで内容が理解できる。 ・研究における倫理的配慮について説明できる。 ・看護研究の種類と研究計画書の意義について説明できる。 ・看護理論(ヴァージニア＝ヘンダーソン)を通して実習における自己の「観察」に関する振り返りができる。 						
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究論文を読む(事例研究)、解説 2. 看護研究論文を読む(実験研究)、解説 3. 看護研究論文を読む(調査研究)、解説 4. 看護研究とは(研究の目的、意義) 看護研究の方法と進め方・看護研究の種類と研究計画書の意義 5. 研究における倫理的配慮について 6. 文献の意義と文献検索の方法について 7. 文献検索の実際(パソコン教室にて演習) 8. ヴァージニア＝ヘンダーソンの看護理論を活用した研究論文を通して「観察」について考える 						
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験(70点) 2. グループ課題、レポート(30点) 3. 授業態度、出席状況 この3つを総合して評価します。 						
テキスト	配布資料 基礎看護技術 I 医学書院 「看護研究」医学書院						
備考	看護を科学的に考え実践する能力を身につけるために、看護における研究の基礎的知識について学習する。また、看護における知識を体系化し、看護に関連した現象を説明するための枠組みである看護理論において代表的な看護理論家の考えに触れる。						

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の理解と創造	領域	看護の創造	分野	専門	領域	基礎看護学
年次・学期	2年次・前期		担当科	看護学科			
科目名	看護研究の実際 講義・15時間・1単位		教員名	看護学科教員			
概要及び目的	<p>実習で体験した事例について文献と照らし合わせてケースレポートとして看護を科学的に分析する。その過程においてうまくいった点やうまくいかなかった点を明確にし、今後のよりよい看護実践を追求する手がかりとする。また、その結果、看護を提供する者として常に看護を振り返る重要性を理解する。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースレポートをよりよいものにしようとしている。 ・テーマから結論までの主張が一貫している。 ・必要な情報を的確に記述し、看護での実際を分析する。 ・よりよい看護を提供するために科学的理論的根拠に基づく必要を理解している。 						
授業内容	<p>基礎看護学実習Ⅱで受け持った対象者の看護をテーマ・はじめに・事例紹介・実際・考察・結論の構成でケースレポートとしてまとめる。</p> <p>1～2. 対象者の事例紹介を明確にする。 3～5. 実施した看護を看護、目標、実際がどうであったか分析する。 6～8. 文献を活用して考察し、科学的に分析する。</p>						
評価方法	1. レポート課題100%						
テキスト	配布資料 看護研究 医学書院						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の理解と創造	領域	看護の創造	分野	専門	領域	基礎看護学
年次・学期	1年次・前・後期		担当科	看護学科			
科目名	日常生活行動を支える技術評価 講義・30時間・1単位		教員名	植木 敦子・松浦 祐美子			
概要 及び 目的	複数の看護技術を用いて対象者の状態に応じた看護実践を判断・選択し、倫理的判断に基づき安全・安楽・自立の視点をもって看護実践ができる基礎的能力を身に付ける。						
到達目標	対象者に合わせた日常生活援助を選択することができる 日常生活援助を安全・安楽に実践することができる						
授業内容	1. 環境を整える技術評価 快適な療養環境の整備、臥床患者のリネン交換、体位変換・保持 2. 日常生活援助技術評価 清拭、足浴・手浴、洗髪、点滴、ドレーンなどを留置している患者の寝衣交換						
評価方法	技術評価50% 筆記試験30% 課題・提出物20%(各期、初回導入時に説明)						
テキスト	基礎看護技術Ⅰ 医学書院 基礎看護技術Ⅱ 医学書院						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の理解と創造	領域	看護の創造	分野	専門	領域	地域・在宅看護論
年次・学期	2年次・後期		担当科	看護学科			
科目名	在宅での医療管理と看護 講義・30時間・1単位		教員名	山本 晃代			
概要及び目的	地域包括ケアシステムの構築により、在宅において医療処置を受けながら療養する人は増え、それに伴い在宅での看護師の役割も高まっている。ここでは、在宅で療養している医療依存度の高い対象者や家族が、支援を受けながら、自律した生活がおくれるようにするための看護の役割を学ぶ。特に在宅で医療管理を行うあたり頻度の高い診療の補助技術に関する看護について演習をとおして学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅で療養している人が受けている主な医療処置の特徴とその看護のポイントを述べることができる。 ・COPD 及び ALS の病態を述べることができる。 						
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養で頻度の高い医療処置とそれを支える訪問看護制度について 2～3. 在宅中心静脈栄養法 (HPN) を受ける療養者の看護 4. 尿道留置カテーテルを装着中の療養者の看護 5～6. 在宅酸素療法を受ける (HOT) 療養者 (COPD) の看護 7～8. 気管カニューレを装着中の療養者の看護 9～13. ALS療養者の看護 (人工呼吸器装着・胃ろう造設) 14. まとめ 15. 終講試験 						
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験80% 2. レポート課題20% 3. 出席状況・態度 						
テキスト	地域・在宅看護 基礎 医学書院 消化器 医学書院 地域・在宅看護 実践 医学書院 呼吸器 医学書院 脳神経 医学書院 配布資料						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の理解と創造	領域	看護の創造	分野	専門	領域	成人看護学
年次・学期	2年次・後期		担当科	看護学科			
科目名	成人の健康レベルに対応した看護プロセス 講義・30時間・1単位		教員名	清水 恵子・岡島 淳美			
概要 及び 目的	成人期にある人の事例をもとに、あらゆる健康レベルに対応した特徴的な看護について理解する。また知識を活用して根拠に基づいて実践する看護のプロセスを理解し、必要な知識技術を身につける。さらにグループワークをとおして意見を交換し、演習をとおして他者から学ぶ力やプレゼンテーション能力を高める。						
到達目標	成人の健康レベルに対応する看護実践をおこなうためのプロセスを理解できる。						
授業内容	<p>あらゆる健康レベルの事例をもとに看護展開を行い、各健康レベルに応じた必要な看護を理解できる。</p> <p>(急性期～回復期)</p> <ul style="list-style-type: none"> 急性期に必要な看護について疾患、病態、解剖生理などの知識を学習しながら、対象者に必要な観察の根拠や看護について理解する 胸腔ドレナージ管理などの演習 低圧持続吸引機、IVACを使用している患者の観察とアセスメント <p>(慢性期)</p> <ul style="list-style-type: none"> 長期的に継続治療を行う対象者は症状コントロールやセルフケアが必要になる。 病気と向き合い、安心して日常生活を送るために主体的に自己の状態をセルフマネジメントするには何が必要かを事例をとおして考える。 対象者に必要な教育・指導について考え、パンフレットとしてまとめる。 						
評価方法	急性期～回復期(50%) 慢性期(50%) 評価基準表を参照とする						
テキスト	成人看護学総論 医学書院 消化器 医学書院 脳神経 医学書院 女性生殖器 医学書院 呼吸器 医学書院 内分泌 医学書院						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の理解と創造	領域	看護の創造	分野	専門	領域	老年看護学
年次・学期	2年次・ 後期		担当科	看護学科			
科目名	高齢者の療養生活を支える看護プロセス 講義・30 時間・ 1 単位		教員名	松浦 祐美子 他			
概要 及び 目的	<p>高齢者疑似体験や療養生活を送る高齢者の模擬患者事例展開をとおして、加齢による機能変化や老年期の発達課題と健康障害との関連性、健康の段階、生活過程の特徴、もてる力をアセスメントする。また療養環境や全身状態から考えられるリスクを予測し、安全・安楽な看護を提供するために必要な方法を学ぶ。介護老人保健施設の見学実習をとおして、療養の場から日常生活の場へ戻る高齢者の生活機能の維持・回復をめざした看護の役割を理解する。</p>						
到達目標	<p>○高齢者模擬体験 ・疑似体験により感覚機能の低下（特に視力、聴力）や手足の関節の運動が制限され、通常の高齢者が長年の経過の中で体験する身体の変化を体験できる ・動作が緩慢になり周囲の情報の認識が低下し、転倒などの危険が伴うことに気づくことができる ・機能低下に伴う高齢者の心理状態を理解することができる</p> <p>○模擬患者事例展開 ・受け持った模擬患者の事例展開（5つの視点をふまえたアセスメント、看護の方向性）ができる</p> <p>○演習 ・嚥下について、口腔ケア、義歯ケアなど</p> <p>○見学実習 ・高齢者の生活機能低下が日常生活の及ぼしている影響をふまえ、機能回復・維持を図り、在宅復帰に向け、施設サービスを利用している高齢者への看護師の役割について学ぶ</p>						
授業内容	<p>1. 高齢者の療養生活を支える看護プロセス、授業予定（模擬患者事例展開、模擬事例患者紹介、老年疑似体験演習）導入、グループ編成、加齢変化のまとめ</p> <p>2. 加齢変化のまとめ</p> <p>3・4. 老年疑似体験演習</p> <p>5. 加齢変化のまとめや高齢者疑似体験をもとに、高齢者の日常生活における危険予測と対策</p> <p>6～8. 事例展開個人ワーク</p> <p>9・10. ケアシステムの活用について</p> <p>11・12. 高齢者の「食べる」を支えるための演習</p> <p>13・14. 介護老人保健施設への見学実習</p> <p>15. 試験</p>						
評価方法	提出物、試験、出席（合計 100%） 提出期限が守れない、学習内容が著しく乏しい場合は減点する。						
テキスト	<p>老年看護学 医学書院</p> <p>老年看護・病態・疾患論 医学書院</p>						
備考	<p>参考図書：「生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図」医学書院</p> <p>「根拠と事故防止からみた老年看護技術 第3版」医学書院</p>						

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の理解と創造	領域	看護の創造	分野	専門	領域	小児看護学
年次・学期	2年次・後期		担当科	看護学科			
科目名	子どもを支援するための看護プロセス 講義・30時間・1単位		教員名	賀川 奈美			
概要 及び 目的	子どもの健康障害によって生じる子どもの反応や成長発達への影響、家族への影響をふまえ、健康状態に応じた看護の方法について学習する。また、小児看護で必要となる看護技術を習得し、看護過程の展開について演習をとおして学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 事例患児の看護展開ができる 正確な小児のバイタルサイン測定や観察ができる 対象患児に必要なプレパレーション、ディストラクションが実施できる 						
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1～3. 事例の患児について全体像を理解し看護の方向性を考える (発達段階・健康障害の種類・健康の段階を分析して看護の方向性を考える) *発達段階の中では、児の身体・精神・社会的発達について分析すること (講義) 評価:全体像の理解(5) 振り返り・リフレクション(5) 4. プレゼンテーション(自分の考えた看護の方向性について発表) 看護の方向性について(確認) (講義) 評価:振り返り・リフレクション(5) 5～6. 看護の方向性に合わせて看護計画を記入する *6回目に知識テストを実施 (講義) 評価:実践用紙(5) 知識テスト(30) 7. バイタルサイン測定、身体計測(プレパレーション、ディストラクションを考える) (講義) 8. バイタルサイン測定、身体計測(演習) 評価:振り返り・リフレクション(アクションシートも含む)(5) 9. 事例の患児に対して遊びの提案 (入院という慣れない環境の中で、安全で安心して過ごせるための遊びを提案する) (講義) 評価:ノート(5) 10. プレゼンテーション(自分の考えた遊びの提案について発表) (講義) 評価:振り返り・リフレクション(5) 11. 事例の家族の思いについて考え、看護を考える(講義) 評価:ノート(5) 12. 「小児看護における看護師の役割」について 講師:独立行政法人国立病院機構岡山医療センター 小児救急看護認定看護師 (講義) 評価:事前学習(5) 振り返り・リフレクション(5) 13～14. 独立行政法人国立病院機構岡山医療センター 小児病棟等見学実習 (臨地実習) 評価:見学実習後まとめ(10) 振り返り・リフレクション(5) 15. 見学実習まとめ発表 (講義) 評価:ノート(5) 						
評価方法	知識試験(30%)、提出物(70%) 出席状況、提出期限が守れない、学習内容が著しく乏しい場合は減点する						
テキスト	小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 小児臨床看護各論 医学書院						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の理解と創造	領域	看護の創造	分野	専門	領域	母性看護学
年次・学期	2年次・後期		担当科	看護学科			
科目名	命をはぐくむ人への看護プロセス 講義・30時間・1単位		教員名	酒井 文穂			
概要 及び 目的	周産期の事例をもとに事例展開をとおして母性特有の臨床判断能力、看護技術、コミュニケーション能力を高め、母性看護実践の基礎能力を養う。グループでの演習をとおして、チームの中の一員としての自覚と役割を意識し協力しながら学びを共有する。						
到達目標	周産期の事例をとおして、母性看護の専門的な視点を持ち、経過に応じた看護実践のための看護計画の立案ができる。またグループでの演習をとおして協働の意識を持ち、臨地実習に活かすことができる。						
内容	1～2 妊娠・分娩・産褥・新生児期にある人の情報収集 3～5 妊娠・分娩・産褥・新生児期にある人の全体像の把握(情報のアセスメント) 6～7 分娩期にある人への看護計画立案 8～9 産褥期にある人への看護計画立案 10～11 新生児期にある人への看護計画立案 12 退院指導パンフレット作成 13～14 妊娠期・産褥期・新生児期の看護技術演習 レオポルド触診法・子宮底触診(褥婦の観察)・新生児の観察・沐浴・更衣・おむつ交換 15 知識確認試験						
評価方法	知識試験(30%)、提出物(70%) 出席状況、提出期限が守れない、学習内容が著しく乏しい場合は減点する						
テキスト	母性看護学概論 医学書院 母性看護学各論 医学書院						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の理解と創造	領域	看護の創造	分野	専門	領域	母性看護学
年次・学期	2年次・後期		担当科	看護学科			
科目名	精神障がいがある人を支える看護プロセス 講義・15時間・1単位		教員名	岡田 麻理子			
概要 及び 目的	精神看護は信頼関係の構築をベースに絶えず関わりの中で展開され、看護師は治療環境の一部である。自らが治療環境として作用するためには専門的視点において対象者を理解し、自らを活用して対象者のパーソナリティに働きかける技術が必要である。この科目では対象者と自分の境界を尊重しながら対人関係を構築し、精神に障がいがある人への看護の基礎的知識について学ぶ。また、精神の危機的状況にある人の安全を守るためのリスクマネジメントについて学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. MSEを活用して精神に障害がある人のアセスメントができ、自律性回復のための看護計画が立案できる 2. 患者—看護師関係発展のためのコミュニケーションスキルを理解できる 3. 自己洞察をとおして自己の傾向を理解できる 4. 危機的状況へのリスクアセスメント及び介入方法が理解できる 						
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1～2. 導入 精神看護展開におけるアセスメント技術(MSE) 精神看護の展開 3. 事例展開:アセスメント 授業内時間内で課題 4. 事例展開:看護計画立案 授業時間内で課題 5. 事例まとめ 6. コミュニケーション技術 プロセスレコードの活用 ワーク及び講義外課題提示 7. 危機介入 事故防止と行動制限 災害対策 8. 終講試験 アセスメント試験 						
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題(40%) 2. 出席状況(10%) 3. 終講義試験(50%) テキストおよび講義資料持ち込み可 						
テキスト	精神看護の基礎 医学書院 精神看護の展開 医学書院						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の理解と創造	領域	看護の創造	分野	専門分野	領域	看護の統合と実践
年次・学期	2年次・前期・後期			担当科	看護学科		
科目名	国際・災害看護 講義・30時間・1単位			教員名	岩本 美代子・田崎 修平		
概要及び目的	<p>【国際看護】世界的な保健医療福祉の課題を理解し、その対策の取り組みを理解する。また、グローバルヘルスの考え方を理解し、世界中の人が平等に健康を維持・回復できるよう、国際救援および協力のしくみと、活動する際に重要な人道支援の原則についても学ぶ。国や人種、価値観など人は様々である。その多様性を受け入れて、その人に応じた看護を実践する重要性を学ぶ。</p> <p>【災害看護】災害発生時の準備、災害発生直後から復旧支援、中長期までの各期における看護活動を学ぶ。被災直後のトリアージや心肺蘇生法、急変時の対応について学ぶ。</p>						
到達目標	<p>【国際看護】世界的な保健医療福祉の課題とグローバルヘルスの考え方を理解し、世界中の人が平等に健康を維持・回復できるよう国際救援および協力のしくみと、活動する際に重要な人道支援の原則についても学ぶ。</p> <p>【災害看護】災害発生時の準備、災害発生直後から復旧支援、中長期までの各期における看護活動を学ぶ。被災直後のトリアージや心肺蘇生法、急変時の対応について学ぶ。</p>						
授業内容	<p>【国際看護】(岩本)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界の健康問題の現状、国際看護学の定義・対象 2. 国際協力のしくみ(国連機関・政府機関・非政府組織) 3. 近年の世界における災害と難民・国内避難民の現状と支援 4. グローバルヘルス、国際協力と看護の役割について考える 5. 日本と異なる文化の理解(異文化とは) 6. AMDAにおける国際救援活動の実際 7. UNICEFにおける国際救援活動の実際 8. 日本の外国人に対する看護の現状、今後の国際社会の発展 <p>【災害看護】(田崎)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マスギャザリングとリスク管理(BLS:一次救命処置演習) 2. 心停止につながるサインをみつけよう 3. 災害医療の概要 4. 災害時トリアージの仕組み 5. 災害発生時トリアージ(演習) 6. 災害発生前の準備と発災後の避難所での看護について(演習) 7. 避難所看護とこころのケア 8. 終講試験 						
評価方法	<p>災害看護:(終講試験50%) 国際看護:(課題提出、レポート、出席・授業態度50%)</p>						
テキスト	看護の統合と実践 災害看護学・国際看護学:医学書院						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の理解と創造	領域	看護の創造	分野	専門分野	領域	看護の統合と実践
年次	3年次・後期		担当科	看護学科			
科目名	看護のマネジメント実習 実習 40 時間・1 単位		教員名	看護学科教員			
概要 及び 目的	<p>臨床の状況に即した看護実践に主体的に取り組み、保健医療福祉チームの一員として看護を実践する基礎的能力を育成する。</p> <p>この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。</p>						
到達目標	<p>看護師長、リーダー、認定・専門看護師、検査・外来部門など、今まで体験していない様々なマネジメントについて学び、保健医療福祉チームの一員として看護師が行う業務や多職種連携についての理解を深め、看護師としての役割や責任について考えることを目指す。</p>						
授業内容	<p>※詳細は実習要項参照</p> <p>実習場所 川崎医科大学附属病医または、川崎医科大学総合医療センター</p>						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて行い、合格は60点以上とする。 ・合否の可否は審議し、決定する。 						
テキスト	看護管理 医学書院						
備考							

教育課程独自体系				指定規則			
分野	看護の理解と創造	領域	看護の創造	分野	専門分野	領域	看護の統合と実践
年次	3年次・後期		担当科	看護学科			
科目名	看護の統合実習 実習・40時間・1単位		教員名	看護学科教員			
概要及び目的	<p>臨床の状況に即した看護実践に主体的に取り組み、保健医療福祉チームの一員として看護を実践する基礎的能力を育成する。</p> <p>この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。</p>						
到達目標	<p>より臨床に即した状況で看護実践に看護師とともに行動することにより、多重課題の中で看護を実践する方法を理解する。この2つの実習を同時に行うことで、臨床との乖離を調整し看護師として働く自己の課題および看護専門職を目指すものとしての自覚と責任および倫理観を明確にすることを旨とする。</p>						
授業内容	<p>※詳細は実習要項参照</p> <p>実習場所 川崎医科大学附属病院 または、川崎医科大学総合医療センター</p>						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて行い、合格は60点以上とする。 ・合否の可否は審議し、決定する。 						
テキスト	看護管理 医学書院						
備考							